

# 史跡 齋宮跡

平成15年度発掘調査概報

2005年3月

齋宮歴史博物館





第140次調査区全景（上空から）



第141次調査区 SF 8945（南西から）







# 序

史跡東部では、これまでの調査の成果により、平安時代を中心とした斎宮跡の様相が明らかとなっていることに対し、史跡西部では解明が進んでいませんでした。このことを踏まえ、平成14年度から史跡西部の状況を把握するために幅4mのトレンチによる計画調査を5ヵ年計画で実施しています。

平成15年度については、2ヶ所の計画調査を行ないました。史跡東部で行なった第140次調査は、主神司区画南部の状況把握を目的としたものです。また、史跡西部で行なった第141次調査は、「初期斎宮」の状況を把握するもので、5ヵ年の計画の2年目に当たります。それぞれの成果については本文のなかで各担当が述べておりますのでぜひ御味読ください。

史跡斎宮跡では約30年間にわたり発掘調査を継続しており、かなりのデータが蓄積されているわけですが、それでも毎年の調査によって新たな発見や疑問点が出てきます。地元は言うまでもなく、日本国民共通の財産として、史跡斎宮跡に関する「知の情報」を今後も提供し続けていきたいと思っております。

史跡斎宮跡の保存と調査研究・整備にあたりましては、地元明和町在住の方々、明和町および関係機関、斎宮跡調査研究指導委員をはじめとする諸先生方や文化庁から、有形無形の援助を頂いております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2005（平成17）年3月

斎宮歴史博物館

館長 吉村 裕之



# 例 言

- 1 本書は、齋宮歴史博物館が平成 15 年度に国庫補助金を受けて実施した史跡齋宮跡発掘調査（第 140・141 次調査）の概要をまとめたものである。
- 2 明和町教育委員会が、国庫補助金の交付を受け調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の第 142 次調査報告書は、別途明和町教育委員会が刊行している。
- 3 遺構の実測にあたっては、日本測地系による国土調査法（旧国土座標）の第 VI 座標系を基準とし、方位は旧国土座標による座標北で示している。
- 4 遺構時期区分の指標となる土器の分類と時期認定については、「齋宮跡の土器」（『齋宮跡発掘調査報告』I 齋宮歴史博物館 2001 年）による。
- 5 遺構表示記号は次のとおりである。  
SB；掘立柱建物 SD；溝 SE；井戸 SF；道路 SH；竪穴住居 SK；土坑  
SX；土墳墓・墓 SZ；落ち込み・その他 pit；柱穴
- 6 遺物実測図は実物の 4 分の 1 を基本とし、資料の性格に応じて変更したものもある。遺物写真とはとくに指定したもの以外は縮尺不同である。
- 7 出土遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行『新版標準土色帖』（1995 年版）に拠る。なお、施釉陶器の釉薬の色調については、大日本インキ化学工業株式会社発行「日本の伝統色」（第 5 版）に拠る。
- 8 遺物の文字表現には、材質の差による漢字の偏に必ずしも従うことなく、「わん」は「碗」、「つき」は「杯」を用いている。
- 9 第 II - 2 表の土器計測は SK 8842 全出土土器に対して行い、その方法については平成 13 年度発掘調査概報に準じた。第 II - 19 図および第 II - 20 図は本報告に掲載した土器のデータを用いて作図した。
- 10 本書の執筆は、竹内英昭・小濱 学・才木 薫があたり、目次および文末に記した。編集は調査研究グループで行った。また、発掘調査および資料整理については、西村秋子・杉原泰子・八木光代・長島悠子のほか、次の学生諸氏の参加があった。

清野陽一・大久保幸枝（以上、三重大学）



# 目 次

I	前言	小濱 学	1
II	第 140 次調査	竹内英昭・才木 薫	7
III	第 141 次調査	小濱 学	46

## 挿 図 目 次

第 I - 1 図	史跡斎宮跡位置図	2	第 III - 1 図	第 1 4 1 次調査区 大地区・グリッド図	46
第 I - 2 図	平成 15 年度発掘調査区位置図	3	第 III - 2 図	第 1 4 1 次調査区 位置図	47
第 I - 3 図	斎宮跡方格地割区画名称	5	第 III - 3 図	第 1 4 1 次調査区 土層断面図	48
第 I - 4 図	史跡斎宮跡における大地区	6	第 III - 4 図	第 1 4 1 次調査区 遺構平面図第 1 検出面部分	49・50
第 II - 1 図	第 1 4 0 次調査区 大地区・グリッド図	7	第 III - 5 図	第 1 4 1 次調査区 遺構平面図第 2 検出面部分	51・52
第 II - 2 図	第 1 4 0 次調査区 位置図	7	第 III - 6 図	第 1 4 1 次調査区 S B 8946	53
第 II - 3 図	第 1 4 0 次調査区 土層図・平面図	8		平面・断面図	53
第 II - 4 図	第 1 4 0 次調査区 S B 8853・8854・8855	10	第 III - 7 図	第 1 4 1 次調査区 S H 8885・8886	54
	平面・断面図	10		平面・断面図	54
第 II - 5 図	第 1 4 0 次調査区 S B 8857・8858・8859・8860	11	第 III - 8 図	第 1 4 1 次調査区 S H 8903・8917	55
	平面・断面図、S B 8858 柱穴土層断面図	11		平面・断面図	55
第 II - 6 図	第 1 4 0 次調査区 S B 8861・8862・8863	12	第 III - 9 図	第 1 4 1 次調査区 S K 8883、S X 8880	56
	平面・断面図	12		平面・断面図	56
第 II - 7 図	第 1 4 0 次調査区 S B 8856	13	第 III - 10 図	第 1 4 1 次調査区 S B 8931・8932・8933・8934	57
	平面・断面図	13		平面・断面図	57
第 II - 8 図	第 1 4 0 次調査区 S E 8850、S K 8842	14	第 III - 11 図	第 1 4 1 次調査区 S B 8935・8936	58
	平面・断面図	14		平面・断面図	58
第 II - 9 図	第 1 4 0 次調査区 S K 8852	15	第 III - 12 図	第 1 4 1 次調査区 S H 8888・8891	59
	平面・断面図	15		平面・断面図	59
第 II - 10 図	第 1 4 0 次調査区 出土遺物実測図 (1)	16	第 III - 13 図	第 1 4 1 次調査区 S H 8884	60
第 II - 11 図	第 1 4 0 次調査区 出土遺物実測図 (2)	17		平面・断面図	60
第 II - 12 図	第 1 4 0 次調査区 出土遺物実測図 (3)	19	第 III - 14 図	第 1 4 1 次調査区 S F 8945	61
第 II - 13 図	第 1 4 0 次調査区 出土遺物実測図 (4)	20		平面・断面図	61
第 II - 14 図	第 1 4 0 次調査区 出土遺物実測図 (5)	21	第 III - 15 図	第 1 4 1 次調査区 S B 8937・8938・8939・8940・	62
第 II - 15 図	第 1 4 0 次調査区 出土遺物実測図 (6)	22		8941・8942 平面・断面図	62
第 II - 16 図	第 1 4 0 次調査区 出土遺物実測図 (7)	23	第 III - 16 図	第 1 4 1 次調査区 出土遺物実測図 (1)	66
第 II - 17 図	第 1 4 0 次調査区 出土遺物実測図 (8)	24	第 III - 17 図	第 1 4 1 次調査区 出土遺物実測図 (2)	67
第 II - 18 図	第 1 4 0 次調査区 建物変遷図	26	第 III - 18 図	第 1 4 1 次調査区 出土遺物実測図 (3)	68
第 II - 19 図	第 1 4 0 次調査区 S K 8842 土師器供膳具法量散布図	27	第 III - 19 図	第 1 4 1 次調査区 出土遺物実測図 (4)	69
第 II - 20 図	第 1 4 0 次調査区 S K 8842 土師器供膳具口径分布図	27	第 III - 20 図	第 1 4 1 次調査区 出土遺物実測図 (5)	70
第 II - 21 図	第 1 4 0 次調査区 西加座南区画東半北部建物群配置図	28	第 III - 21 図	道路側溝検出状況	73
			第 III - 22 図	道路跡想定図	74



## 写真図版目次

卷頭 第140次調査区全景、第141次調査区道路遺構	
第Ⅱ-1 第140次調査 遺構(1)……………	38
第Ⅱ-2 第140次調査 遺構(2)……………	39
第Ⅱ-3 第140次調査 遺構(3)……………	40
第Ⅱ-4 第140次調査 遺構(4)……………	41
第Ⅱ-5 第140次調査 遺物(1)……………	42
第Ⅱ-6 第140次調査 遺物(2)……………	43
第Ⅱ-7 第140次調査 遺物(3)……………	44
第Ⅱ-8 第140次調査 遺物(4)……………	45
第Ⅲ-1 第141次調査 遺構(1)……………	78
第Ⅲ-2 第141次調査 遺構(2)……………	79
第Ⅲ-3 第141次調査 遺構(3)……………	80
第Ⅲ-4 第141次調査 遺構(4)……………	81
第Ⅲ-5 第141次調査 遺構(5)……………	82
第Ⅲ-6 第141次調査 遺構(6)……………	83
第Ⅲ-7 第141次調査 遺構(7)……………	84
第Ⅲ-8 第141次調査 遺構(8)……………	85
第Ⅲ-9 第141次調査 遺構(9)……………	86
第Ⅲ-10 第141次調査 遺物(1)……………	87
第Ⅲ-11 第141次調査 遺物(2)……………	88
第Ⅲ-12 第141次調査 遺物(3)……………	89
第Ⅲ-13 第141次調査 遺物(4)……………	90
第Ⅲ-14 第141次調査 遺物(5)……………	91
第Ⅲ-15 第141次調査 遺物(6)……………	92

## 表目次

第Ⅰ-1表 平成15年度発掘調査一覧……………	4
第Ⅱ-1表 第140次調査区緑釉陶器出土地点・破片数一覧……………	25
第Ⅱ-2表 第140次調査区SK 8842出土土器組成表……………	27
第Ⅱ-3表 第140次調査区遺構一覧表……………	29
第Ⅱ-4表 第140次調査区掘立柱建物一覧表……………	30
第Ⅱ-5表 第140次調査区出土遺物観察表(1)……………	31
第Ⅱ-6表 第140次調査区出土遺物観察表(2)……………	32
第Ⅱ-7表 第140次調査区出土遺物観察表(3)……………	33
第Ⅱ-8表 第140次調査区出土遺物観察表(4)……………	34
第Ⅱ-9表 第140次調査区出土遺物観察表(5)……………	35
第Ⅱ-10表 第140次調査区出土遺物観察表(6)……………	36
第Ⅱ-11表 第140次調査区出土遺物観察表(7)……………	37
第Ⅲ-1表 第141次調査区遺構一覧表……………	63
第Ⅲ-2表 第141次調査区竪穴住居一覧表……………	64
第Ⅲ-3表 第141次調査区掘立柱建物一覧表……………	64
第Ⅲ-4表 第141次調査区出土遺物観察表(1)……………	75
第Ⅲ-5表 第141次調査区出土遺物観察表(2)……………	76
第Ⅲ-6表 第141次調査区出土遺物観察表(3)……………	77
第Ⅲ-7表 第141次調査区緑釉陶器出土地点・破片数一覧……………	77



# I 前 言

## 1 調査の経緯と概要

史跡齋宮跡は、後に齋宮歴史博物館が建設された古里地区での宅地開発計画に伴い昭和45年に発掘調査が始まり、文化庁の補助事業として昭和48年から開始した範囲確認調査を経て、昭和54年3月27日に国の史跡に指定された。県は史跡指定に伴い齋宮跡調査事務所を設置して発掘調査に当たり、平成元年からは齋宮歴史博物館を建設し、史跡解明の計画調査を継続して実施している。

齋宮跡の発掘調査は、これまでの発掘調査成果の蓄積から史跡東部に存在すると考えられる平安時代の齋宮跡解明が中心となって進められてきたが、史跡西部に所在すると想定されてきた飛鳥・奈良時代の齋宮跡を解明することも重要な課題として残っており、この課題解明のため平成13年度には第132次調査として面調査を実施している。

### 発掘調査

史跡東部の調査では、齋宮寮の中枢部である内院地区の可能性が強い牛葉・鍛冶山地区の調査、その最北端の寮庫推定区画について、これまでの数次にわたる調査で区画の解明がほぼ終了しているが、この両者の区画間の神殿推定区画については、西半部の解明が進んでいるものの、東半部については不明な点が多いため、平成14年度の第136次調査に引き続き、本年度は第140次調査を実施した。

史跡西部の飛鳥・奈良時代齋宮跡の調査は対象地域が広いため、効率を考えてトレンチ調査による範囲確認調査を平成14年度から5カ年計画で開始することとなった。今年度も引き続き齋宮歴史博物館南側の旧竹神社周辺で第141次調査を実施した。なお、各次数の調査内容については本文を参照されたい。

## 2 調査体制

史跡齋宮跡の調査・整備に関する業務は、齋宮歴史博物館調査研究グループが担当した。当報告に関わる組織は以下の体制で行った。

### 平成15年度

泉 雄二（主幹兼グループリーダー）  
竹内英昭（主査）  
伊藤裕偉（技師兼学芸員）  
小瀨 学（主事兼学芸員）

### 平成16年度

新田 洋（主幹兼グループリーダー・平成16年8月31日迄）  
竹内英昭（主査・平成16年8月31日迄、主査兼グループリーダー・平成16年9月1日から）  
小瀨 学（主事兼学芸員）  
柴山圭子（主事）  
才木 薫（専門業務補助職員・平成16年9月1日から）

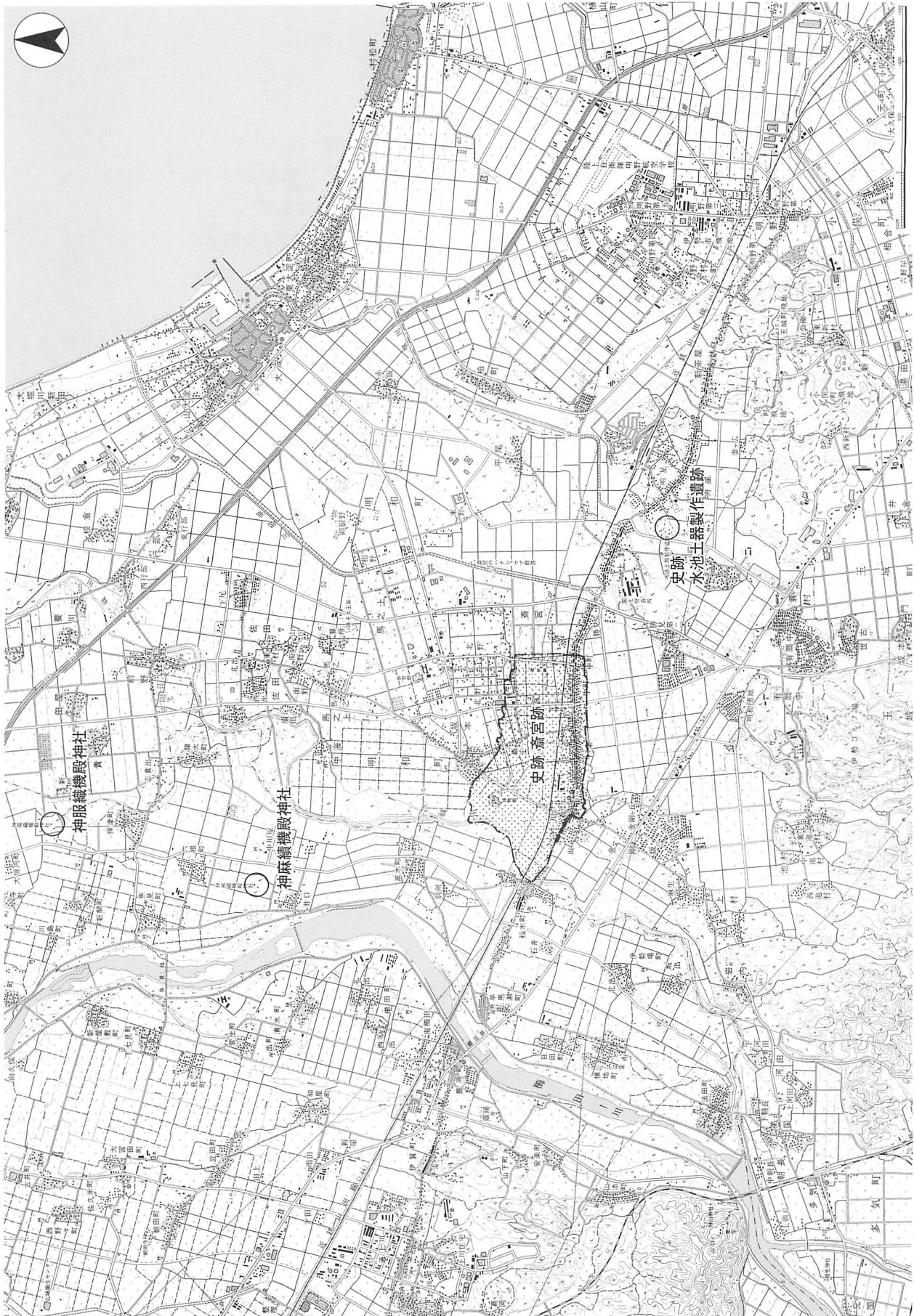
## 3 調査研究指導委員会議

齋宮跡の調査・整備について指導・助言を得るため、齋宮跡調査研究指導委員会議を実施している。平成15年度は、第1回を平成15年7月18日（金）、第2回を平成15年10月15日（水）に開催した。指導委員の方々は下記のとおりである（順不同・敬称略）。

上村 喜久子（名古屋短期大学教授）  
狩野 久（京都橘女子大学教授）  
北原 理雄（千葉大学教授）  
佐々木 恵介（聖心女子大学助教授）  
鈴木 嘉吉（元奈良国立文化財研究所所長）  
所 京子（聖徳学園岐阜大学教授）  
八賀 晋（三重大学名誉教授）  
町田 章（奈良国立文化財研究所所長）  
渡辺 寛（皇學館大学教授）

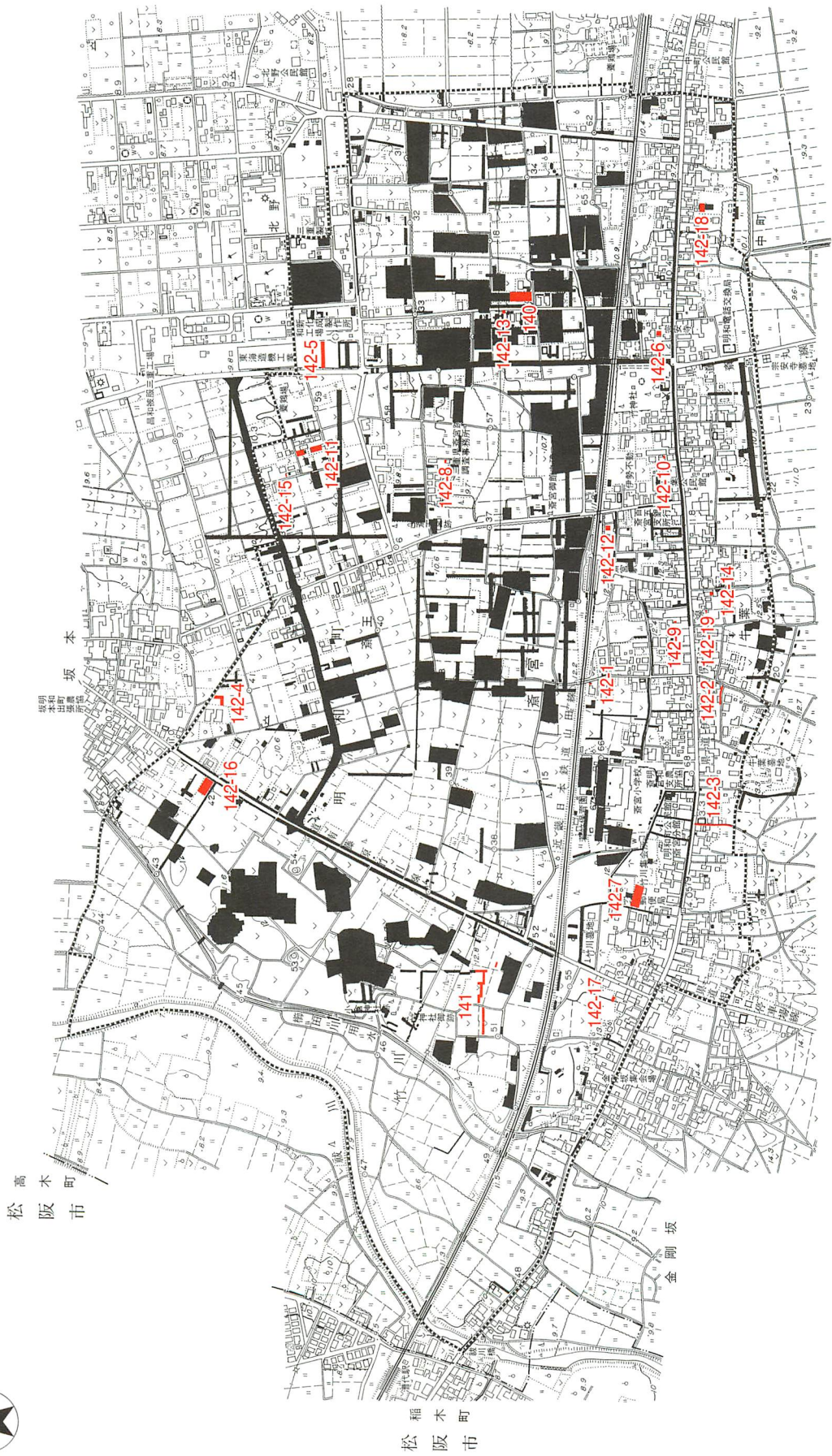
## 4 発掘体験塾

今年度から、当館の体験事業として「みんなで掘ろう齋宮－発掘体験塾－」と銘打ち、成人を対象に一般公募を行なった。事業の内容としては、発掘調査の実地体験、室内講義、整理作業といった、一連



第 I - 1 図 史跡齋宮跡位置図 (1 : 50,000) 国土地理院発行 1/25,000「松阪」「明野」(平成4年)より





第I-2図 平成15年度発掘調査区位置図 (1:10,000)

の発掘調査を、8ヶ月（月1～2回程度）・計15回に分け行ない、好評のうちに終了した。第141次調査と並行して行ない、計画調査を第141-1次、体験発掘塾の調査部分を第141-2次と便宜上分けたが、本概報では、第141次調査として報告している。

上村安生（三重県生活文化部）、大川勝宏（三重県教育委員会）、尾野善裕（京都国立博物館）、木野本和之（亀山市教育委員会）、中野敦夫（明和町）、山中章（三重大学）、渡辺博人（各務原市）、大川操・角正芳浩・新名強・萩原義彦（三重県埋蔵文化財センター）・森川常厚（嬉野町教育委員会）

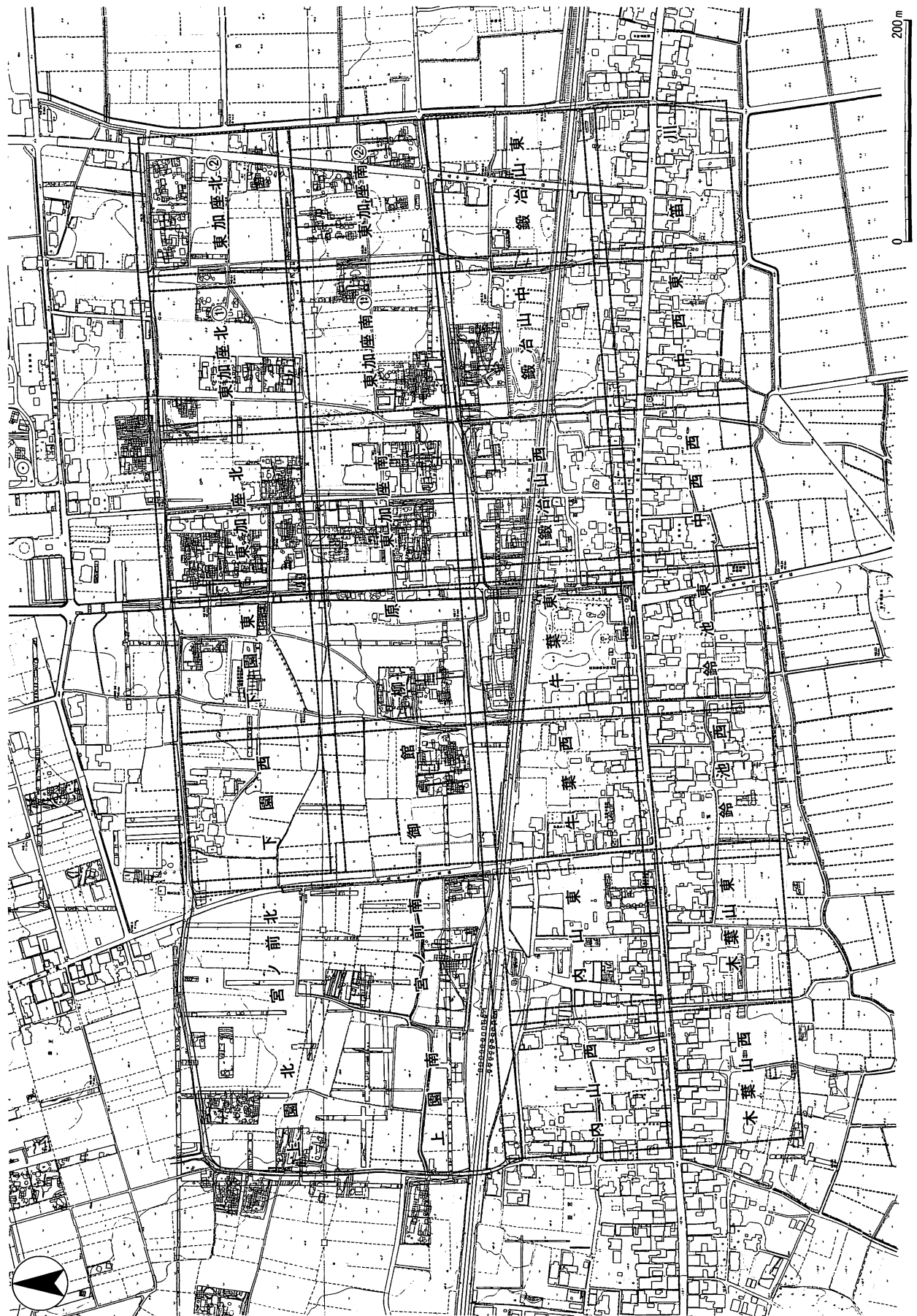
なお、本概報作成にあたり、下記の人の助言を得た。（順不同・敬称略、所属は平成15年度当時）

（小濱 学）

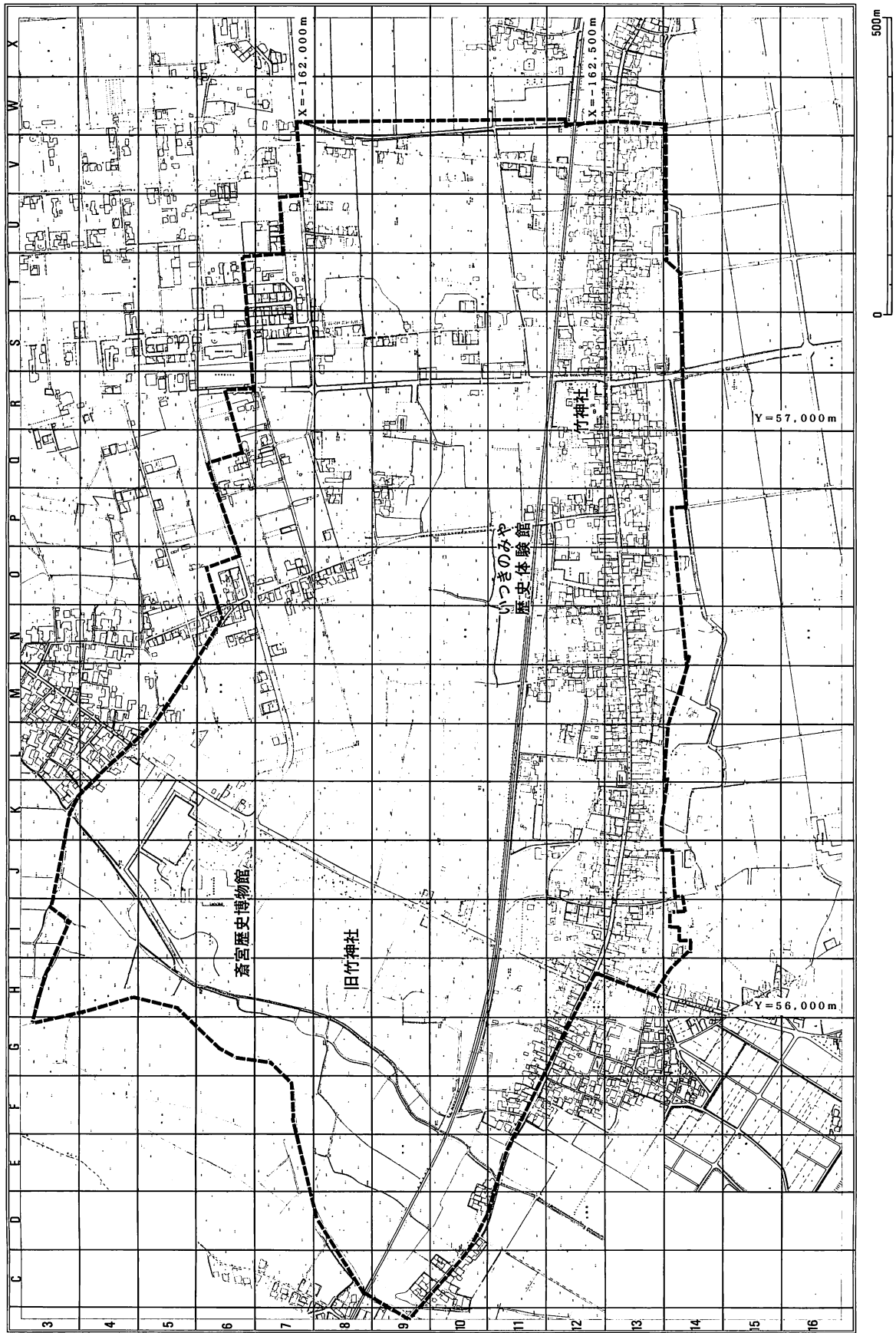
調査次数	地区	面積 (㎡)	調査日時	位置	土地所有者	現状変更名	保存地区区分
140	S10	535.0	15.6.4～15.8.12	明和町斎宮字西加座	明和町	計画発掘調査	2
141	G・H9	533.0	15.8.19～15.11.12	明和町竹川字中垣内	明和町・個人	計画発掘調査	1・2
142-1	M11	3.5	15.5.7	明和町斎宮字広頭	個人	住宅改築	4
142-2	M11	33.0	15.6.19～15.6.21	明和町斎宮字牛葉・木葉山	明和町	水道管布設	3
142-3	K13	30.0	15.7.22～15.7.25	明和町竹川字南裏	明和町	水道管布設	3
142-4	M6	136.0	15.7.31～15.8.2	明和町斎宮字出在家	個人	建物建築	3
142-5	R・S7	236.0	15.8.18～15.8.22、 15.10.1～15.10.2	明和町斎宮字西前沖	個人	道路造成	4
142-6	S12	33.0	16.11.4～16.11.7	明和町斎宮	個人	建物建築	4
142-7	J12	330.0	15.9.26～15.10.18	明和町竹川字東裏	個人	公民館改築等	4
142-8	Q9	13.0	15.12.17～15.12.18	明和町斎宮字下園	個人	住宅改築等	4
142-9	N13	5.2	16.1.6	明和町斎宮	個人	浄化槽設置等	4
142-10	Q12	5.8	16.1.14、16.1.15	明和町斎宮	個人	浄化槽設置	4
142-11	Q7	154.0	16.2.9、16.2.12	明和町斎宮字楽殿	個人	建物改築	4
142-12	P11・12	8.0	15.12.26	明和町斎宮	個人	建物建築	4
142-13	S10	3.0	15.7.24	明和町斎宮	個人	浄化槽設置	4
142-14	O13	3.0	15.11.5	明和町斎宮	個人	浄化槽設置	4
142-15	Q6	3.5	15.4.22	明和町斎宮字楽殿	個人	住宅改築	4
142-16	K・L7	480.0	16.3.9～16.3.31	明和町竹川字古里	個人	発掘調査 (住宅増築に伴う)	4
142-17	H11	45.0	16.3.10～16.3.12	明和町竹川字中垣内	個人	建物改築	3
142-18	R13	32.0	16.3.19～16.3.23	明和町斎宮字中西	個人	建物建築等	4
142-19	N13	3.8	16.3.30、16.3.31	明和町斎宮	個人	浄化槽設置	4

第I-1表 平成15年度発掘調査一覧





第I-3図 斎宮跡方格地割区画名称 (1:5,000)



第I-4図 史跡齋宮跡における大地区 (2002年)

## Ⅱ 第140次調査

(6AS10 西加座南区画)

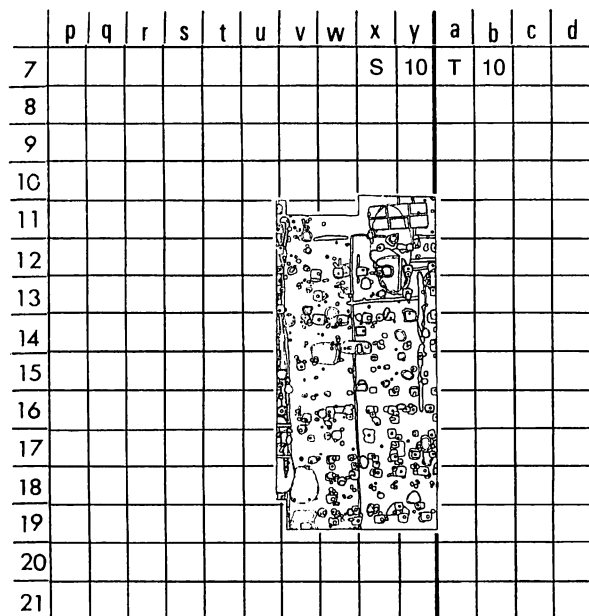
### 1 調査の契機と経過

第140次調査区は、平成14(2002)年度に実施した第136次調査区の南に隣接する位置にあたる。現況は畑である。史跡東部に展開する方格地割の内で、「西加座南」区画と呼ばれているブロックの道路の東半にあたる。

「西加座南」区画は方格地割の中央部付近にあり、その南の「鍛冶山西」区画は斎王の居所を想定した「内院」と呼ぶ区画である。

「西加座南」区画は、平成元年の第83次調査等で確認された正殿と脇殿とを柵で四周を囲んだ祭殿風建物の存在から、斎宮寮十三司のうち、祭祀関係を管掌する「主神司」の想定地でもあり、今回の調査はその実態解明を目的として行なった。

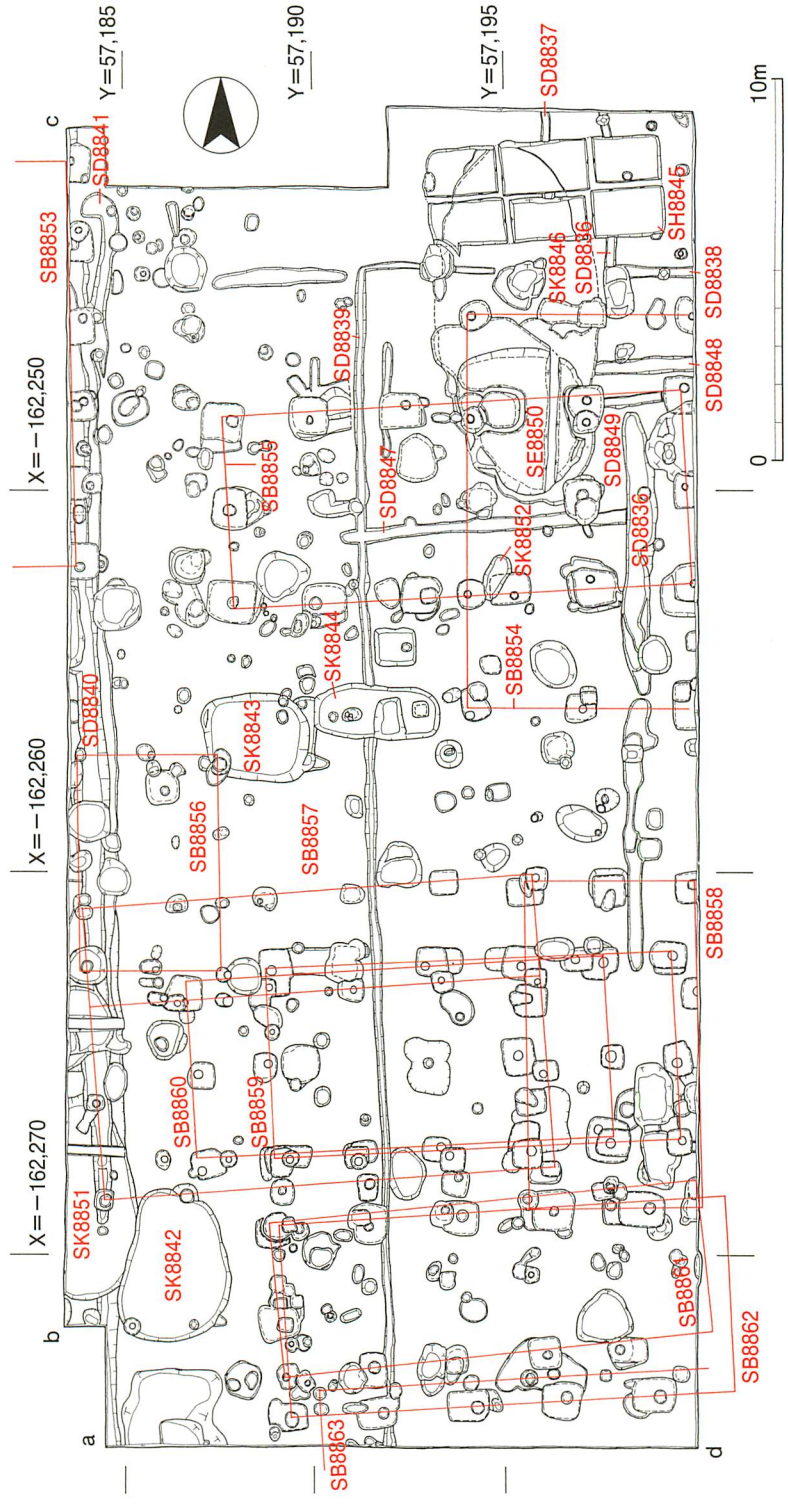
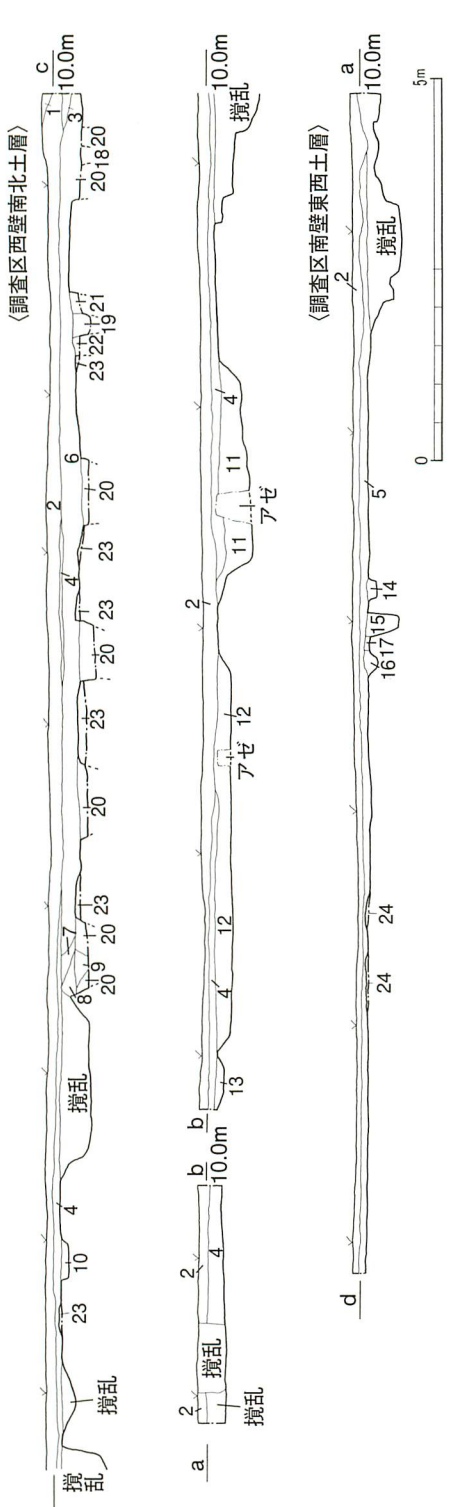
調査は平成15(2003)年6月4日より開始し、



第Ⅱ-1図 第140次調査区 大地区・グリッド図(1:800)







- |                                   |                                      |      |
|-----------------------------------|--------------------------------------|------|
| 1 客土                              | 13 10YR2/3 黒褐色砂質土                    | 遺構埋土 |
| 2 耕作土                             | 14 7.5YR3/2 黒褐色砂質土                   | 遺構埋土 |
| 3 7.5YR3/4 暗褐色 + 7.5YR6/6 橙色混砂質土  | 15 7.5YR3/2 黒褐色砂質土                   | 遺構埋土 |
| 4 7.5YR5/4 にぶい褐色砂質土               | 16 7.5YR5/2 灰褐色砂質土                   | 遺構埋土 |
| 5 7.5YR4/2 灰褐色砂質土                 | 17 7.5YR4/3 褐色砂質土                    | 遺構埋土 |
| 6 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土               | 18 7.5YR7/4 にぶい橙色 + 7.5YR3/2 黒褐色混砂質土 | 遺構埋土 |
| 7 7.5YR4/2 灰褐色砂質土 (5YR6/6 橙色少混)   | 19 7.5YR3/2 黒褐色砂質土                   | 遺構埋土 |
| 8 7.5YR5/3 にぶい褐色砂質土 (5YR6/6 橙色少混) | 20 7.5YR3/2 黒褐色 + 5YR6/6 橙色混砂質土      | 遺構埋土 |
| 9 7.5YR3/1 黒褐色砂質土                 | 21 7.5YR3/2 黒褐色 + 5YR6/6 橙色混砂質土      | 遺構埋土 |
| 10 7.5YR3/1 黒褐色 + 7.5YR7/6 橙色混砂質土 | 22 5YR6/6 橙色 + 7.5YR4/2 灰褐色混砂質土      | 遺構埋土 |
| 11 10YR2/2 黒褐色砂質土                 | 23 7.5YR7/4 にぶい橙色砂質土                 | 地山   |
| 12 10YR2/2 黒褐色砂質土                 | 24 7.5YR6/6 橙色粘質土                    | 地山   |

第II-3図 第140次調査区 土層図(1:100)・平面図(1:200)

同年8月12日に埋戻しまで含めて終了した。最終調査面積は535㎡で、7月26日(日)に現地説明会を開催し、約140名の参加があった。

## 2 調査区の層位

調査区は当初、南北33m、東西16.5mのほぼ座標南北方向に設定し、耕作土から人力により掘削したが、検出された遺構の状況から判断し、北西隅部と北東部に調査区を拡張した。

層位は、上層から耕作土、床土、床土直下で橙色粘質土の地山に到達したため、地山面で遺構の検出を行なった。

遺物は表土層から混入していたが、床土により多く含まれていた。しかしながら全体的に遺構検出面までの深度が浅いためか、ほとんどが遺構に伴うものであり、出土総量は遺物収納箱130箱程度である。

調査前の標高は10.1mほどで、宅地化された箇所を除くと、周辺で最も高所にあり、その北および南側に向かうに従って低くなる。

## 3 遺構

今回の調査区では奈良時代から平安時代にかけての遺構を中心に確認している。遺構は掘立柱建物、井戸、土坑、竪穴状遺構、溝のほか、現時点では建物又は柵等の柱穴と捉えることができないピットが多数検出された。なお、掘立柱建物の主軸方向は、南北棟・東西棟を問わずすべて座標北(N軸)を基準として表記している。

### (1) 掘立柱建物

確認された掘立柱建物は11棟で、奈良時代末から平安時代中期にかけて5回以上変遷すると考えられる。

**S B 8853** 調査区の北西隅付近で確認されたもので、建物の主軸はN1°W偏で、ほぼ南北方向をとる。建物の規模は南北5間で、10.7mをはかる。東西方向は調査区外へ延びるため不明である。柱掘形は方形で、一辺0.8～1.0m程度の規模をもつ。

**S B 8854** 調査区の北東で確認されたもので、主軸はN0°で南北方向の建物である。建物の規模は南北4間、東西2間で、南北10.4m、東西5.9m

となる。柱穴の重複関係から井戸SE8850及び土坑SK8846より新しいことがわかる。柱掘形はやや不整形な方形で、一辺0.8m程度の規模をもつ。

**S B 8855** 調査区の北半部で確認されたもので、主軸がN3°W偏となる東西方向の建物である。建物の規模は東西5間、南北2間で、東西12.1m、南北5.0mとなる。柱穴の重複関係からSB8854より新しいことがわかる。柱掘形は方形で、一辺1.0～1.2m程度の規模をもつ。

**S B 8856** 調査区の中央西端付近で確認されたもので、主軸がN1°W偏の南北方向の建物である。建物の規模は南北3間、東西2間で、東西3.7m、南北5.6mとなる。柱掘形は円形で、径0.3～0.4m程度の規模をもつ。

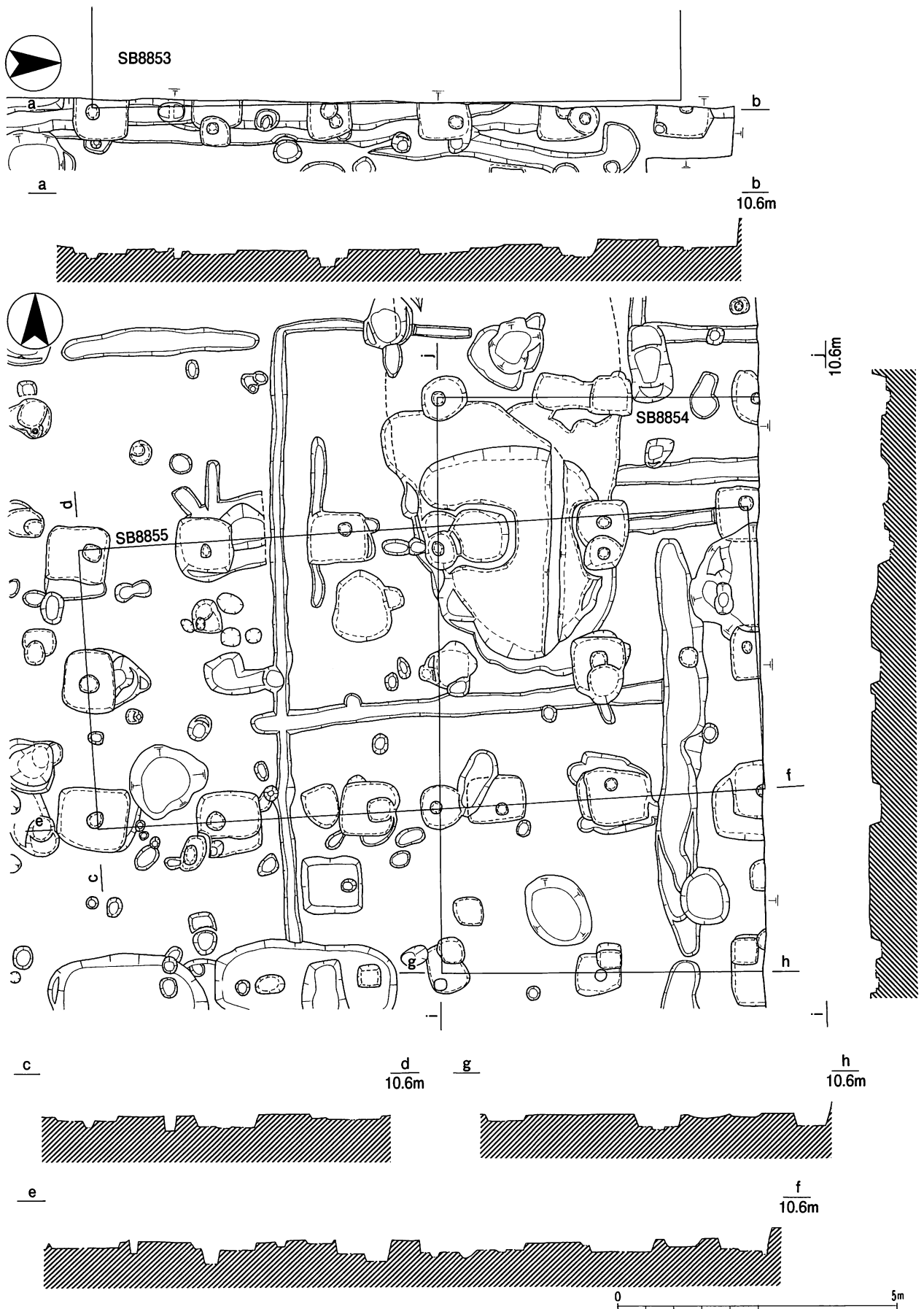
**S B 8857** 調査区の中央やや南寄りで確認されたもので、主軸がN4°W偏となる東西方向の建物で、東西5間、南北2間の身舎の北面に庇がつく。身舎は東西11.8m、南北5.2m、庇を含めると南北7.8mとなる。柱穴の重複関係から、SB8858・SB8859・SB8860のいずれよりも新しいことがわかる。柱掘形は方形で、一辺0.6m程度の規模をもつ。

**S B 8858** 調査区の南東、東壁沿いに確認されたもので、主軸がN1°W偏の南北方向の建物である。建物の規模は南北3間、東西2間で、東西4.5m、南北8.6mとなる。柱穴の多くに柱の抜き取り痕があり、焼土が含まれている。柱掘形は方形で、一辺0.8～1.0m程度の規模をもつ。

**S B 8859** 調査区の中央やや南寄りで確認されたもので、主軸がN3°W偏となる東西方向の建物である。建物の規模は東西5間、南北2間で、東西10.7m、南北5.0mとなる。SB8860と柱穴の重複が大きい。柱掘形は方形で、一辺0.7～0.9m程度の規模をもつ。

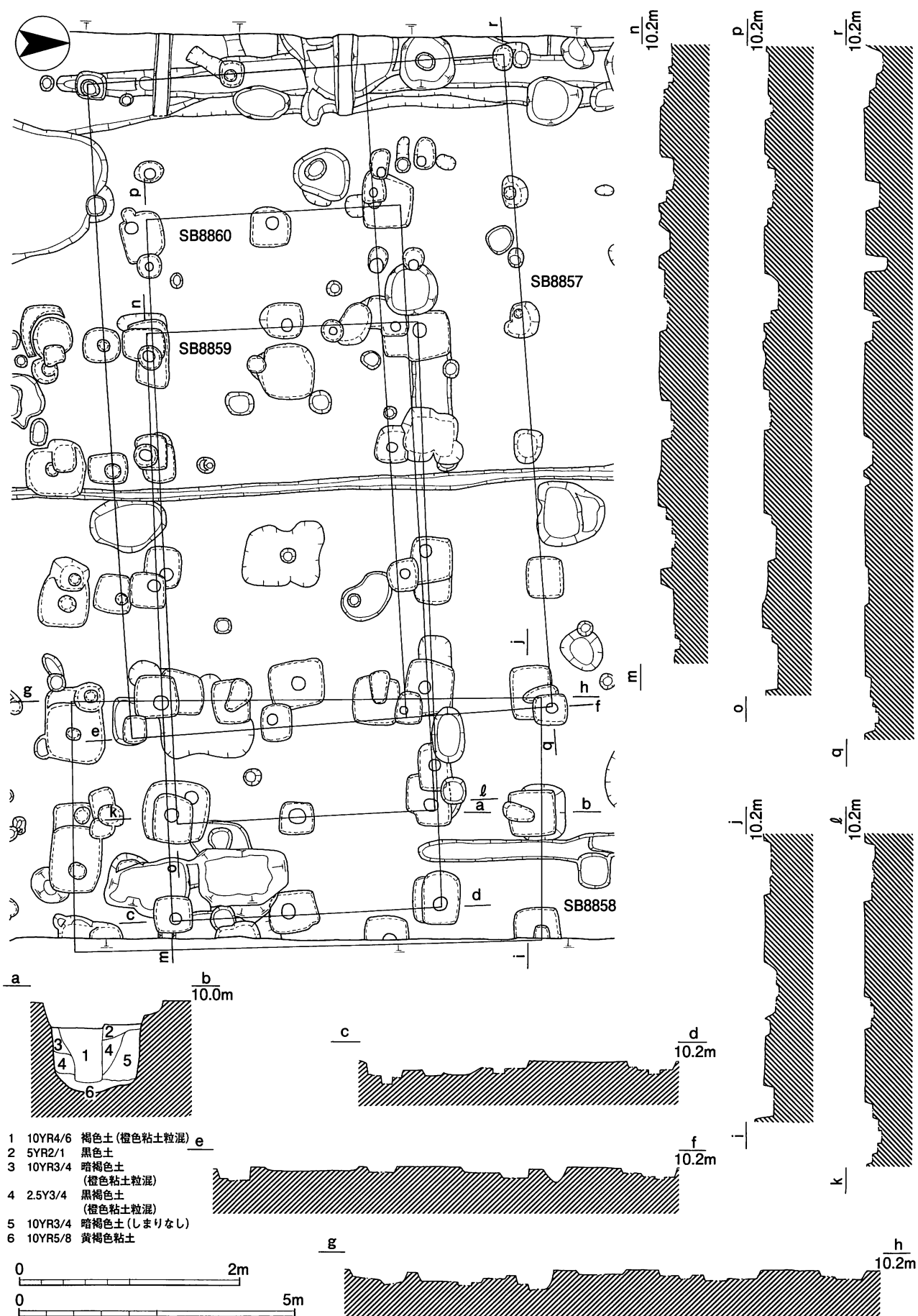
**S B 8860** 調査区の中央やや南寄り、SB8859と重複する位置にあり、主軸がN3°W偏となる東西方向の建物である。建物の規模は東西5間、南北2間で、東西11.2m、南北4.0mとなる。柱掘形は方形で、一辺0.7～0.9m程度の規模をもつ。SB8859より新しい。

**S B 8861** 調査区の南端近くで確認されたもので、主軸がN5°W偏となる東西方向の建物である。建



第Ⅱ-4図 第140次調査区 SB 8853・8854・8855平面・断面図(1:100)





第II-5図 第140次調査区 S B 8857・8858・8859・8860 平面・断面図 (1:100)、S B 8858 柱穴土層断面図 (1:50)

物の規模は東西5間、南北2間で、東西11.2m、南北4.0mになるものと推定できる。東西方向中央には東柱と思われる柱列が伴う。柱穴の重複関係からSB8862より新しいことがわかる。柱掘形は方形で、一辺0.6~0.8m程度の規模をもつ。

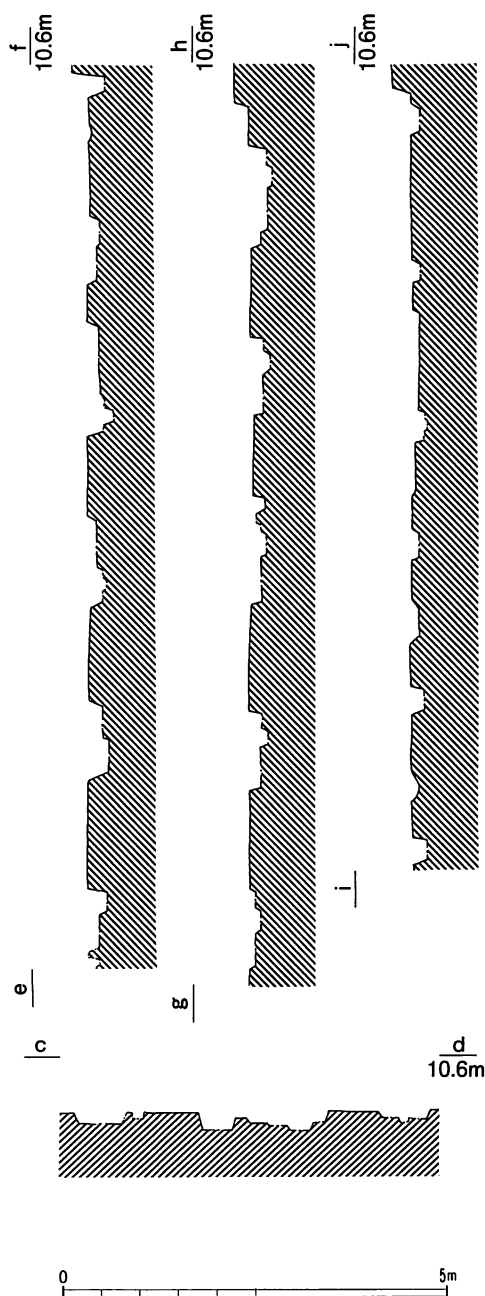
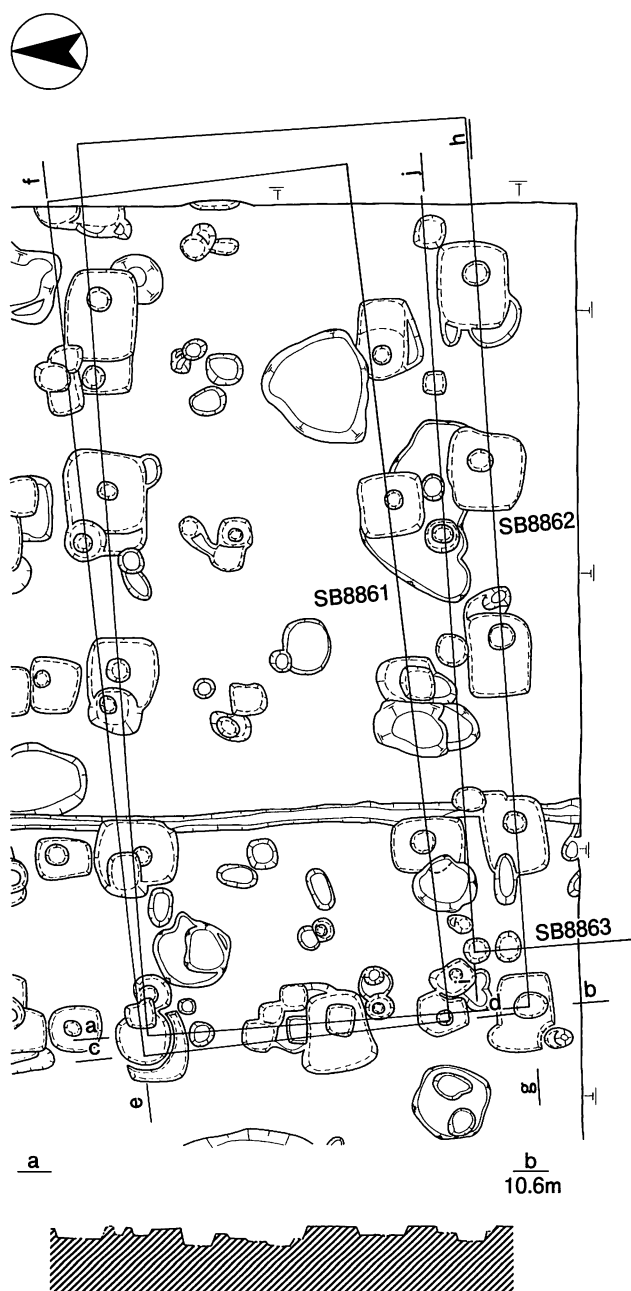
**S B 8862** 調査区の南端近くで確認されたもので、SB8861と大きく重複する位置にあり、主軸がN4°W偏となる東西方向の建物である。建物の規模は東西5間、南北2間で、東西11.0m以上、南北5.0mとなる。柱穴の重複関係からSB8858より新しいことがわかる。柱掘形は方形で、一辺1.0m程度の規

模をもつ。

**S B 8863** 調査区の南端で確認された柱穴列で、柱穴も小さく、柵または塀の可能性もある。東西方向5間ないしそれ以上となり、建物跡とすればN3°W偏となる。柱掘形は円形で、径0.4m程度の規模をもつ。

## (2) 井戸

**S E 8850** 周辺の状況から判断して、土坑ないし井戸と推定したが、掘立柱建物SB8854及びSB8855の柱穴と重複するために、掘削は行うことができず、調査の最終時点に実施した溝掘り調査で、



第Ⅱ-6図 第140次調査区 S B 8861・8862・8863平面・断面図(1:100)

井戸であることが判明した。

井戸掘形は不整形円形。長径4 m、短径3 mほどで、井戸枠痕跡は方形となる。確認できた南北方向の大きさ1.7 mをはかる。検出面より深さ1 m程度まで掘削を行った。検出できた範囲では井戸枠等の構築物は確認できなかった。

出土遺物として土師器・須恵器・製塩土器があり、後述する土坑SK8846より新しいことが重複関係の検討から確認できた。

### (3) 竪穴状遺構

**S H 8845** 調査区の北東隅で確認された東西方向6.1 m、南北方向2.6 m、深さ約0.2 mの長方形の遺構で、土坑SK8846と重複し、SK8846より新しい。底面は平坦で竪穴住居跡に類する構造だが、これに伴うとみられる柱穴は遺構内には存在しないが、遺構周辺に小規模なピットがあり、SH8845に関連する可能性はある。

遺構内から土師器・須恵器・土錘が出土した。

### (4) 土坑

調査区内からいくつかの土坑が確認されたが、近現代の土取り穴を除くと、奈良後半の土坑3基、平安前期の土坑2基および後期の土坑1基に分かれる。

**S K 8842** 調査区の南西隅近くで確認された土坑で、長径4.0 m、短径約2.7 m、深さ0.2 mほどの楕円形となり、底面はほぼ平坦である。多量の土師器のほか、須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器が出土した。

**S K 8843** 調査区の中央やや西寄りで確認された長辺2.8 m、短辺2.3 m、深さ約0.3 mの長方形の土坑で、底面はほぼ平坦である。出土遺物は少量で、土師器・須恵器が出土した。

**S K 8844** 調査区のほぼ中央、SK8843と隣接する。長辺3.3 m、短辺1.4 m、深さ0.3 mの狭長な長方形の土坑で、底面の中央付近が0.1 m弱ほど一段掘り窪められている。出土遺物は少なく、土師器が少量出土したのみである。

**S K 8846** 調査区の北東隅付近で確認された長径7 m以上、短径4.2 mの楕円形の土坑だがSB8854などの掘立柱建物の柱穴と重複するため、上面のみの検出に留めた。したがって、当遺構が土坑以外のものである可能性も否定し難い。出土遺物は土師器・

須恵器・土錘などである。

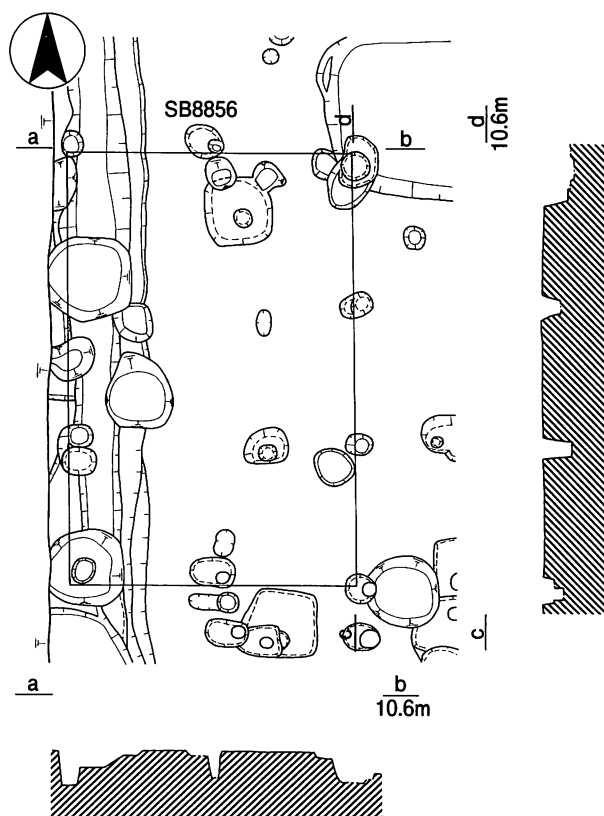
**S K 8851** 調査区の南西、SK8842に接して築かれた土坑で、SK8842とかがうじて重複すると思われるが、新旧関係は明らかでない。出土遺物も土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器・製塩土器などがあり、SK8842との時期差も見出しがたい。

**S K 8852** 調査区の中央やや東寄りで確認された長径1.2 m、短径0.55 mの楕円形に近い土坑。埋土中に土師器皿と陶器小椀が入れ子状となり、さらに回転台土師器などととも伏せて並べられた状態で出土しており、墓であった可能性もある。

### (5) 溝

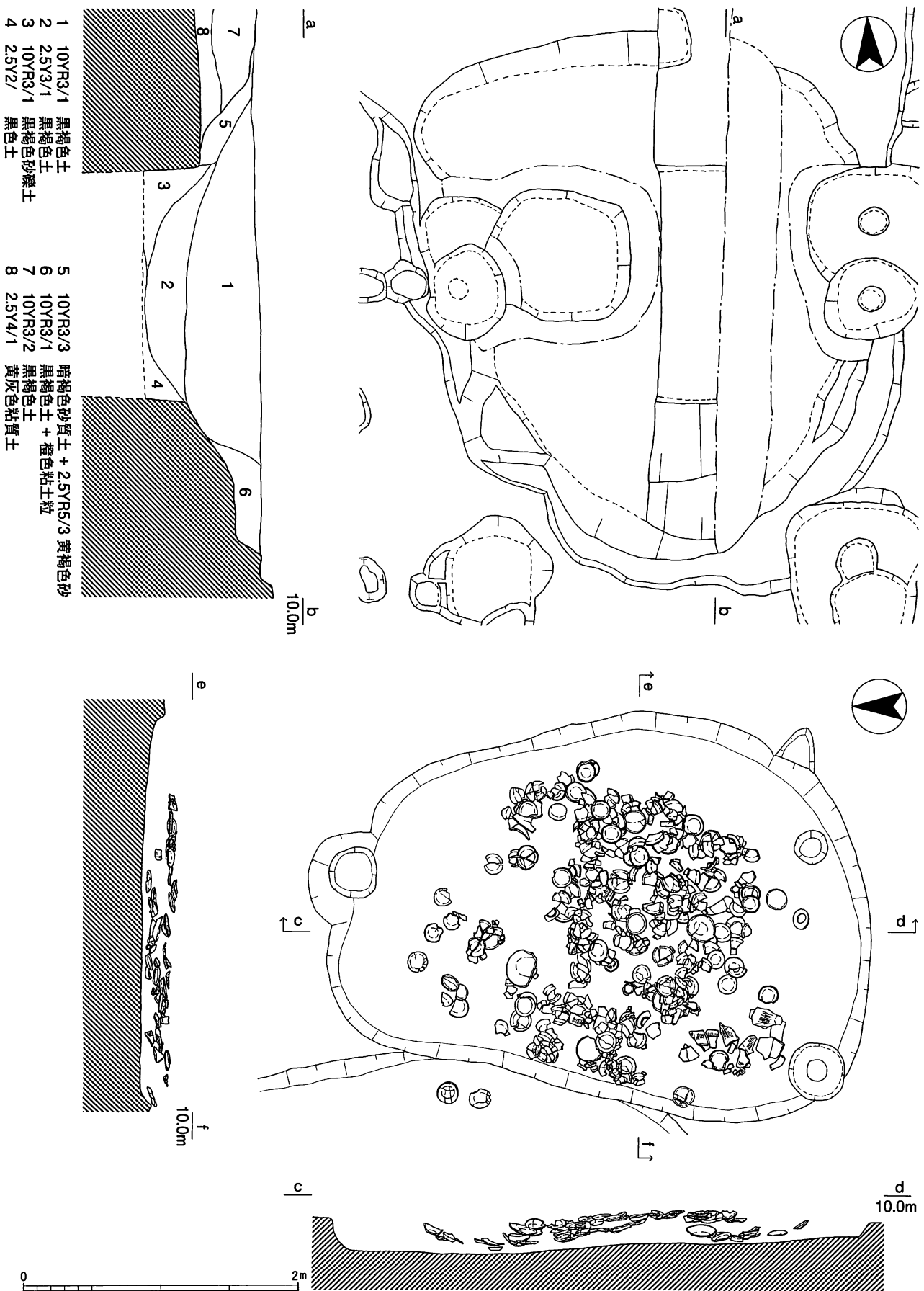
調査区内からいずれも南北あるいは東西方向をとる溝が9条ほど確認された。これらはいずれも出土遺物が限られ、時期を比定することが困難なものがほとんどであり、なかには齋宮とは直接関係のない比較的新しいものも含まれていると思われる。ただ、重複する遺構との関係から、すべてがそうした新しい時期のものとも判断し難いものである。

**S D 8836** 調査区の東壁近くを寸断しながら南北に延びる溝で、幅0.25～0.7 m、深さ0.05～0.1 m



第Ⅱ-7図 第140次調査区 SB8856平面・断面図(1:100)





第II-8図 第140次調査区 SE 8850、SK 8842平面・断面図 (1:40)

をはかり、かなり削平を受けているものと思われる。奈良時代から平安時代にかけての土師器・須恵器片を含む。

**S D 8837** 調査区の北東隅近くでのみ検出されたSD8836に沿う南北溝で、幅0.2 m、深さ0.05 m程度をはかる。埋土中に少量の土師器・須恵器片を含む。

**S D 8838** 調査区の北壁近くで検出された東西溝で、削平が著しいため、部分的に寸断している。幅0.15～0.3 m、深さ0.05 mほどで、南北溝のSD8839と連結するとみられることから、SD8839と一連のものかもしれない。埋土中に平安時代の土師器片を少量含む。

**S D 8839** 調査区中央を南北に延びる溝で、幅0.2～0.3 m、深さ0.05～0.1 mをはかる。埋土中に平安時代の土師器・須恵器・緑釉陶器片などを含む。

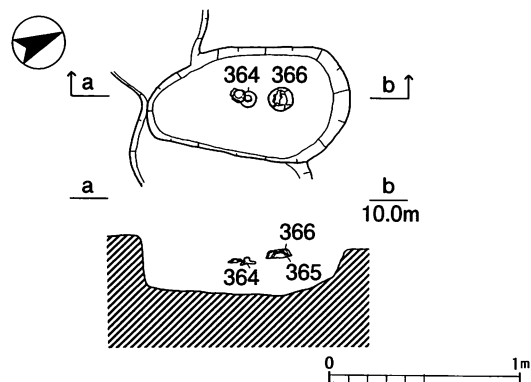
**S D 8840** 調査区の西壁に沿って検出された南北溝で、幅0.8～1.0 m以上、深さ0.15～0.2 mをはかる。埋土中には平安中期までの土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器・製塩土器片などの遺物が含まれている。

**S D 8841** 調査区の北西で検出された幅0.4 m、深さ0.05 mほどの溝で、SD8840から派生して延びる。埋土中に土師器片等が含まれている。

**S D 8847** 調査区の北東で検出された東西溝で、幅0.25～0.35 m、深さ0.05 mをはかる。埋土中には土師器・須恵器片が含まれている。

**S D 8848** 調査区の北東で検出された溝で、SD8847と平行する。幅0.4 m、深さ0.05 mをはかる。埋土中に平安時代の土師器・黒色土器・須恵器片などを含む。

**S D 8849** SD8848のすぐ南で検出された東西溝



第Ⅱ-9図 第140次調査区 SK 8852 平面・断面図 (1:40)

で、幅0.25 m、深さ0.05 mをはかる。SB8855と重複し、SB8855より古いと考えられる。土師器片が出土している。  
(竹内英昭)

## 4 出土遺物

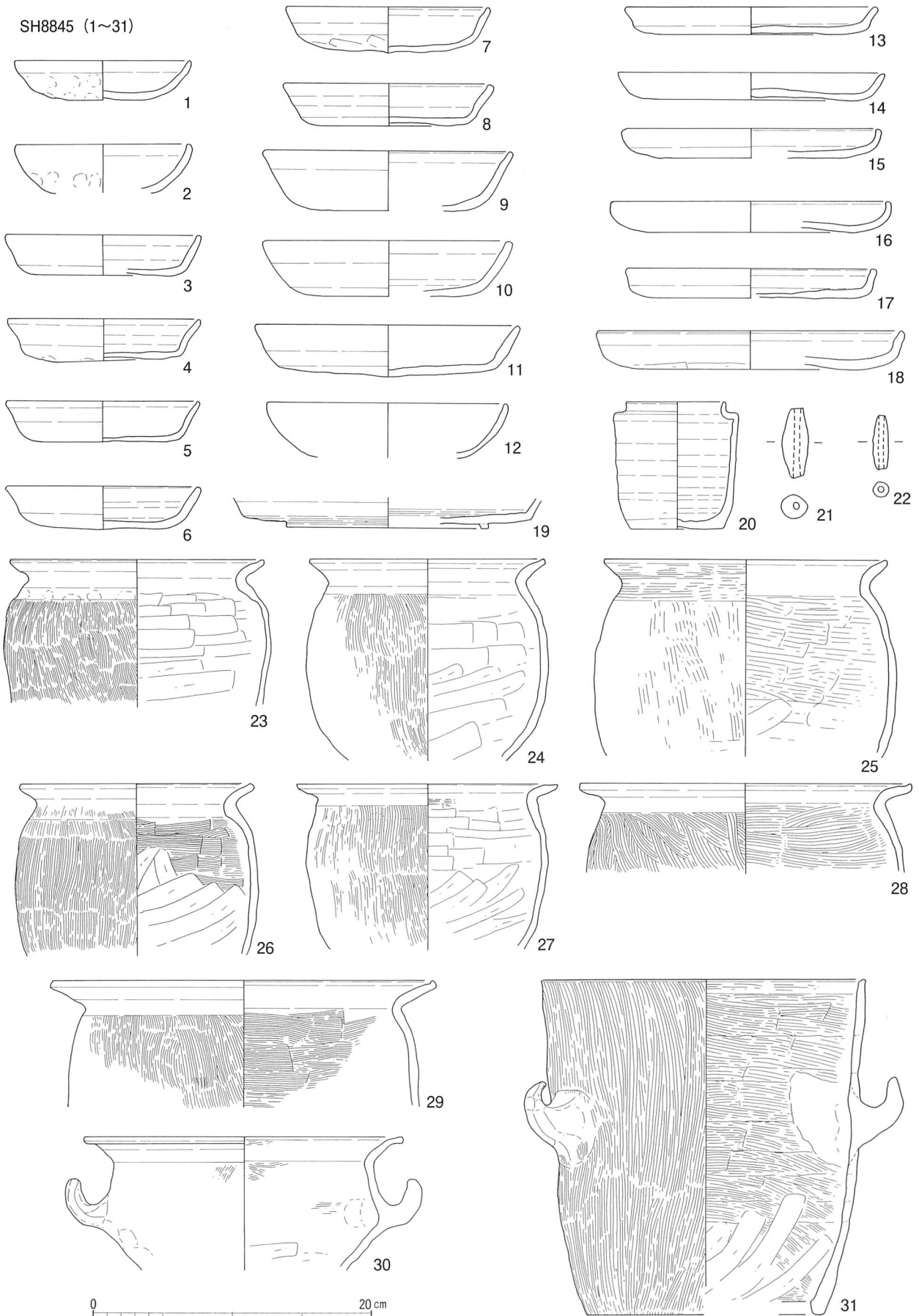
ここでは主な遺物について、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』<sup>(1)</sup>、都城編年<sup>(2)</sup>および猿投窯の編年<sup>(3)</sup>をもとに記述する。なお遺構出土遺物の種類に関しては、第Ⅱ-3表も併せて参照されたい。

**S H 8845 出土遺物 (1～31)** 1～18、23～31は土師器。1・2は杯G。調整は粗雑で、胎土に雲母や砂粒を多く含む。3～11は杯Aで口径が13.7～15.2cmのもの(3～8)と、18.0～19.1cmのもの(9～11)とに分かれる。7は底部外面をヘラケズリし、口縁部をヨコナデするb手法で調整され、他はいずれも底部未調整のe手法で調整されている。12は碗Aで、口縁部のヨコナデの範囲が端部付近に限られる。13～18は皿A。形態的には口縁部が内弯して立ち上がるもの(15・16)、垂直気味に立ち上がるもの(17・18)、口縁部を強くヨコナデした結果外反する新しい要素を持つもの(13・14)に分けられ、ほとんどのものがヨコナデ・ナデで調整されるが18のみ底部外面をヘラケズリしている。23～27は甕Aで、外面はタテハケ、内面は上半をヨコハケ、下半をケズリ調整する。多くは外面に二次被熱の痕跡と煤の付着が見られる。28・29は甕Cで、共に口径が体部最大径より大きく、口縁部が外方へ大きく開くのが特徴で、8世紀終わりごろの所産と考えられる。30は鍋B。31は甑。19は須恵器盤。20は須恵器壺Eで外面下部1/4程を回転ヘラケズリし、底部には回転糸切り痕が残る。21・22は管状土錘。

これらの遺物は概ね斎宮Ⅰ-3～Ⅱ-1段階までの範疇に収まる。

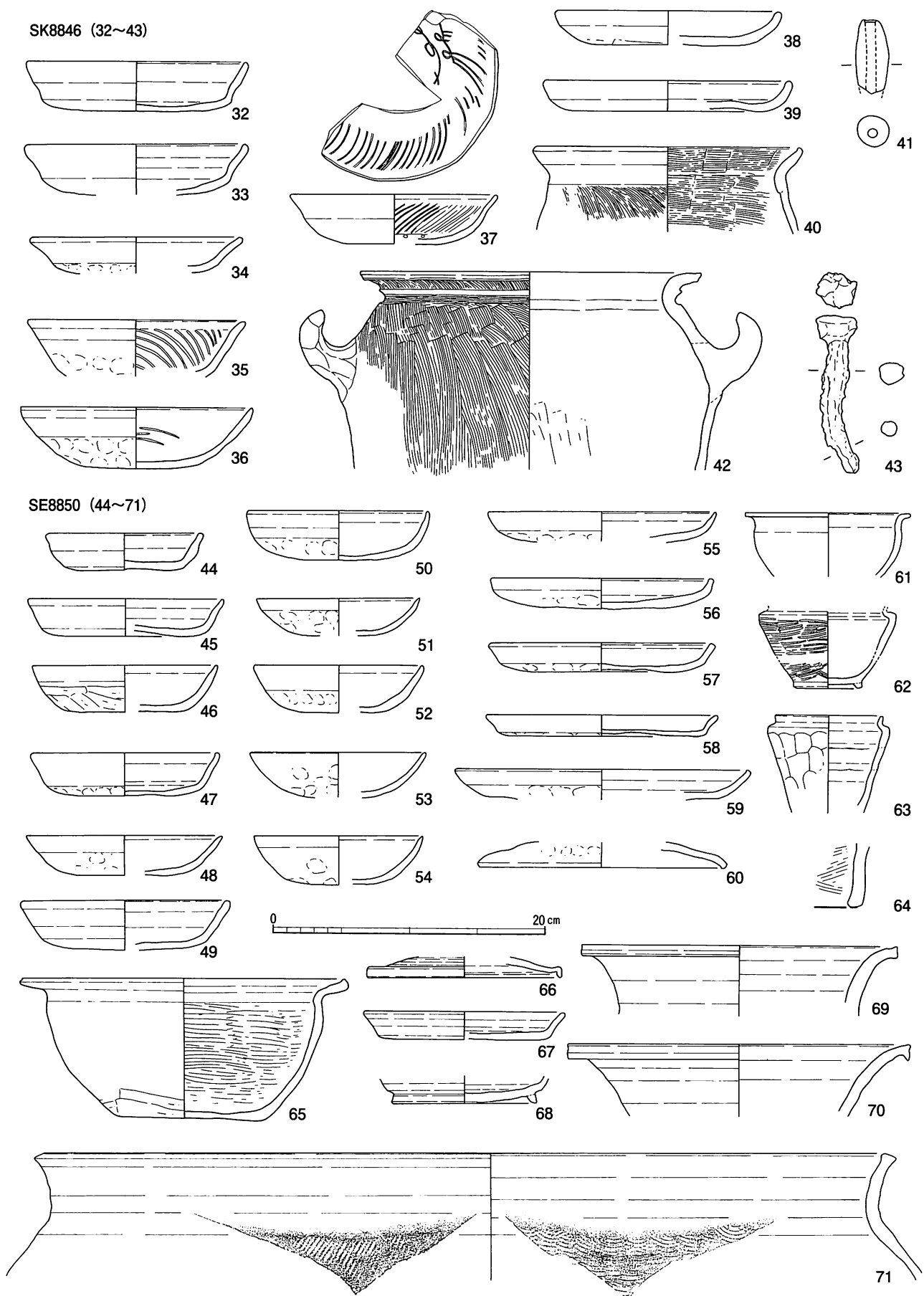
**S K 8846 出土遺物 (32～43)** 32～40・42は土師器。32～35・37は杯Aで口縁部内外面を強くヨコナデする32～34と、内面に斜放射状暗文や螺旋状暗文が施される35・37がある。36は碗Aで内面に退化した粗雑なミガキが確認できる。38・39は皿Aで口縁部が内弯気味に外上方へ立ち上がるもの。38は底部外面をケズリ調整されている。40は甕Aで内外面とも細かいハケメで調整される。口縁

SH8845 (1~31)



第II-10図 第140次調査区 出土遺物実測図(1) (1:4)





第Ⅱ-11图 第140次調査区 出土遺物実測図(2)(1:4)

部は鈍くつまみ上げられ、肩部から体部にかけてなだらかに広がる。8世紀後半のものか。42は甕Aに把手の付く甕B。41は管状土錘。43は鉄釘で腐食が激しく断面形態は不明である。

これらの遺物は斎宮Ⅰ-4段階に相当すると考えられる。

**SE 8850 出土遺物 (44～71)** 44～63・65は土師器。44～49は杯Aで、調整は多くが口縁部の広い範囲をヨコナデするe手法によるものである。46は外面をヘラケズリし、口縁端部のみヨコナデするc手法で調整されている。50は杯G。51～54は椀A。多くは口縁部のヨコナデが端部付近に限られる。55～59は皿A。57・58はほぼ平らな底部に強く外反する口縁部を持ち、55・56に比べ新しい要素を持つものである。59は口径21.5cmと大形で、口縁部のヨコナデの範囲が比較的狭く端部に明瞭な面を持つ。斎宮では皿Aのbタイプに分類されているものである。60は土師器の蓋。ハケやヘラミガキなどの調整は見られない。61は鉢。62・63は壺E。62は外面を粗雑なミガキ、内面をナデ調整されている。63は内外面ともナデ調整されており、内面には粘土紐積み上げ痕が明瞭に残る。65は壺Bで体部内面を粗いハケメ、外面は上半の磨耗が激しく明瞭ではないが、底部付近のみヘラケズリしているようである。口縁端部が若干内側に肥厚する。66～71は須恵器。66は杯B蓋。67は皿A。68は杯B。69は甕A。70は口縁部に自然釉の付着が見られる壺で、猿投編年NN-32号窯式期のものであろう。71は甕B。64は志摩式製塩土器。

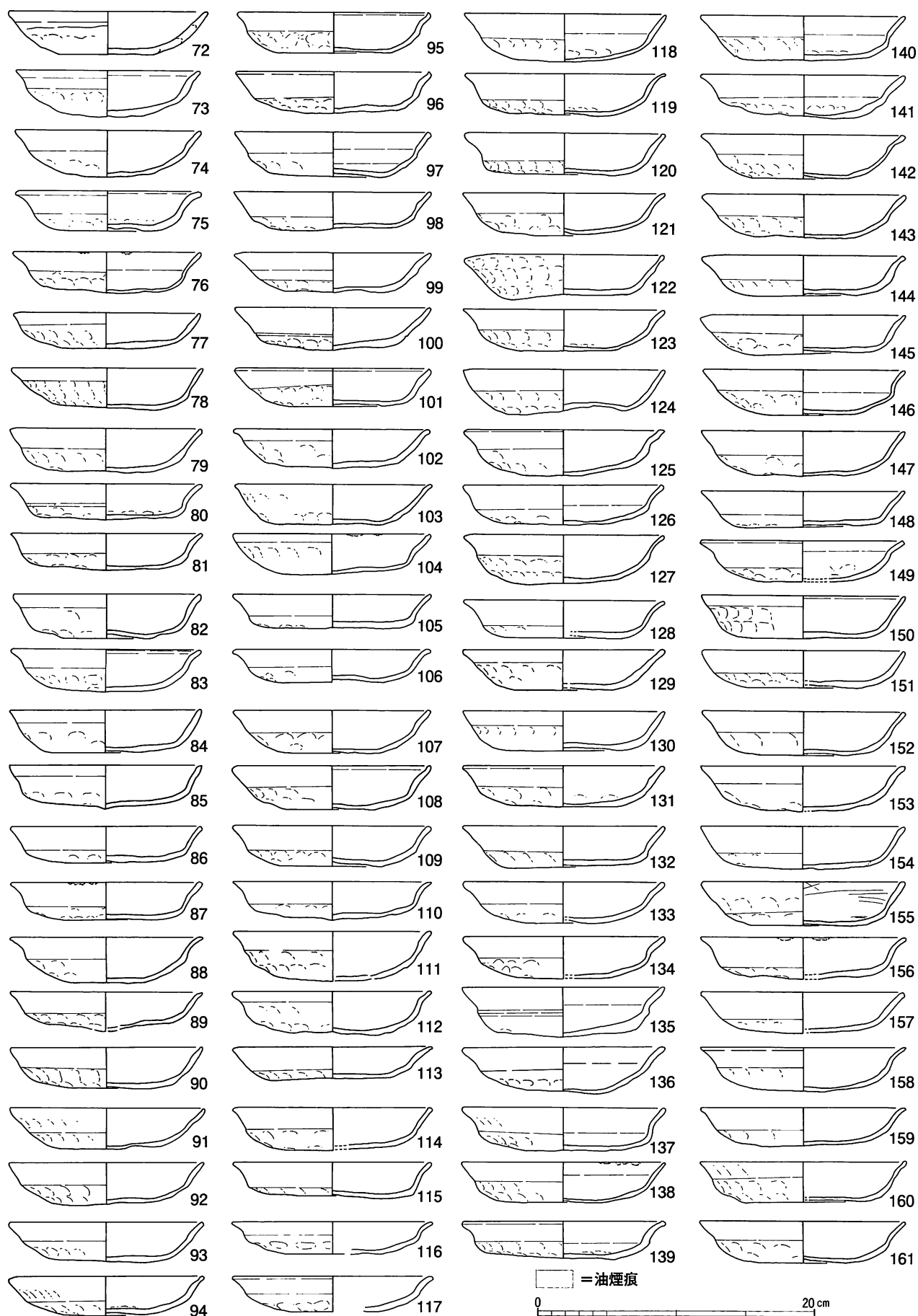
これらの遺物は斎宮Ⅰ-3～Ⅱ-1段階の範疇に収まる。

**SK 8842 出土遺物 (72～353)** 一括して廃棄されたと考えられる資料である。72は土師器杯G。73～181は土師器杯A。薄手で焼き歪みしているものが多い。いずれも口縁部をヨコナデ、底部をナデ・ユビオサエで調整し、口縁部が外側へ強く屈曲するものが多く認められる。法量差は見られない。182～236は土師器椀A。口縁部のヨコナデの幅は杯Aに比べ狭く、内面に粗雑なミガキの見られるものがある。大部分が口径14～17cm内外に収まるが、口径20cm前後の大形品や12cmの小形品など規格

外のものも認められる。なお杯・椀には口縁端部に油煙痕の残るものが若干ある。237～318は土師器皿A。aタイプ、bタイプのものが見られる。bタイプのものは口縁部が大きく外へ開くものと、内弯気味に立ち上がり、口縁端部に明瞭な面を持つものとに分けられるようである。法量差は見られない。319～325は土師器皿B。ハの字に開く脚部に大形のbタイプの皿がつくもので、口径は皿Aに比べ大きく、皿部の底部外面に板やヘラ状工具による調整の痕跡が残るものが多い。326・327は土師器高杯。脚部は9面に面取りされる。328～331は土師器甕A。小形のは底部内面のケズリが省略されている。336～339は土師器壺B。口縁端部が内側へ肥厚し、端部は外傾した面をもつ。332は胴部が短小化した土師器甕C。333～335は甕Cもしくは大形の甕A。340は甑。内外面とも底部付近をケズリ調整している。341～344は灰釉陶器。341・343は椀、342は段皿、344は皿である。いずれも猿投編年K-90号窯式期のものと考えられる。345～350・352は緑釉陶器。345・346は段皿。348～350は椀。348・349は貼り付け輪高台で、底部内外面に三又トチンの痕跡が残る。350は内面に陰刻花文が施される。347は皿で、削出しの円盤高台となり、京都産のものと思われる。352は時期的に長岡京期～平安京初期までさかのぼる初期緑釉陶器の火舎。軟質焼成で、淡い黄緑色の緑釉がかかる。351は須恵器盤A。353は鉄鎌。

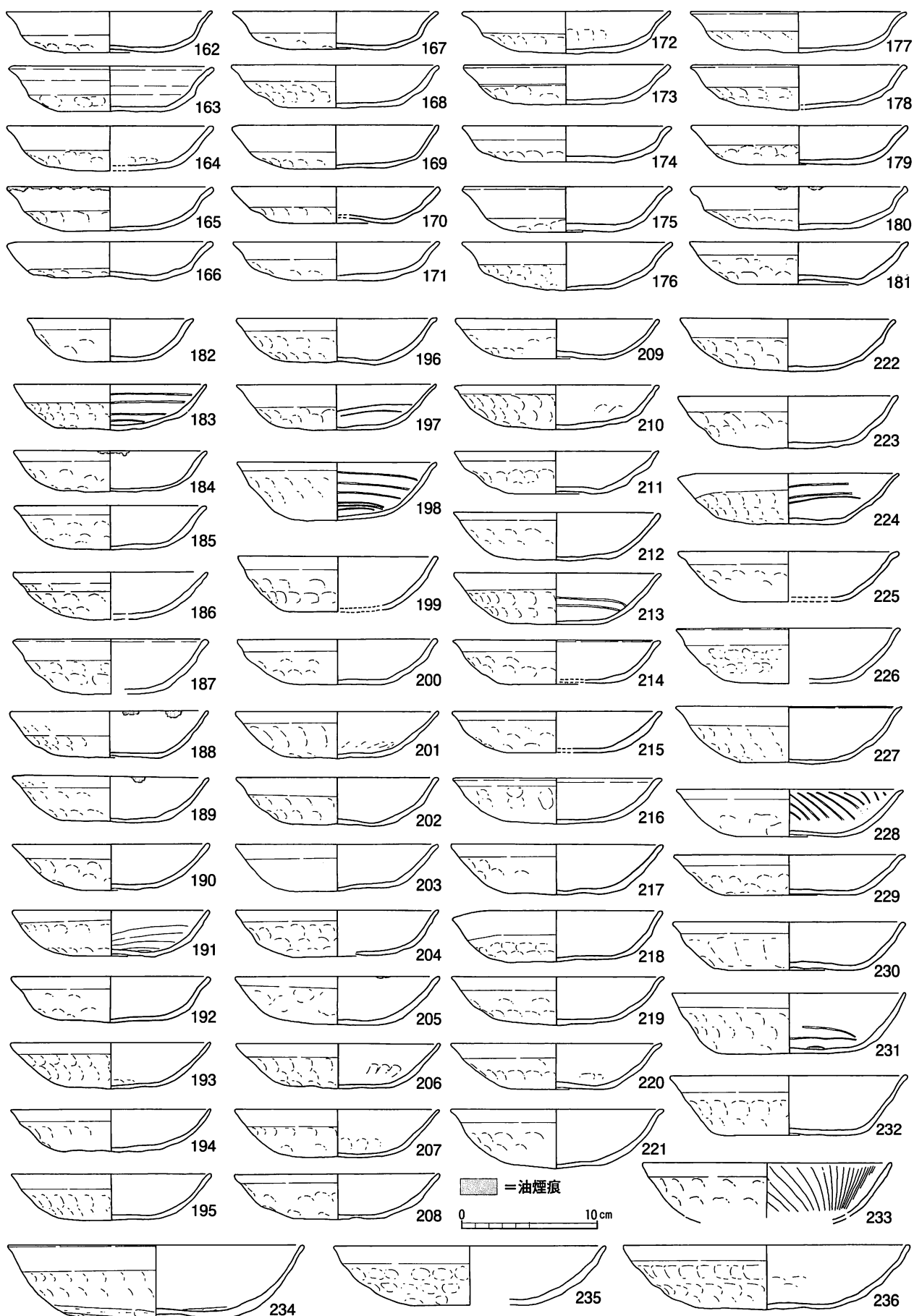
これらの遺物は緑釉陶器の火舎を除き、斎宮Ⅱ-3段階に相当するものである。

**SK 8851 出土遺物 (354～363)** 354～360は土師器。354～357は杯Aで口径13cm強の小形のもの(354・355)と、15.0～16.3cmの大形のもの(356・357)に分けられる。口縁部のヨコナデが2段になるものは端部内面がやや窪む。358・359は椀A。360は大型の皿A-aタイプのもの。これら土師器供膳具は先出のSK 8842のものと比べ全体的に厚手の作りとなっている。361・362は灰釉陶器の皿で、やや厚手の器壁に外方へ開く角高台を持ち、共に三又トチンの痕跡が見られる。362は底部外面に「十」字形のヘラ記号が刻まれている。いずれも猿投編年K-14号窯式期2段階～K-90号窯式期1段階の

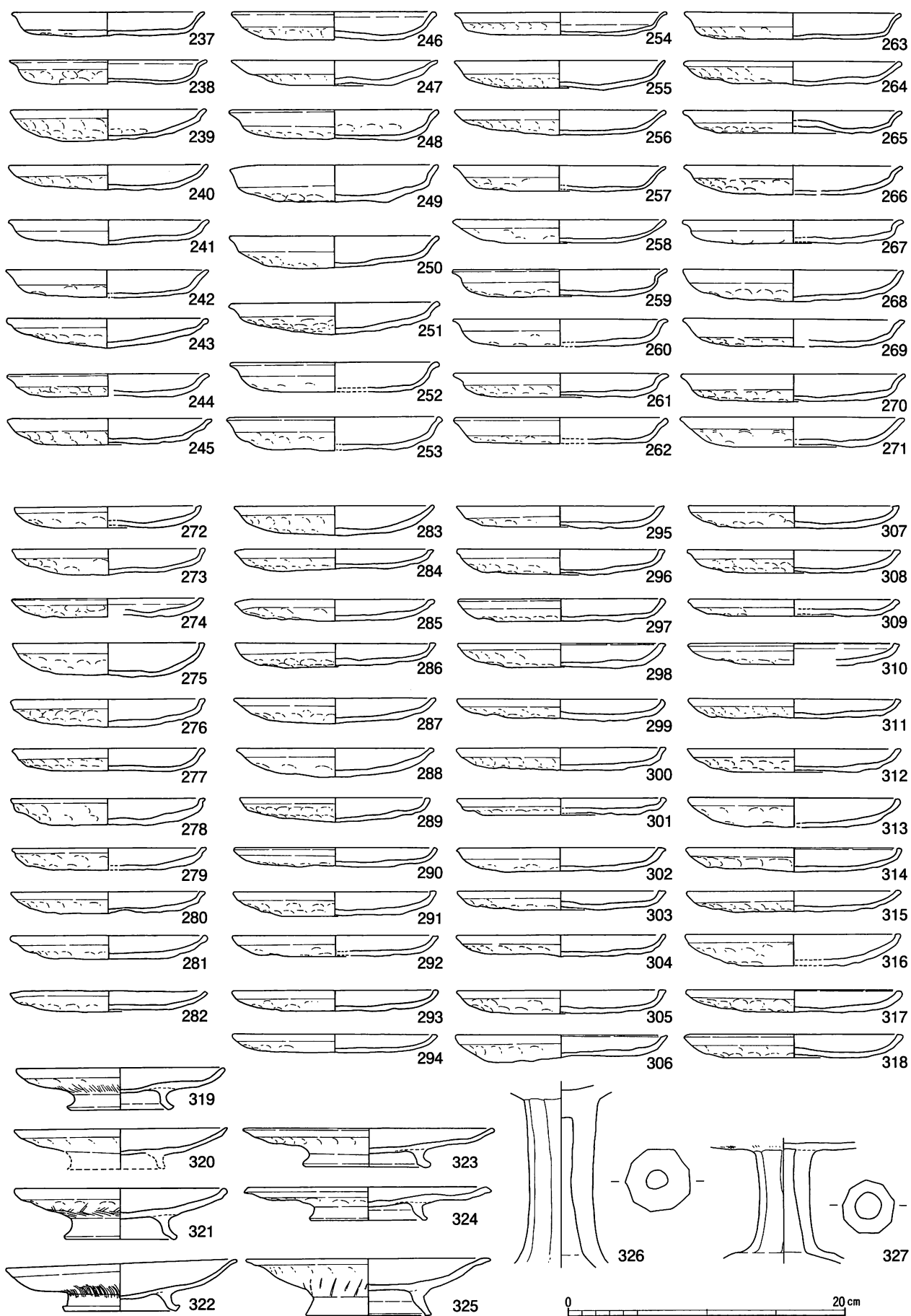


第Ⅱ-12図 第140次調査区 出土遺物実測図(3) (1:4、SK8842出土)

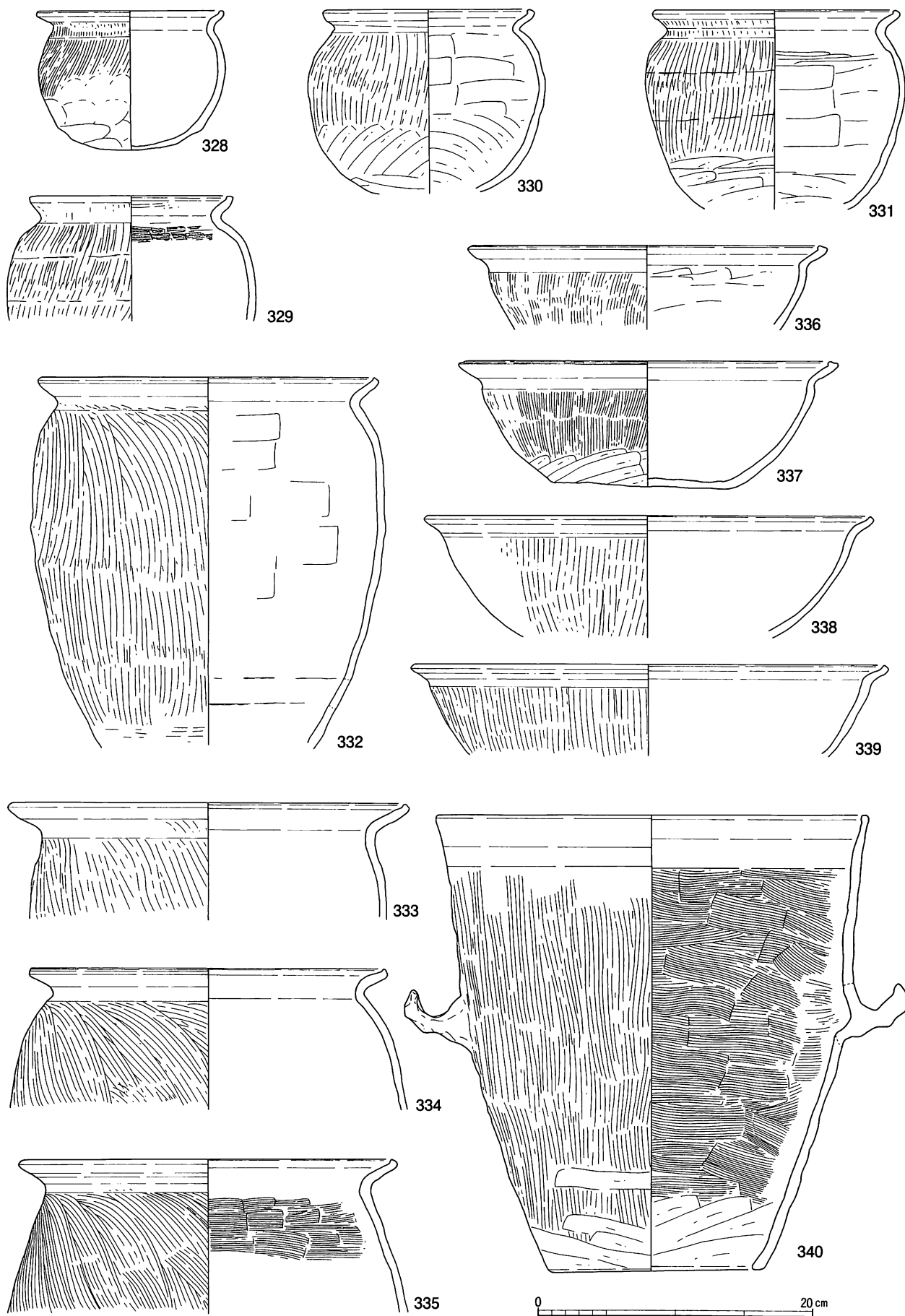




第Ⅱ-13図 第140次調査区 出土遺物実測図(4) (1:4、SK8842出土)



第II-14図 第140次調査区 出土遺物実測図(5) (1:4、SK8842出土)



第Ⅱ-15 図 第140次調査区 出土遺物実測図(6) (1:4、SK8842 出土)



ものであろう。363は平坦な底部に直線的に立ち上がる口縁部を持つ須恵器杯A。

これらの遺物は斎宮Ⅱ-3段階古相の時期に相当すると考えられる。

**S K 8852 出土遺物 (364 ~ 366)** 364は回転台土師器の台付小皿。台形状のいわゆる「柱状高台」部分は裾広がりとなり、扁平な小皿が付く。366は土師器杯。胎土は黄白色で、口縁端部が外側へ屈曲され鈍い面を有する。以上2点は斎宮Ⅲ-2段階に比定できる。365は陶器小椀。無高台で底部外面の糸切り痕が明瞭に残る。

**S D 8837 出土遺物 (367)** 器高が2.5cmと低いが、口縁部外面のヨコナデが2段になる杯A。口縁端部内面は強いヨコナデによりやや窪む。厚手の器壁に外反度の弱い口縁形状は斎宮Ⅱ-1段階のなかでも古い要素をもつものであろうか。

**S D 8840 出土遺物 (368 ~ 372)** 全て土師器である。368~370は杯A。いずれも口縁部のヨコナデが2段となる。371は皿Aのbタイプ。372は甕Aで体部外面をタテハケメ、内面をナデ調整している。

これらの遺物は概ね斎宮Ⅱ-3段階に相当すると考えられる。

**S B 8855 出土遺物 (373 ~ 378)** いずれも土師器。373・374は椀A。374は狭い底部に外上方へまっすぐ広がる口縁部を持つ。376は皿Aのbタイプ。口

縁端部に明瞭な面をもつ。375は口縁部が強く外反する皿Aのaタイプ。377は杯A。口縁部のヨコナデは幅広だが弱く、外面のユビオサエ痕が明瞭に残る。口縁端部の外反度は小さい。378は甕。口縁端部が内側に肥厚し、外傾する面を持つ。体部外面はやや粗いハケメで調整されるが、内面のヨコハケメは細かい。

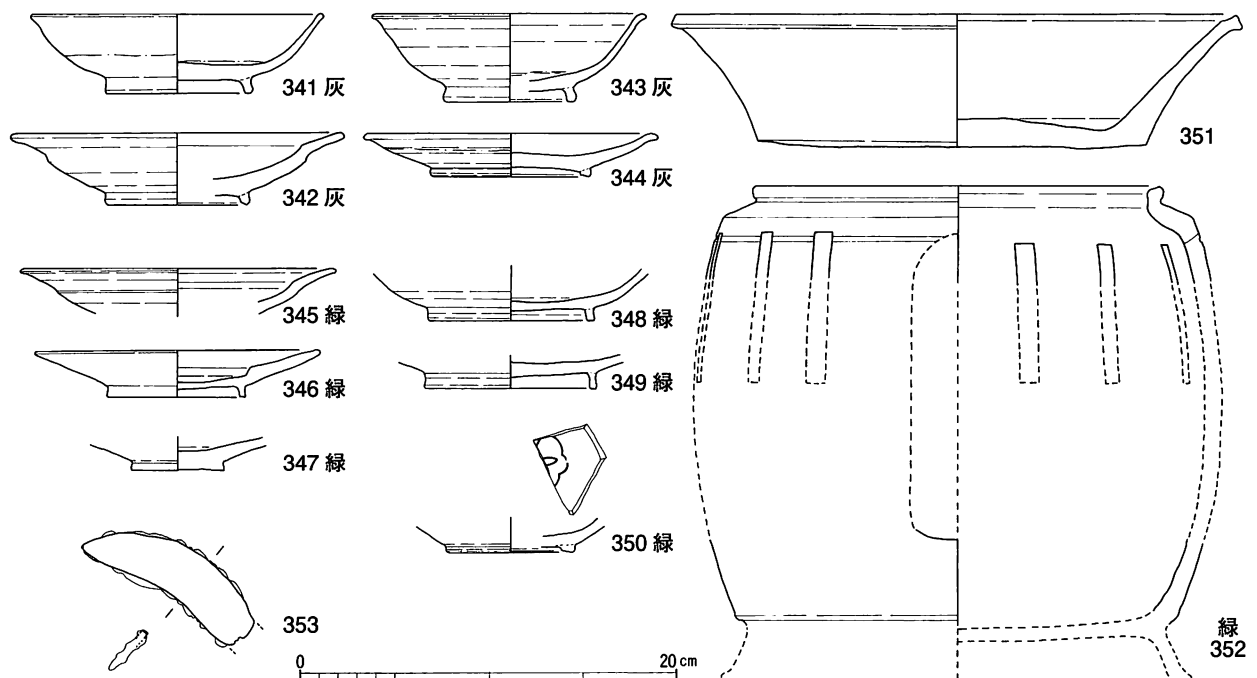
これらの土器は概ね斎宮Ⅱ-3段階に比定できる。

**S B 8860 出土遺物 (379・380)** 379は土師器甕A。口縁端部が内側に肥厚しほぼ水平となる面を持つので、体部外面をハケメ、内面をナデ仕上げされる。380は黒色土器A類。ヘラミガキは省略され内面には工具ナデによる調整痕が残り、全体的に粗雑な感をうける。また斎宮跡の黒色土器ではⅡ-4段階から一般的に見られる口縁端部内面の沈線が欠落している。

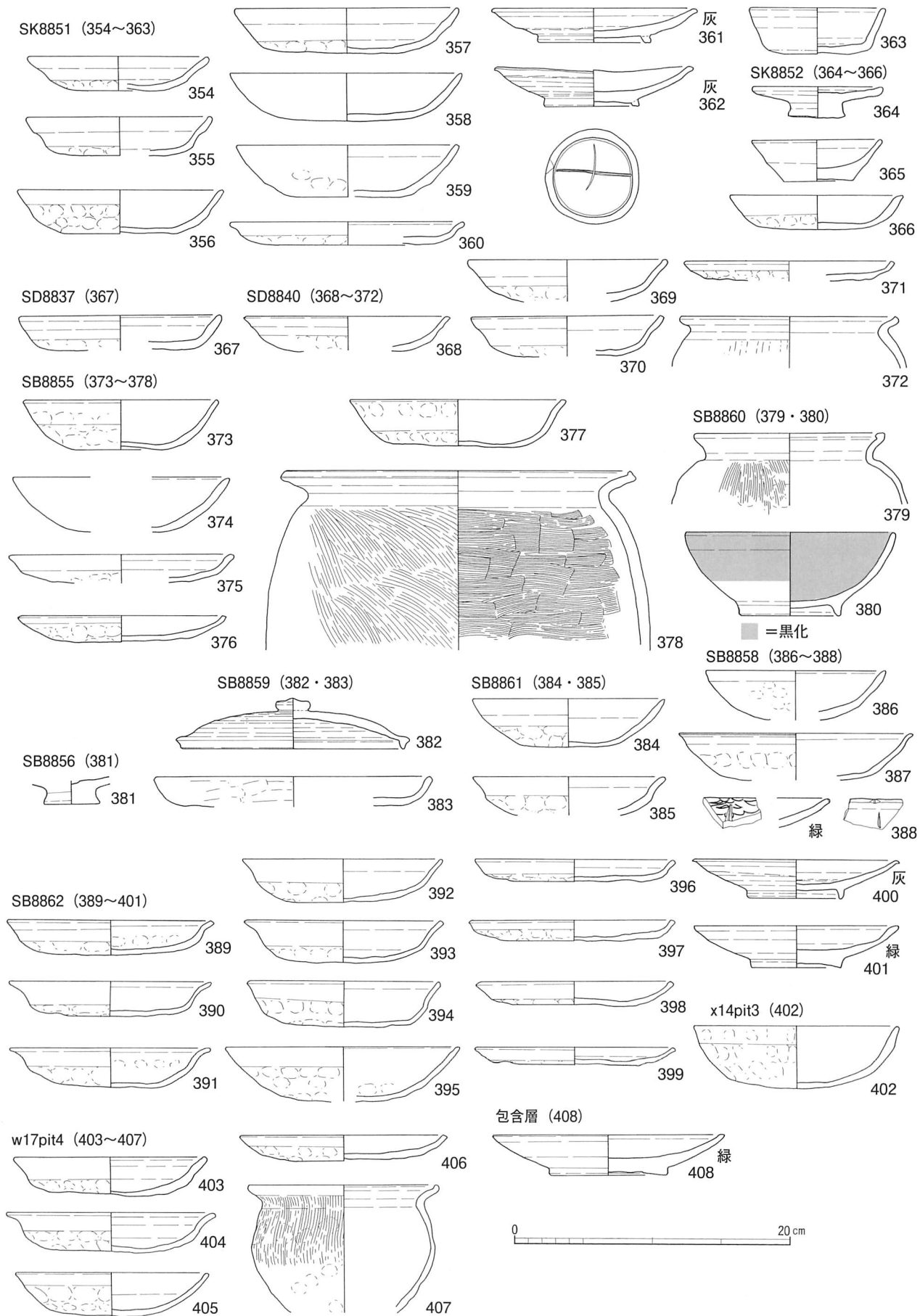
これらの土器はともに斎宮Ⅲ-2段階に相当すると考えられる。

**S B 8856 出土遺物 (381)** 回転台土師器の台付小皿。高台部分は台形状を呈し、底部には糸切り痕が残る。斎宮Ⅲ-2段階に相当する。

**S B 8859 出土遺物 (382・383)** 382は須恵器杯B蓋。断面三角形の口縁端部は内傾し、外側に端面を持つ。猿投編年O-10号窯式期のものであろうか。383は土師器皿Aで口径20.1cmと大形のもの



第Ⅱ-16 図 第140次調査区 出土遺物実測図 (7) (1:4、SK8842 出土)



第Ⅱ-17図 第140次調査区 出土遺物実測図(8) (1:4)

である。口縁部は緩やかに外上方へ立ち上がり、底部外面をヘラケズリ、口縁部をヨコナデするb手法で調整されている。斎宮Ⅰ-3～4段階に比定できると考えられる。

**S B 8861 出土遺物 (384・385)** 384は狭小な底部に直線的に立ち上がる長い口縁部を持つ土師器の椀A。外面のユビオサエが明瞭に残る。385は土師器杯A。器壁がやや厚く口縁部の外反度が大きい。

これらの土器は概ね斎宮Ⅱ-3～4段階に相当すると考えられる。

**S B 8858 出土遺物 (386～388)** 386・387は土師器椀A。386は底部から口縁部にかけて緩やかに内弯しながら立ち上がり、口縁端部の狭い範囲をヨコナデされる。器壁は若干厚い。387は口径16.9cmと大形で、器壁が薄く口縁端部は強くヨコナデされ外反する。これらは斎宮Ⅱ-3段階のものと考えられる。388は緑釉陶器の輪花皿。外面にはヘラによるキザミ目が、内面には陰刻と断面三角形の粘土を貼り付けた輪花が施される。猿投窯系で9世紀後半のものであろう。

**S B 8862 出土遺物 (389～401)** 389～399は土師器。389～394は杯A。口縁形態はヨコナデの強弱により外反度が強いタイプ(389～391・393)とそれほど外反しないタイプ(392・394)に分けられ

るが、法量差は見られない。395は椀A。396・397は皿Aのaタイプ、398・399はbタイプとなる。これらの土師器供膳具は斎宮Ⅱ-3段階に比定できる。400は灰釉陶器皿。薄手の皿にやや幅広くずれた三日月高台が付く。猿投編年K-90号窯式期のものであろう。401は京都産の緑釉陶器皿。口縁部は体部中ほどで僅かに内側へ屈曲し、端部内面は肥厚する。斎宮Ⅱ-3段階のものと思われる。

**ピット出土遺物 (402～407)** 402は土師器杯G。丸い底部から口縁部が大きく内弯して立ち上がり、口縁端部がヨコナデされる。斎宮Ⅰ期に相当するものであろう。403～407は同一ピット出土遺物である。403・404は土師器杯A。405は土師器椀A。406は土師器皿Aのbタイプ。いずれも斎宮Ⅱ-3段階に比定できる。407は小形の土師器甕A。口縁端部内面がやや肥厚する。斎宮Ⅱ-2～3段階のものであろう。

**包含層出土遺物 (408)** S K 8842直上で出土しており、本来はS K 8842に伴う可能性が大きい緑釉陶器皿である。素地は硬質で赤紫色、釉は濃緑色を呈する。高台は削り出しの蛇の目高台となる京都産のもので、斎宮Ⅱ-3段階に比定できる。(才木 薫)

## 5 まとめと検討

### (1) 掘立柱建物群の変遷について

今回の調査で確認された掘立柱建物は11棟で、柱掘形の重複や建物方位、そして出土遺物を参考にして、所属時期の不明なものを除き、おおむね建物群として以下の5時期の変遷を考えることができる。

**第1期** SB8853・SB8854が相当し、ほぼ座標方向に近いN1°W偏の建物方位をもつ南北方向の建物群で、建物規模は梁行2間で、桁行が5間のものと4間のものがある。

柱掘形の重複関係からするともっとも古く位置づけられるもので、奈良時代末期～平安時代初期のⅠ-4～Ⅱ-1段階に相当する可能性が高い。

**第2期** SB8859・SB8860が相当し、座標北から3°W偏方向に建物の主軸をおくもので、5間×2間の東西方向建物である。平安時代前期前葉のⅡ-1段階頃に建てられた可能性が高い。SB8860は重複関係からSB8859より新しい。ただし柱穴柱痕と思

次数	地区	グリッド	遺構・層名	緑釉破片数	備考
140	S 10	v11	表土	1	
140	S 10	v13	pit10	1	
140	S 10	v14	表土	1	
140	S 10	v15	pit1	1	
140	S 10	v16	SB8860	1	
140	S 10	v18	SD8840	1	
140	S 10	v18	SK8842	22	(第Ⅱ-16図345～350・352)
140	S 10	v18	包含層	3	内1点は図示(第Ⅱ-17図408)
140	S 10	w15	SD8839	1	
140	S 10	w17	pit4	1	陰刻花文あり
140	S 10	w17	包含層	1	皿の見込み部分に陰刻花文あり
140	S 10	w18	SB8861	1	
140	S 10	w19	pit8	1	
140	S 10	w19	SB8862	1	(第Ⅱ-17図401)
140	S 10	y12	SB8854	1	
140	S 10	y14	攪乱	1	
140	S 10	y17	攪乱	4	
140	S 10	y17	SB8858	1	(第Ⅱ-17図388)
140	S 10	y17	包含層	1	

第Ⅱ-1表 第140次調査区緑釉陶器出土地点・破片数一覧

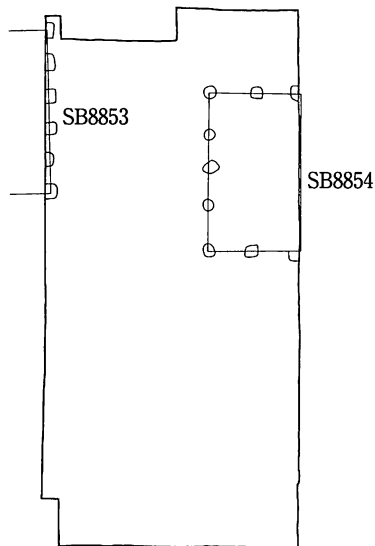
われるピットの埋土上面からⅢ-2段階の黒色土器  
椀などが出土しており、これがSB8860の下限を示  
すものだとすれば平安時代後期まで下る可能性をも  
つことになる。

しかしながら、柱掘形は方形で大きく、建物方位  
はSB8859とほぼ同じで、しかも後述するが第136  
次調査区等で確認されているように、西加座南区画  
の平安時代前期の建物群と同一規格の建物となるこ  
とから、この時期の建物として認識しておきたい。

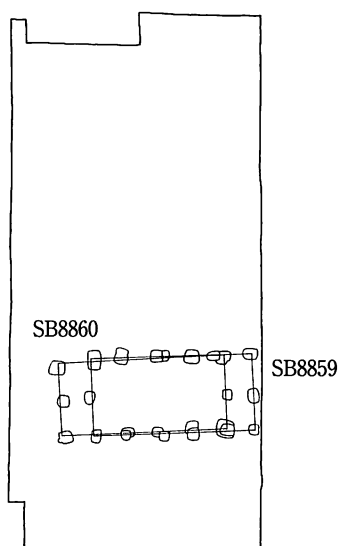
**第3期** SB8855・SB8862が相当し、N3~4°W  
偏する建物の主軸をおく5間×2間の東西方向の建  
物群で、ほぼ同じ大きさの建物が南北に並ぶ。Ⅱ-  
3段階に相当し、平安時代前期中~後葉にあたる。

なお、SB8858も柱穴内の遺物からすると当該期  
に属する可能性が高い。3間×2間の南北建物で、  
方位はN1°W偏の主軸をとり、SB8855・8862  
とは方位も建物規模も異なる。この建物は、柱抜き  
取り痕に焼土を多く含むなど、火災を被った可能性

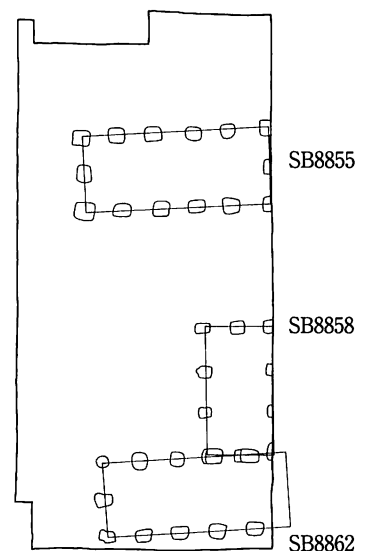
1期



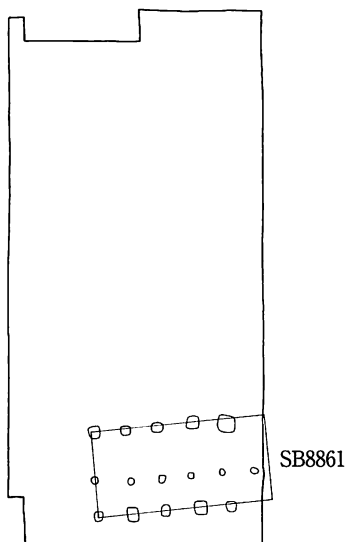
2期



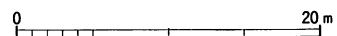
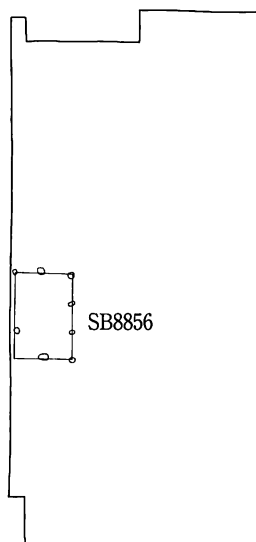
3期



4期



5期



第Ⅱ-18図 第140次調査区 建物変遷図 (1:500)



があり、重複関係からするとSB8862より古く位置づけられる。

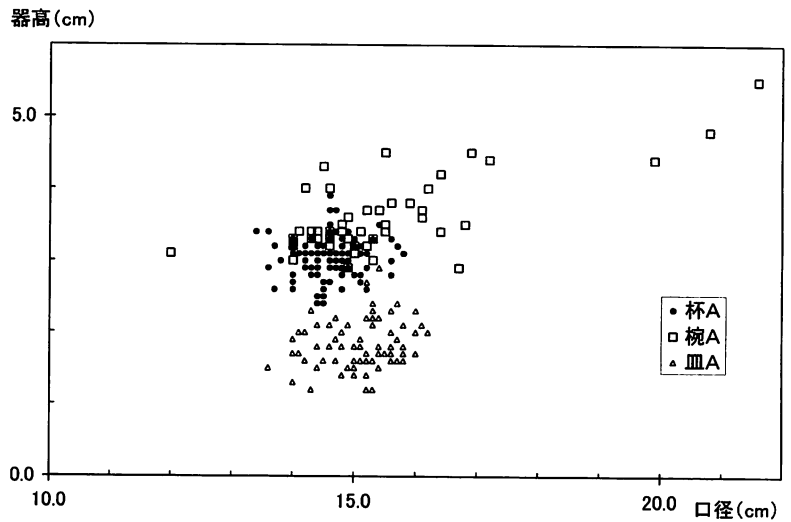
**第4期** SB8861が相当し、N 5° W 偏に主軸をおく5間×2間の東西方向の建物で、束柱を伴う。II-3~4段階の平安時代前期後葉~中期前葉にあたる。

**第5期** SB8856が相当し、N 1° W 偏と、建物主軸が再び座標北に近くなる。3間×2間の南北建物

で、柱掘形が以前のものと比べ、円形で小さくなる。III-1段階以降のものと思われ、平安時代後期にあたる。

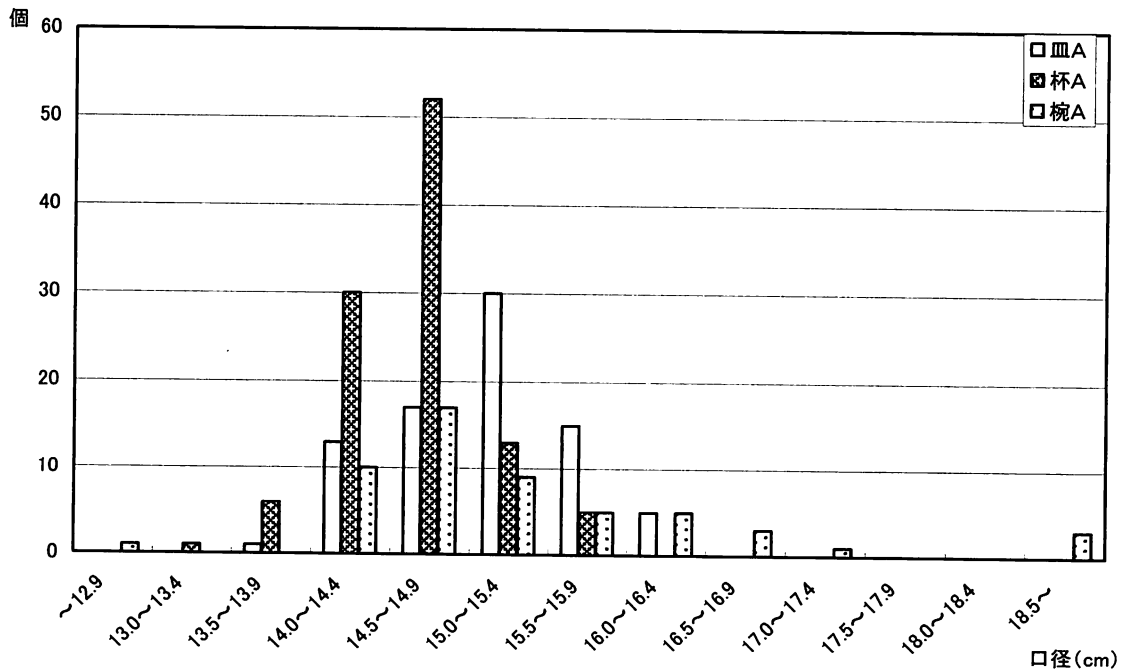
SB8857については、遺構の重複関係から第2期のSB8859より新しい建物であるが、出土遺物に乏しく、時期比定が困難である。柱掘形が円形でやや小さくなることから、平安中期以降に下る可能性がある。

種別	形態	計測数値 (1/12=1)	個体数 (個)	土師器 機種別比率	比率
土師器	供膳	4952.8	412.7	96.99%	97.12%
	(ロク口)	0.0	0.0	0.00%	
	貯蔵	0.0	0.0	0.00%	
	煮沸	134.8	11.2	2.64%	
	祭祀	19.0	1.6	0.37%	
	その他	0.0	0.0	0.00%	
	小計	5106.6	425.5	100%	
黒色土器	供膳	2.0	0.2		0.12%
	貯蔵	4.5	0.4		
	小計	6.5	0.6		
須恵器	供膳	10.0	0.8		0.34%
	貯蔵	6.0	0.5		
	その他	2.0	0.2		
	小計	18.0	1.5		
灰釉陶器	供膳	81.5	6.8		1.65%
	貯蔵	5.2	0.4		
	その他	0.0	0.0		
	小計	86.7	7.2		
緑釉陶器	供膳	39.5	3.3		0.77%
	貯蔵	0.0	0.0		
	その他	1.0	0.1		
製塩土器	供膳	40.5	3.4		0.77%
	土鍾	0.0	0.0	0.00%	
土鍾		0.0	0.0	0.00%	
総計		5258.3	438.2	100%	



第II-19図 第140次調査区 SK 8842 土師器供膳具法量散布図

第II-2表 第140次調査区 SK 8842 出土土器組成表



第II-20図 第140次調査区 SK 8842 土師器供膳具口径分布図

(2) 土坑 SK8842 出土土器について

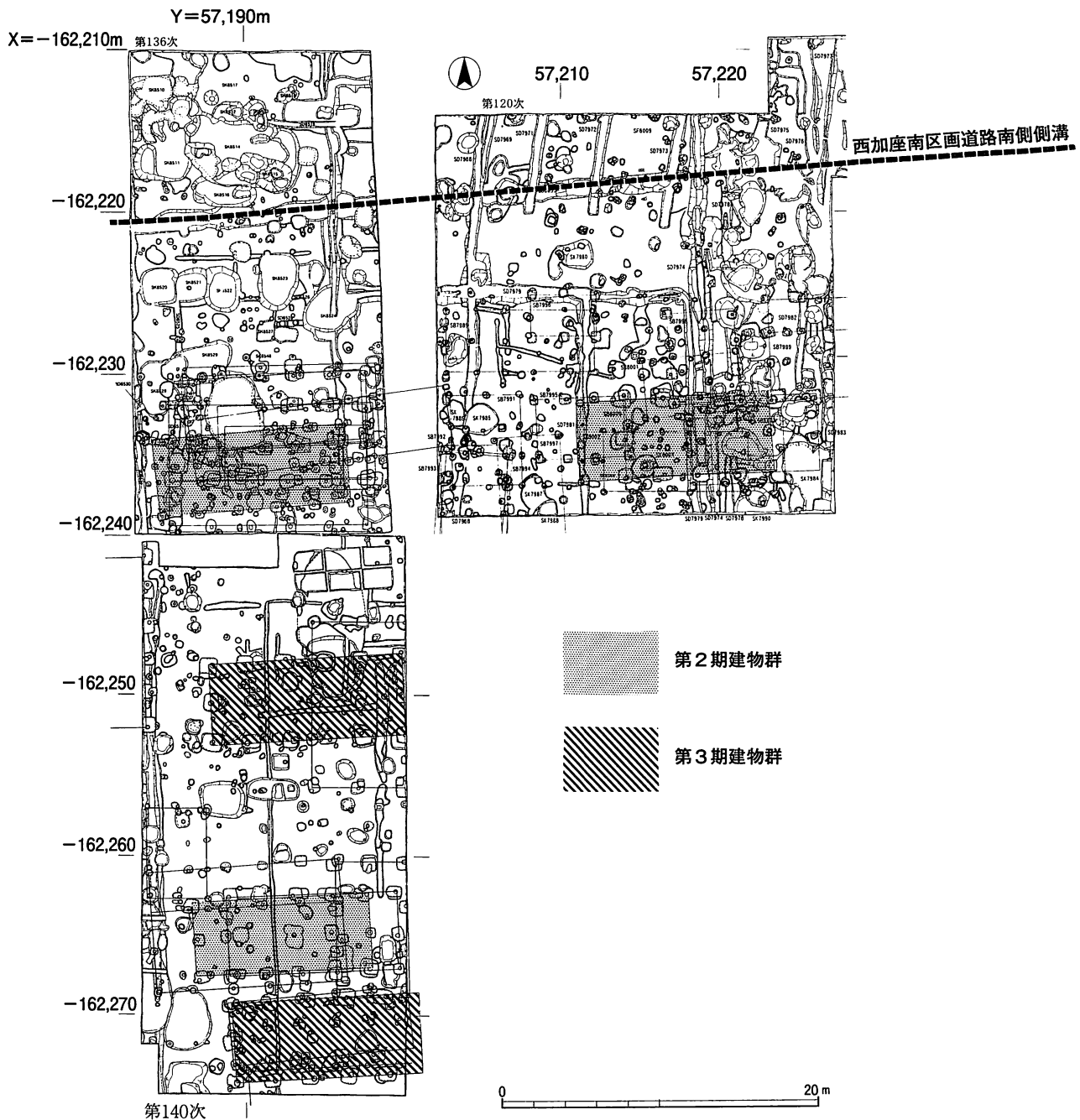
土坑 SK8842 から多量の土器類が出土したが、そのうちの 97% は土師器で、さらにその 97% 程度が杯・皿・椀などの供膳形態のものである。

この一括の土器群は、斎宮跡の土器編年でいう第Ⅱ期第3段階として捉えられるもので、この段階の土師器供膳具は、法量の規格化が進み法量分化が明瞭でなくなるとともに、次第に杯A・椀Aの形態上の差も不分明となっていく傾向にある。

S K 8842 出土の土師器の供膳具もそれぞれの法

量がきわめて近似し、杯Aと椀Aの区別も形態を一見するだけでは区別し難いものが含まれるが、口縁部と底部の境や底径の大きさなどの形態上の特徴に加え、杯Aでは椀Aと比べ口縁部のヨコナデの範囲が広いなどの手法上の特徴から区別が可能である。また、椀Aの一部には内面にごく粗いヘラミガキが施されているものがみられ、口径 20cm 以上の大形のものがある。

杯Aは口径 14～15cm、器高 3 cm 前後、皿Aについても口径 15cm 前後、器高 2 cm 弱が最も集



第Ⅱ-21 図 第140次調査区 西加座南区画東半北部建物群配置図 (1:400)

中する。椀 A についても杯 A と近似する。これはⅡ-3 段階の基準資料となっている SK7430 出土資料と比べてもほぼ同じ傾向にある。

施釉陶器は、K-90 号窯式のもの为主体であるが、緑釉陶器のうち円盤状高台となる皿 (347) は京都産とされるものである。また、特筆すべきものに緑釉陶器の火舎 (352) がある。これは喫茶の風習と関連させるなど、椀・皿などの供膳具に緑釉が用いられる以前の特殊な用途で製作されたものとされる。

これまで火舎などの初期の緑釉陶器は、斎宮跡では同じ西加座区画の 86 次調査区からも出土しているが、奈良時代末～平安時代初期に京都洛北で生産されたもので、今回の場合小破片のみの出土だが、50 年近く伝世されて後、廃棄されたことになる。

### (3) 西加座南区画の課題について

昨年度に引き続き西加座南区画の調査を実施し、方格地割内の建物配置が次第に明らかとなりつつある。

西加座南区画は、区画内を中央道路によって東西に分断されることが判明しており、方格地割施工直後の状況として、西半区画には東西 140 尺、南北

120 尺の掘立柱塀に囲まれた祭殿風の建物があり、140 次調査地のある東半区画には、西加座南区画の北側にあたる西加座北区画と同様、東西方向の建物がある時期に東西二棟並びで整然と配置されている可能性を考えた。今回の調査で確認された SB8860 はまさにこれに合致する配置となることが判明した。第 136 次調査で確認された SB8543 の南側柱列と SB8860 の北側柱列との距離は 2,430cm ほどで、尺度でいえば 81 尺にほぼ相当することとなる。

平安時代前期前葉での建物の規格は明らかとなりつつある。しかしながら、西加座南区画全体の建物がどのような変遷を経ていくのかまでは、現時点では把握しきれていない。

また、西加座北区画の場合、整然とした建物群を側柱倉庫群と捉え、斎宮寮の寮庫に当てているが、同じような建物配置をとる西加座南区画東半区画を、これと異なる性格のものとするか否かは判断できていない。

建物方位は、ほぼ座標方向に沿うものと、N 4° W 前後偏るものとに大別できる。第 136 次調査もこれとほぼ同様の結果を得ている。これに対し、斎宮の遺構変遷を考える上で重要な指標となる斎宮の

遺構名	遺構の種類	地区	グリッド	時期 (斎宮編年)	出土遺物	遺構の性格・重複関係
SD8836	溝	S10	y11 ~ 16	平安～	土師器 (杯・皿・蓋・甑・甕)、須恵器 (杯蓋・杯身・壺・甕)	SK8846・SH8845 より新。
SD8837	溝	S10	y11	平安前期～	土師器 (杯・皿・甕)	SH8845 より新。
SD8838	溝	S10	v12,w12,x12,y12	平安前期	土師器 (杯・皿・甕)	SK8846 より新。
SD8839	溝	S10	w12 ~ 19 x18・19	平安～	土師器 (杯皿類)、須恵器 (甕)、緑釉陶器	SB8862・SK8844 より新。
SD8840	溝	S10	u11 ~ 19 v12 ~ 19	平安～	土師器 (杯・高杯・蓋・甕)、黒色土器 A 類 (杯)、須恵器 (杯蓋・壺・甕)、灰釉陶器 (椀・段皿)、製塩土器	SB8853・SB8856・SB8857・SK8842・SK8851 より新。
SD8841	溝	S10	v11・12	平安?	土師器 (杯皿類・甕)、灰釉陶器?	
SK8842	土坑	S10	v18・19	平安前期	土師器 (杯・皿・台付皿・高杯・甕・壺・甑)、須恵器 (盤・壺・甕)、緑釉陶器 (椀・皿・段皿・壺)、灰釉陶器 (椀・段皿)	SB8857 より古。SK8851 との関係不明。
SK8843	土坑	S10	v14・15, w14・15	奈良後期 (Ⅰ-3)	土師器 (杯・皿・椀・甕・甕)、須恵器 (壺・甕)	SB8856 より古。
SK8844	土坑	S10	w14・15, x14・15	奈良後期?	土師器 (杯皿類・壺・甕)	
SH8845	竪穴状遺構	S10	x11・y11	奈良後期 (Ⅱ-1 以前)	土師器 (杯・皿・椀・高杯・蓋・壺 E・甕・把手甕・異形筒形土器)、須恵器 (杯身・鉢・壺・甕)、土錘	SK8846 より新。
SK8846	土坑	S10	x11・12 y11・12	奈良後期 (Ⅰ-4)	土師器 (杯・杯 B・皿・椀・蓋・壺 E・甕・把手甕・長胴甕)、黒色土器 A 類、須恵器 (杯蓋・杯身・壺・甕)、土錘	未掘 (検出のみ)
SD8847	溝	S10	w13,x13,y13	平安～	土師器 (杯・甕)、須恵器 (杯蓋・杯身・壺)	
SD8848	溝	S10	y12		土師器 (杯皿類・甕)、黒色土器 A 類、須恵器 (甕)、近世陶磁器類	
SD8849	溝	S10	y12	平安～	土師器 (杯皿類・甕)	
SE8850	井戸	S10	x12・13 y12・13	奈良後期 (Ⅱ-1 以前)	土師器 (杯・皿・椀・高杯・蓋・鉢・壺 E・甕・ミ甕)、須恵器 (杯蓋・杯身・高杯・皿・壺・甕)、製塩土器	方形掘形の井戸、上層検出のみ。SK8846 より新。
SK8851	土坑	S10	u17・18 v17・18	平安前期 (Ⅱ-2・3)	土師器 (杯・皿・高杯・蓋・甕)、黒色土器 A 類、須恵器 (杯身・高杯・甕)、灰釉陶器 (椀・皿)、製塩土器	
SK8852	土坑	S10	x13・14	平安後期 (Ⅲ-2・3)	土師器 (皿・台付椀・甕・ろか台付皿)、陶器 (小椀)、灰釉陶器 (椀)、土錘	土墳墓 SB8854・SB8855 より新。

第Ⅱ-3表 第140次調査区遺構一覧表

度会郡への16年間にわたる移転期間は、斎宮の土器編年ではⅡ-2段階のうちと考えている。

したがって第136次調査では建物方位の変化と関連させ、Ⅱ-2段階からⅡ-3段階にかけての時期に建物配置に大きな変動があった可能性を考えたわけであるが、第136次調査でみた建物方位が4°前後西偏する方向から座標方向へという変化は、今回は当てはまらない結果となり、再考の必要が生じた。

また今回の調査結果では、Ⅱ-3段階にあたる第3期でもSB8855とSB8862の2棟が、建物方位や規模、柱掘形の大きさ、梁行の柱揃いなど、ほぼ規格的といってよいものであり、これに先行するSB8858を罹災建物とみると、この時期に西加座区画で火災等が原因で数棟単位の官舎の建て替えがあった可能性を示唆するものである。

なお、この時期に相当する斎宮の火災としては、「日本三代実録」貞観9(867)年の条に斎宮寮の官舎12棟の焼失記事があるが、それとの関係は今後の付近の調査の課題とし、即断は避けたい。

今回の調査区の中なかでは、平安時代前期を通じて、とくに他より規模の大きい中心的な建物となるようなものは確認できず、やはり西加座南区画東半区画は、等質的な建物群からなる状況が確かめられた結果となった。(竹内英昭・才木 薫)

<註>

- (1) 駒田利治・泉雄二・倉田直純「斎宮跡の土器」(『斎宮跡発掘調査報告』Ⅰ 斎宮歴史博物館 2001年)
- (2) 古代の土器研究会編『古代の土器2 都城の土器集成Ⅱ』(1993)
- (3) 齋藤孝正『越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器 日本の美術6』(2000)

遺構名	地区	グリッド	ピット番号	ピット遺物の時期	建物時期	規模 〔東西間(m)×南北間(m)〕	柱間 東西-南北	主軸方向	方位 (N基準)	備考
SB8853	S10	u11	P1・P2		I-4	*×5 (10.7)	*-2.1・2.2	南北	N1°W	
		u12	P2							
		v12	P9							
		v13	P3・P4							
SB8854	S10	x12	P2		I-4	2(5.9)×4(10.4)	2.9-2.4・2.9	南北	N0°	SK8846・SE8850より新しい。
		x13	P3	I-3~4						
		x14	P5・P8							
		v12	P1・P5	P1: I-3~4						
SB8855	S10	v14	P3・P7		II-3	5(12.1)×2(5.0)	2.4-2.4	東西	N3°W	SE8850・SB8854より新しい。
		w13	P6・P9	P9: II-3						
		w14	P7							
		w14	P2・P3							
		x13	P1・P5							
		x14	P7・P10							
		v12	P3・P4							
SB8856	S10	v13	P3		III-2	2(3.7)×3(5.6)	1.9-1.9	南北	N1°W	SK8843より新しい。
		v14	P4・P6							
		u5	P1							
SB8857	S10	v15	P2・P6・P7			5(11.8)×2(5.2) 庇(7.8)	2.3・2.4-2.5・庇2.6	東西	N4°W	北面庇建物。 SB8858・SB8859・ SB8860より新しい。
		v16	P4・P7・P8	P4柱痕跡: III-2						
		v16	P9							
		v18	P3							
		w16	P1・P2・P6							
		w18	P2・P11							
SB8858	S10	x16	P3・P7		II-3	2(4.5)×3(8.6)	2.2・2.3-2.8・2.9	南北	N1°W	柱抜き取り痕あり。焼土含む。
		v17	P10	P4: II-1~3						
		v16	P6							
		x17	P6							
		v17	P5	II-2・3						
SB8859	S10	v18	P8・P9		II-1	5(10.7)×2(5.0)	19・20・21-24・25・26	東西	N3°W	
		w17	P6・P7・P10							
		x16	P2・P4							
		x17	P1・P7							
SB8860	S10	v16	P5・P7	P5: II-1	II-1	5(10.8)×2(4.6)	2.1・2.2-2.3	東西	N3°W	SB8858・SB8860より新しい。
		v17	P2・P4	P2柱痕跡: II-1						
		v16	P5	III-2						
		x17	P4	P2柱痕跡: III-2						
		v17	P1・P11							
SB8861	S10	w18	P1・P6・P13		II-3 ~4	5(11.2)×2(4.0)	2.1・2.2・2.3-2.0	東西	N5°W	SB8862より新しい。
		w19	P1・P3							
		x18	P2・P5							
		x19	P2	II-3・4						
		v18	P1・P7・P11	P1: II-3						
SB8862	S10	v19	P4・P6	P4: II-4, P6: II-2~3	II-3	5(11)×2(5.0)	2.4-2.5	東西	N4°W	SB8858より新しい。
		w18	P5・P8・P9							
		w19	P9・P14							
		x18	P1							
		x19	P8							
SB8863	S10	v18	P2・P6			5(10)×*	2.0-*	東西	N3°W	
		v19	P2・P5							
		w19	P3							
		x19	P3・P6・P7							
		v19	P1・P7							

第Ⅱ-4表 第140次調査区掘立柱建物一覧表



番号	出土遺物 器種	出土 器形	法 量 (cm)			調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残 存 度	備 考	登録 番号
			口径	高さ	その他							
1	土師器	杯G	S 10-y11 SH8845	12.6	2.8	外：口縁部コナリか？、底部～底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリか？、底部～底部障子	ウソモ多量含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	3/12		046-08
2	土師器	杯G	S 10-y11 SH8845	12.7	—	外：口縁部コナリか？、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子か？	赤色斑粒少量、砂粒・ウソモ多量含む	良好	橙 7.5YR7/6	2/12		049-04
3	土師器	杯A	S 10-y11 SH8845	14.0	2.9	外：口縁部コナリ、底部障子 内：口縁部コナリ、底部障子	赤色斑粒・白色粒多量含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		049-03
4	土師器	杯A	S 10-x11 SH8845	13.7	3.2	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子	赤色斑粒少量含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	10/12		045-04
5	土師器	杯A	S 10-y11 SH8845	13.8	2.9	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子	赤色斑粒少量、白色粒多量含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	4/12		049-06
6	土師器	杯A	S 10-x11・y11 SH8845	14.0	3.1	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子	白色粒・ウソモ多量含む	良好	橙 5YR6/8	9/12		048-01
7	土師器	杯A	S 10-y11 SH8845	14.8	3.2	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子	赤色斑粒・白色粒少量、ウソモ多量含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		049-05
8	土師器	杯A	S 10-x11 SH8845	15.2	3.0	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子	赤色斑粒・ウソモ少量含む	良好	橙 5YR6/8	9/12		048-02
9	土師器	杯A	S 10-y11 SH8845	18.1	4.3	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子	白色粒・ウソモ多量含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		046-07
10	土師器	杯A	S 10-y11 SH8845	18.0	4.0	外：口縁部コナリ、底部障子 内：口縁部コナリ、底部障子	精良	良好	橙 5YR6/8	8/12		050-01
11	土師器	杯A	S 10-y11 SH8845	19.1	3.8	外：口縁部コナリ、底部障子 内：口縁部コナリ、底部障子	砂粒多量含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		046-02
12	土師器	碗A	S 10-y11 SH8845	17.4	—	外：口縁部コナリ、口縁部障子 内：障子	赤色斑粒・ウソモ少量含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		046-04
13	土師器	皿A	S 10-x11 SH8845	17.9	2.0	外：口縁部コナリ、底部障子 内：口縁部コナリ、底部障子	砂粒多量含む	良好	橙 7.5YR6/8	9/12		046-01
14	土師器	皿A	S 10-y11 SH8845	19.0?	2.0	— 摩滅	白色粒多量含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	1/12		046-05
15	土師器	皿A	S 10-y11 SH8845	18.5	2.1	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子	精良	良好	橙 5YR6/8	2/12		046-06
16	土師器	皿A	S 10-y11 SH8845	19.8	2.2	— 摩滅	赤色斑粒多量含む	良好	橙 7.5YR7/6	2/12		046-03
17	土師器	皿A	S 10-y11 SH8845	17.8	2.1	外：口縁部コナリ、底部障子 内：口縁部コナリ、底部障子	赤色斑粒多量含む	良好	橙 5YR7/8	6/12		050-03
18	土師器	皿A	S 10-y11 SH8845	22.0?	2.8	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子	赤色斑粒多量、砂粒少量含む	良好	橙 5YR6/8	1/12	底部内面にワタの痕跡	047-03
19	須恵器	盤	S 10-y11 SH8845	—	—	高台径 14.6cm 内：回転子	白色粒多量含む	良好	外：灰 N6/ 内：灰白 N7/	高台 2/12		047-04
20	須恵器	壺E	S 10-y11 SH8845	7.1	9.1	6.6 外：口縁部～底部回転子、底部下1/4回転子（反時計回り）、高台内（反時計回り）、底部回転系切のちり子 内：回転子	白色粒多量含む	軟	橙 2.5YR6/8	—	口縁部 2/12 底部 完存	047-05
21	土製品	土鉢	S 10-y11 SH8845	長さ 4.9 最大径 19.12cm	重量 12.80g	—	白色粒多量、ウソモ少量含む	良好	淡黄 2.5YR8/4	—	—	048-04
22	土製品	土鉢	S 10-y11 SH8845	長さ 3.9 最大径 1.1	重量 3.95g	—	白色粒少量含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	—	—	048-03
23	土師器	甕A	S 10-x11 SH8845	18.2	—	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサのちり子 内：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ	砂粒・ウソモ多量含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	4/12	外面二次被熱により赤変、煤付着	047-01
24	土師器	甕A	S 10-y11 SH8845	17.1	—	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ	砂粒・ウソモ多量含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	1/12	外面二次被熱により赤変、口縁部内面～外面煤付着	045-03
25	土師器	甕A	S 10-y11 SH8845	20.2	—	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ	砂粒多量含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	2/12	—	049-02
26	土師器	甕A	S 10-y11 SH8845	16.8	—	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ	砂粒多量含む	良好	明黄橙 10YR7/6	—	頸部完存 口縁部 1/12	045-01
27	土師器	甕A	S 10-y11 SH8845	18.8	—	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ	白色粒多量含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	2/12	口縁部内面～外面二次被熱により部分的に赤変、煤付着	045-02
28	土師器	甕	S 10-y11 SH8845	23.6	—	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサのちり子 内：口縁部コナリ、底部障子	砂粒・ウソモ多量含む	良好	明黄橙 10YR7/6	2/12	—	049-01
29	土師器	甕	S 10-y11 SH8845	27.7	—	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子	砂粒多量含む	良好	橙 7.5YR7/6	3/12	—	047-02
30	土師器	罎B	S 10-y11 SH8845	22.8	—	外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子	赤色斑粒少量含む	良好	橙 5YR6/8	2/12	—	050-02
31	土師器	瓶	S 10-x11 SH8845	23.3	24.2	16.9 外：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ 内：口縁部コナリ、底部障子・北ノサ	砂粒多量、ウソモ少量含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	—	口縁部完存 胴部上 9/12	043-01
32	土師器	杯A	S 10-y13 SK8846	16.3	3.6	—	精良 ウソモ多量含む	良好	橙 5YR6/8	5/12	—	036-06
33	土師器	杯A	S 10-x12 SK8846	16.4	3.8	—	精良 ウソモ少量含む	良好	橙 5YR6/8	5/12	—	038-02
34	土師器	杯A	S 10-x12 SK8846	15.5	—	—	赤色斑粒多量、ウソモ少量含む	良好	明黄橙 10YR7/6	2/12	—	036-04
35	土師器	杯A	S 10-x12 SK8846	15.9	—	—	白色粒・ウソモ多量含む	良好	橙 2.5YR6/8	2/12	外面に煤付着	036-02
36	土師器	碗A	S 10-y13 SK8846	17.0	4.5	—	白色粒少量、ウソモ多量含む	良好	橙 5YR6/8	2/12	—	036-03
37	土師器	杯A	S 10-x12 SK8846	15.2	3.6	—	赤色斑粒少量、ウソモ多量含む	良好	橙 5YR6/8	5/12	—	038-01
38	土師器	皿A	S 10-y12 SK8846	16.4	2.5	—	赤色斑粒・ウソモ少量含む	良好	橙 5YR6/8	2/12	—	036-05
39	土師器	皿A	S 10-x12 SK8846	18.1	2.2	—	赤色斑粒多量、白色粒少量含む	良好	橙 5YR6/8	3/12	—	038-03
40	土師器	甕A	S 10-x12 SK8846	19.6	—	—	白色粒・ウソモわずかに含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/6	5/12	口縁部外面に煤付着	036-01
41	土製品	土鉢	S 10-x12 SK8846	—	—	最大径 24.27cm 重量 27.85g	白色粒・ウソモ多量含む	良好	橙 7.5YR6/6	9/12	—	038-04
42	土師器	甕B	S 10-x12 SK8846	24.8	—	—	白色粒・ウソモ少量含む	良好	黄橙 10YR8/8	4/12	—	037-01
43	金属製品	鉄釘	S 10-x12 SK8846	長さ 11.5 厚さ 1.1 ～ 1.8	重量 58.70g	—	—	—	—	—	—	043-02
44	土師器	杯A	S 10-x12・13 SE8850	11.6	2.7	—	精良	良好	橙 5YR6/8	3/12	—	042-09
45	土師器	杯A	S 10-x12・13 SE8850	14.4	2.7	—	赤色斑粒・ウソモ少量含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	2/12	—	041-03
46	土師器	杯A	S 10-x12・13 SE8850	13.6	3.4	—	赤色斑粒・白色砂粒多量、ウソモ少量含む	良好	橙 5YR6/8	4/12	—	042-01
47	土師器	杯A	S 10-x12 SE8850	13.9	3.1	—	精良 ウソモ少量含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12	—	042-08
48	土師器	杯A	S 10-x12 SE8850	14.4	2.9	—	白色砂粒少量、ウソモ多量含む	良好	橙 7.5YR6/8	1/12	—	039-07
49	土師器	杯A	S 10-x12・13 SE8850	15.4	3.7	—	赤色斑粒・白色粒少量、ウソモ多量含む	良好	橙 5YR6/8	5/12	—	041-05
50	土師器	杯G	S 10-x12 SE8850	13.4	3.6	—	白色粒・ウソモ多量含む	良好	明黄橙 10YR7/6	6/12	口縁部内面と外部の一部に煤付着	042-03
51	土師器	碗A	S 10-x12・13 SE8850	12.0	2.7	—	赤色斑粒・白色粒多量、ウソモ少量含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	2/12	—	041-07
52	土師器	碗A	S 10-x12・13 SE8850	12.5	3.5	—	赤色斑粒・ウソモ多量含む	良好	橙 5YR7/8	1/12	—	042-02
53	土師器	碗A	S 10-x13 SE8850	12.9	3.3	—	赤色斑粒多量、ウソモわずかに含む	良好	橙 5YR6/8	2/12	—	041-06
54	土師器	碗A	S 10-x12 SE8850	12.4	3.6	—	赤色斑粒・白色粒多量含む	良好	橙 5YR6/8	2/12	—	041-08
55	土師器	皿A	S 10-x12・13 SE8850	16.6	—	—	白色粒・ウソモ多量含む	良好	橙 5YR6/8	2/12	—	042-04
56	土師器	皿A	S 10-x12・13 SE8850	16.2	2.3	—	赤色斑粒・ウソモ多量、白色粒少量含む	良好	橙 5YR6/8	4/12	—	042-05
57	土師器	皿A	S 10-x12 SE8850	16.5	2.1	—	赤色斑粒・白色粒多量、ウソモわずかに含む	良好	橙 5YR7/8	4/12	—	039-05
58	土師器	皿A	S 10-x12 SE8850	17.0	1.6	—	赤色斑粒少量、白色砂粒多量含む	良好	橙 5YR6/8	6/12	—	039-06
59	土師器	皿A	S 10-x12 SE8850	21.5	2.2	—	白色粒多量、ウソモ少量含む	良好	橙 5YR6/8	1/12	—	042-06
60	土師器	蓋	S 10-x12 SE8850	18.1	—	—	赤色斑粒・ウソモ多量含む	良好	橙 5YR6/8	1/12	—	042-07

第Ⅱ-5表 第140次調査区出土遺物観察表 (1)

番号	出土遺物		出土 器種	出 土 寸 法	法 量 (cm)			調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残 存 度	備 考	登録 番号	
	器 種	器 形			口徑	器 高	その他								
61	土師器	鉢	S 10-x12-13 SP8850	120	—	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒・白色砂粒・ ウンモ多量含む	良好	橙 75YR7/6	4/12			041-01	
62	土師器	壺E	S 10-x12-13 SP8850	—	—	高台径 50	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：コナリ	精良 ウンモ大量を含む	良好	橙 5YR6/8	高台9/12			042-10	
63	土師器	壺E	S 10-x12-13 SP8850	7.9	—	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：コナリ	赤色斑粒・白色粒・ウ ンモ多量含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		粘土組織みよげ明瞭に残る	041-02	
64	製塩土器		S 10-x12-13 SP8850	—	—	—	外：コナリ？ 内：コナリ	白色粒多量、ウンモ少 量含む	良好	橙 5YR6/8	小片			志摩式製塩土器	041-04
65	土師器	壺B	S 10-y12 SP8850	24.0	10.4	10.7	外：口縁部コナリ、体部下1/5へナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色砂粒多量含む	良好	橙 5YR6/8	9/12			044-01	
66	須恵器	杯B蓋	S 10-x12 SP8850	14.1	—	—	外：天井部1/2回転コナリ 内：回転コナリ	白色粒多量含む	良好	灰 N6/	2/12			039-03	
67	須恵器	皿A	S 10-x12 SP8850	14.8	2.0	12.0	外：口縁部回転コナリ、底部コナリ 内：回転コナリ	白色粒多量含む	良好	灰白 5Y7/1		口縁部 1/12 底部 3/12		039-02	
68	須恵器	杯B	S 10-x12 SP8850	—	—	10.7	外：口縁部コナリ、底部回転コナリ、高台コナリ 内：回転コナリ	白色砂粒多量含む	良好	灰 N6/	7/12			039-01	
69	須恵器	壺A	S 10-x12 SK8846 S 10-x12-13 SP8850	23.0	—	—	外・内：口縁部回転コナリ	白色粒多量含む	良好	灰 5Y5/1	4/12			037-02	
70	須恵器	壺	S 10-x12 SK8850	24.8	—	—	外・内：回転コナリ	白色粒多量含む	良好	外：黒灰 10YR4/1 内：灰 5Y6/1	1/12		口縁部に自然軸付着	039-04	
71	須恵器	壺B	S 10-y13 SP8850	45.4	—	—	外：口縁部回転コナリ、体部平行コナリ 内：口縁部回転コナリ、体部同心円状の当て具裏	白色粒多量含む	良好	灰 75YR6/1	1/12			040-01	
72	土師器	杯G	S 10-v18 SK8842	14.6	3.2	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒若干含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	6/12			024-05	
73	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	13.4	3.4	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒・ウンモ多量 含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/6	3/12			058-07	
74	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	13.6	3.4	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	微細な白色粒含む	良好	橙 5YR6/6	3/12			023-08	
75	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	13.6	2.9	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒・白色粒・ウ ンモ多量含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	3/12			052-05	
76	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.46	13.8	3.0	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	ウンモ・石英粒含む	良好	明赤黄 2.5YR5/8	6/12		口縁部3ヶ所に煤付着	016-08	
77	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.74	13.7	2.6	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量、白色粒 若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形			004-08	
78	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.77	14.0	3.1	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量、白色粒 若干含む	良好	淡橙 5YR8/4	完形			003-08	
79	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.23	14.0	3.2	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	8/12			006-04	
80	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.0	2.6	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量	良好	浅黄橙 10YR8/3	4/12			011-04	
81	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.0	2.7	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	微細な白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6		ほぼ完形	内面一部黒変	012-08	
82	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.20	13.7	3.2	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒・白色粒・ウ ンモ若干含む	良好	橙 5YR7/6	3/12		外面に黒斑	018-02	
83	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	13.8	3.0	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒・ウンモ多量 含む	良好	明黄褐 10YR7/6	5/12		口縁部内面～外面黒化	052-06	
84	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.0	3.1	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4		ほぼ完形		014-09	
85	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.8	14.0	3.2	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒多量含む	良好	橙 7.5YR7/6	9/12			018-03	
86	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.32	14.0	2.6	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	2/12			018-05	
87	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.0	2.8	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	1～2mmの砂粒多量 含む	良好	橙 5YR6/6		ほぼ完形	口縁部の一部に煤付着	020-06	
88	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.0	3.3	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	2/12			021-09	
89	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.67	14.0	—	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒・石英粒含む	良好	橙 2.5YR6/6 にぶい黄橙 10YR7/3	5/12		内面一部、底部外面1/3 に黒斑	025-05	
90	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.49	14.1	3.1	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量、ウンモ 白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	8/12			003-04	
91	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.2	3.0	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒若干含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4		完形	外面及び内面一部黒変	002-06	
92	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.27	14.2	3.2	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4		ほぼ完形		003-02	
93	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.36	14.2	3.0	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	精良 赤色斑粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	7/12			005-09	
94	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.56	14.2	2.9	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量含む	良好	橙 5YR7/6	7/12			010-01	
95	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.44	14.2	3.0	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	精良 微細なウンモ若干含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	6/12			013-09	
96	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.2	3.1	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量、白色粒 若干含む	良好	橙 5YR6/8	6/12			025-06	
97	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.46	14.3	3.3	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒・微細なウンモ 含む	良好	橙 5YR6/8	7/12			009-08	
98	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.67	14.3	2.8	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒・微細なウンモ 含む	良好	橙 2.5YR6/6	6/12		内面に黒斑	009-06	
99	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.3	2.9	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量、白色粒 若干含む	良好	橙 5YR7/6	8/12			011-01	
100	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.3	3.1	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	沈積1条 沈積1条	精良	橙 7.5YR7/6		ほぼ完形		012-05	
101	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.3	2.8	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	9/12			015-06	
102	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.90	14.3	2.8	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量含む	良好	橙 5YR6/6	5/12			017-02	
103	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.80	14.4	3.0	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量、白色粒 若干含む	良好	橙 5YR6/8	6/12			007-07	
104	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.4	3.0	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量、石英砂 粒含む	良好	橙 7.5YR7/6		ほぼ完形		011-08	
105	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.4	2.5	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量、白色粒 若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	2/12			012-02	
106	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.4	2.4	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	3/12			016-03	
107	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.4	3.1	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		内外面一部黒変	016-05	
108	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.4	3.2	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量、白色粒 若干含む	良好	橙 5YR7/6		完形	口縁部2ヶ所に煤付着	017-03	
109	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.4	2.9	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒・白色粒・ウ ンモ含む	良好	にぶい橙 5YR7/4	3/12			021-48	
110	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.16	14.4	2.8	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒・石英粒含む	良好	橙 5YR6/6	9/12			023-02	
111	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.4	—	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	5/12			025-02	
112	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.5	3.2	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒・白色粒多量 含む	良好	橙 2.5YR6/8		完形	口縁部重みあり	005-01	
113	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.63	14.5	2.5	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒・ウンモ多量 含む	良好	橙 5YR6/8	8/12			009-09	
114	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.5	3.1	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	精良	良好	橙 5YR7/8			底部のみ欠損	011-09	
115	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.5	2.7	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒・白色粒若干 含む	良好	橙 5YR6/8	9/12			023-10	
116	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.5	2.4	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：磨減	白色粒少量含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12			058-01	
117	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.5	2.6	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒・ウンモ多量 含む	良好	橙 5YR6/8	4/12			058-06	
118	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.48	14.6	3.5	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒目立つ	良好	淡橙 5YR8/4		完形		001-03	
119	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842 No.52	14.6	3.1	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	赤色斑粒多量、白色粒 含む	良好	浅黄橙 10YR8/4		完形	やや歪む	003-07	
120	土師器	杯A	S 10-v18 SK8842	14.6	3.1	—	外：口縁部コナリ、体部コナリ 内：口縁部コナリ、体部コナリ	白色粒・ウンモ若干 含む	良好	橙 2.5YR7/6		ほぼ完形		004-04	

第Ⅱ-6表 第140次調査区出土遺物観察表(2)

番号	出土遺物		出土 遺構	法 量 (cm)		調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残 存 度	備 考	登録 番号	
	器 種	器 形		口 径	器 高								その他
121	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.81	14.6	3.1	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む	良好	にぶい橙 5YR7/4	ほぼ完形		005-05
122	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.92	14.6	3.0	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒若干含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	8/12	口縁部歪曲	006-01
123	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.45	14.6	3.0	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	精良 白色粒・ウンモ若干含む	やや軟	外：橙 5YR7/6 内：明黄橙 10YR7/6	8/12		005-10
124	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.75	14.6	3.3	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒・白色粒含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	9/12		006-06
125	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.14	14.6	3.4	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒・ウンモ若干含む	良好	橙 5YR7/6	完形		007-06
126	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.6	2.9	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	精良	良好	橙 5YR6/6	5/12		019-09
127	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.6	3.7	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	完形	外面1/2近く黒斑	010-10
128	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.6	2.7	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	精良	良好	橙 7.5YR7/6	4/12		021-06
129	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.46	14.6	3.9	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒・白色粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12		024-09
130	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.64	14.7	2.9	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形		002-02
131	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.34	14.7	3.0	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、ウンモ含む	良好	橙 5YR6/6	完形		004-10
132	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.7	3.1	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	ほぼ完形		012-03
133	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.7	3.0	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		015-08
134	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.7	3.1	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	微細なウンモ含む	良好	橙 7.5YR6/6	4/12		018-08
135	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.7	3.7	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、白色粒・ウンモ若干含む	良好	橙 5YR7/8	1/12		019-01
136	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.7	3.4	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒・ウンモ若干含む	良好	橙 5YR6/6	8/12		024-08
137	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.1	14.8	3.2	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒少量含む	良好	橙 5YR6/8	完形	内面わずかに黒変	002-05
138	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.7	14.8	3.0	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒若干含む	良好 焼きむらあり	橙 2.5YR6/6	完形	体部外面に黒斑あり 口縁部に煤付着	002-09
139	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	2.8	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色砂粒若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR6/4	完形		004-01
140	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.6	14.8	3.3	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	精良 ウンモ若干含む	やや軟	橙 7.5YR7/6	7/12		005-07
141	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.42	14.8	3.2	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒含む	良好	橙 5Y7/6	7/12		006-03
142	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.46	14.8	3.2	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒・ウンモ若干含む	良好	橙 5YR7/6	ほぼ完形		007-01
143	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.59	14.8	3.2	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色砂粒含む	良好	橙 5YR7/6	7/12		008-06
144	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.83	14.8	3.0	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒・ウンモ若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	3/12		008-09
145	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	2.9	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、白色粒・ウンモ若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	8/12	口縁やや重む	011-05
146	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.3	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、白色粒含む	良好	橙 7.5YR7/6	ほぼ完形	内面黒変	012-07
147	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.3	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒・ウンモ含む	良好	橙 5YR7/6	3/12		012-09
148	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	2.6	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒若干含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/6	ほぼ完形	内面中心部付近に板状工具によるわずかな部分的に内面を掻く	013-06
149	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.26	14.8	3.0	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒・微細な白色粒若干含む	良好	明赤褐色 2.5YR5/8	7/12		013-07
150	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.1	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、白色粒若干含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	5/12		014-10
151	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.91	14.8	2.8	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒若干含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	5/12		016-09
152	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.60	14.8	3.2	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	4/12		016-10
153	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.3	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	3/12		018-09
154	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.1	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、ウンモ若干含む	良好	橙 5YR7/6	3/12		020-01
155	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.2	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	10/12		020-10
156	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.1	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒含む	良好	橙 5YR7/6	2/12	口縁部の一部に煤付着	021-05
157	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.0	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	精良 赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	3/12	底部黒斑大	021-07
158	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.2	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		024-01
159	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.57	14.9	2.9	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色砂粒含む	良好	橙 5YR6/8	ほぼ完形		003-05
160	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.44	14.9	3.1	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	精良	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	8/12		009-02
161	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.53	14.9	3.1	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、白色粒・ウンモ若干含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	5/12		017-05
162	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.9	3.0	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒・白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	3/12		024-02
163	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	14.9	3.4	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒・ウンモ多く含む、白色粒わずかに含む	良好	橙 5YR6/8	7/12		060-06
164	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	15.0	3.3	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/8	ほぼ完形	口縁部部に油煙付着 焼ききみ著しい	010-03
165	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	15.0	3.2	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	9/12	口縁部部およそ1/2周に煤付着	013-10
166	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	15.0	2.8	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、白色粒・ウンモ若干含む	良好	橙 5YR7/6	8/12		015-04
167	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	15.0	2.8	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、白色粒若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	3/12		023-05
168	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.34	15.1	3.1	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、白色粒若干含む	良好	橙 2.5YR6/8	10/12		006-02
169	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.61	15.1	3.2	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒・白色粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	ほぼ完形		007-04
170	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.96	15.1	2.7	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	微細な白色粒含む	良好	橙 7.5YR7/6	6/12		017-06
171	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.78	15.1	2.8	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	3/12		020-04
172	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.12	15.2	3.1	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	ほぼ完形		005-06
173	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	15.2	2.9	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	4/12		011-07
174	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.88	15.2	2.6	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒・白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/8	5/12		017-04
175	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.89	15.3	3.3	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	微細な白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	3/12	口縁部部一部に煤付着	013-08
176	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.31	15.4	3.5	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/3	6/12		008-02
177	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	15.6	3.0	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒・白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		011-03
178	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	15.6	3.3	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	赤色斑粒多く含む、白色粒・ウンモ少量含む	良好	橙 5YR6/6	5/12		011-10
179	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842 No.11	15.6	2.8	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒・ウンモ多く含む	良好	橙 5YR6/6	3/12		018-04
180	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	15.7	3.2	—	外：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱 内：口縁部コナテ、体部～底部行・北柱	白色粒若干含む	良好	にぶい橙 5YR6/4	2/12	口縁部部に煤付着	020-07

第Ⅱ-7表 第140次調査区出土遺物観察表(3)

番号	出土遺物		出土 土層	法 量 (cm)			調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残 存 度	備 考	登録 番号
	器 種	器 形		口 径	器 高	その他							
181	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8842	15.8	3.1	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行・北1行	白色粒・石英粒多含む	良好	橙 25YR6/6	8/12		018-10
182	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	12.0	3.1	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒多含む	良好	橙 5YR7/6	6/12		014-05
183	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.17	14.0	3.3	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	精良 白色粒多含む	良好	橙 5YR6/8	8/12		009-04
184	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.0	3.0	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒多、白色粒・ ウツモ多含む	良好	橙 5YR6/6	5/12	外面黒斑あり	016-04
185	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.0	3.2	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒多含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	4/12	口縁部の一部に煤付者	019-07
186	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.46	14.1	3.4	—	外：口縁部3行、2段、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、底部行	白色粒・石英粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	7/12		025-07
187	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.2	4.0	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行	精良 ウツモわずかに含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		059-03
188	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.62	14.3	3.4	—	外：口縁部3行、底部行・北1行 内：口縁部3行	精良	良好	橙 7.5YR7/6	完形	口縁部に煤付者	002-04
189	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.46	14.3	3.3	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行・北1行	赤色斑粒多含む	良好	橙 5YR7/6	6/12	口縁部に煤付者	025-04
190	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.4	3.3	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒多、微細な 白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	7/12		010-07
191	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.4	3.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒、白色粒・微 細なウツモ多含む	良好	橙 2.5YR6/8	7/12		011-06
192	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.4	3.3	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒多、白色粒 若干含む	良好	橙 5YR7/6	5/12	底面一部黒変	022-04
193	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.6	3.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒多含む	良好	橙 7.5YR7/6	ほぼ完形	底部内面に黒斑	004-02
194	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.97	14.6	3.2	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒若干含む	良好	明黄橙 10YR7/6	7/12		007-09
195	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.57	14.6	3.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	白色粒多含む	良好	橙 5YR6/8 ~ 7.5YR7/6	10/12		006-09
196	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.99	14.6	3.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行・北1行	白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/8	ほぼ完形		009-03
197	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.6	3.3	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行	精良 赤色斑粒含む	良好	橙 5YR7/6	9/12		012-06
198	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.30	14.5	4.3	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行	白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	6/12		009-07
199	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.6	4.0	—	外：口縁部3行、体部行・北1行 内：口縁部3行	白色粒・ウツモ若干含む	良好	橙 5YR6/6	底部のみ欠損	内面にウツモ痕	014-07
200	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.6	3.3	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行・北1行	白色粒含む	良好	橙 2.5YR6/6	2/12	内面黒斑大	019-02
201	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.53	14.8	3.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行・北1行	赤色斑粒多、白色粒 若干含む	良好	橙 5YR7/6	完形		002-01
202	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.9	14.8	3.5	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	白色粒・ウツモ含む	良好	橙 2.5YR6/8	6/12		008-07
203	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒多含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形	内面 1/3 ~ 1/2 に黒斑	011-02
204	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	微細な白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	7/12		022-02
205	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.8	3.5	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：磨減	赤色斑粒多含む	良好	橙 7.5YR7/6	9/12	口縁部に煤付者	052-01
206	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.68	14.9	3.3	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行・北1行	赤色斑粒含む	やや軟	浅黄橙 10YR8/4	ほぼ完形		004-06
207	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.22	14.9	3.6	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行・北1行	白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR6/8	9/12		005-04
208	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.9	3.3	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒、白色粒若干 含む	良好	橙 7.5YR7/6	4/12		013-02
209	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	14.9	2.9	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行・北1行	白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12		015-10
210	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.38	15.0	3.2	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行・北1行	精良 白色粒若干含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	ほぼ完形		003-03
211	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	15.0	3.1	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	6/12		016-02
212	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.55	15.1	3.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒若干含む	良好	浅黄橙 10YR8/3	ほぼ完形		022-06
213	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.71	15.2	3.7	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行	精良	良好	橙 5YR7/8	完形		002-03
214	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	15.2	3.2	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒多、白色粒 若干含む	良好	橙 5YR6/6	7/12		019-08
215	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	15.3	3.0	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒多含む	良好	橙 7.5YR7/6	4/12		019-06
216	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	15.3	3.3	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒、白色粒少、 ウツモ多含む	良好	橙 7.5YR7/6	2/12		059-04
217	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	15.4	3.7	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒多、白色粒・ ウツモ若干含む	良好	橙 5YR7/6	1/12		021-01
218	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.34	15.4	3.7	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	精良	良好	橙 5YR6/8	ほぼ完形		023-09
219	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	15.5	3.5	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行	赤色斑粒・微細な白色 粒多含む	良好	橙 5YR7/6	5/12	口縁部一部黒変	010-06
220	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	15.5	3.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	白色粒・ウツモ少含む	良好	橙 2.5YR6/8	8/12		016-01
221	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	15.5	4.5	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、底部行	赤色斑粒多、白色粒 若干含む	良好	橙 5YR7/6	9/12		019-03
222	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.70	15.6	3.8	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行	赤色斑粒・白色粒含む	良好	橙 2.5YR6/8	10/12	底部内面に黒斑あり	009-10
223	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	15.9	3.8	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	赤色斑粒・白色粒多 含む	良好	橙 5YR6/6	2/12	外面黒変か?	018-07
224	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.62	16.1	3.7	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行のちぎれ	赤色斑粒多、白色粒 若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	ほぼ完形		007-03
225	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	16.1	3.6	—	外：口縁部3行、体部行・北1行 内：口縁部3行、体部行	赤色斑粒多含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	7/12	底面に黒斑大	022-08
226	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	16.2	4.0	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：磨減	赤色斑粒多、白色粒・ ウツモ少含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/6	2/12		058-02
227	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.46	16.4	4.2	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	9/12		006-08
228	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	16.4	3.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：体部斜射状断面、底部行	赤色斑粒・ウツモ少 含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		052-02
229	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.39	16.7	2.9	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	白色粒含む	良好	橙 2.5YR6/8	3/12		013-04
230	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.15	16.8	3.5	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	石英粒・赤色斑粒含む	良好	橙 2.5YR6/8	9/12		013-05
231	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.73	16.9	4.5	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行のちぎれ	白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	9/12		008-03
232	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.86	17.2	4.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	白色粒多含む	良好	橙 5YR7/6	4/12	内面に黒斑	008-01
233	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	18.0	—	—	外：口縁部3行、体部行・北1行 内：口縁部3行、体部上1行・北1行・下半分、底部 行	赤色斑粒含む	良好	橙 7.5YR7/6	6/12		025-03
234	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842 No.72	21.6	5.5	—	外：口縁部-体部3行、底部不方向ナツリ 内：口縁部3行、体部-底部行・北1行	赤色斑粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	ほぼ完形		001-06
235	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	19.9	4.4	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：磨減	砂粒・赤色斑粒・ウツ モ少含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		058-04
236	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8842	20.8	4.8	—	外：口縁部3行、体部-底部行・北1行 内：口縁部3行、体部-底部行	白色粒多含む	良好	橙 5YR7/6	4/12	底部付近内外面黒変	023-01
237	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	14.0	1.7	—	外：口縁部3行、底部行・北1行 内：口縁部3行、底部行	赤色斑粒・ウツモ含む	良好	橙 7.5YR7/6	2/12		024-06
238	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	14.3	1.2	—	外：口縁部3行、底部行・北1行 内：口縁部3行、底部行	砂粒・赤色斑粒少含む	良好	明黄橙 10YR7/6	2/12		058-05
239	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	14.3	2.3	—	外：口縁部3行、底部行・北1行 内：口縁部3行、底部行	白色粒・ウツモ若干 含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形		004-05
240	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.100	14.6	1.8	—	外：口縁部3行、底部行・北1行 内：口縁部3行、底部行	赤色斑粒・白色粒含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	完形		008-04

第II-8表 第140次調査区出土遺物観察表(4)



番号	出土遺物 器種	出土 器形	出土 寸法	法		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
				口径	器高							
241	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	146	1.8	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒含む	良好	橙 5YR6/6	3/12		021-04
242	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	148	2.0	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く、ウンモ 若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	3/12		015-01
243	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.11	147	2.2	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒・ ウンモ若干含む	良好	橙 2.5YR7/8	6/12		017-09
244	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	147	1.6	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/6	3/12		058-03
245	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.13	148	2.9	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒・ウンモ含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形	底部外面に黒斑	003-06
246	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	149	2.1	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・白色粒多く ウンモ少量含む	良好	橙 5YR7/8	2/12		059-01
247	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.100	150	1.8	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	ほぼ完形		006-07
248	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.24	152	2.2	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒若干含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	9/12		005-03
249	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	152	2.7	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒含む	良好	橙 2.5YR6/8	5/12	焼き歪みあり	010-04
250	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.18	153	2.4	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	6/12		010-02
251	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	153	2.3	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く、ウンモ 若干含む	良好	にぶい橙 5YR7/4	5/12		014-06
252	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	153	2.2	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・微細な白色 粒含む	良好	橙 5YR6/6	6/12		022-07
253	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.34	157	2.4	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒 若干含む	良好	橙 5YR6/6	5/12		020-03
254	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.66	154	1.7	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	精良 赤色斑粒若干含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	完形		001-04
255	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.65	154	2.2	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	ほぼ完形		003-09
256	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.69	154	1.8	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	完形		007-10
257	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.9	154	2.9	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・白色粒・ウ ンモ若干含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		018-01
258	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	154	1.7	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	3/12		021-03
259	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	156	2.0	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒若干含む	良好	橙 7.5YR6/6	4/12		010-05
260	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	156	2.0	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12		020-05
261	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	156	1.7	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒・ウンモ若干含 む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	4/12		023-04
262	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	156	1.8	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・白色粒含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	3/12		023-07
263	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	157	1.9	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	5/12		010-09
264	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.28	158	1.8	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形		002-07
265	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	158	1.6	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・白色粒・ウ ンモ多く含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		018-06
266	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	158	2.1	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒 若干含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	3/12		024-10
267	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	160	1.7	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒 含む	良好	橙 5YR6/6	4/12	外面一部黒斑	015-09
268	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.85	160	2.3	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	4/12		016-07
269	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	160	2.0	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	にぶい橙 7.5YR6/4	3/12		024-07
270	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	162	2.0	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	4/12		025-01
271	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	161	2.1	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒若干含む	良好	外：橙 5YR7/6 内：にぶい橙 7.5YR7/4	4/12		021-02
272	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	136	1.5	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	8/12		014-04
273	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	140	1.9	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・ウンモ若干 含む	良好	橙 2.5YR6/8	ほぼ完形	底部内外面の一部に黒斑	005-02
274	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	140	1.3	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	透粒・ウンモ多く含 む	良好	黄橙 10YR8/6	5/12		059-02
275	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	—	2.4	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	ウンモ若干含む	良好	橙 5YR6/6	ほぼ完形		022-05
276	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	141	2.0	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	10/12		022-01
277	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.29	141	1.7	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒若干含む	良好	浅黄橙 10YR8/3	9/12	底部内面に小黒斑あり	022-09
278	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	142	2.0	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	ほぼ完形	底部外面に黒斑	004-09
279	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	142	1.6	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	6/12		020-08
280	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.78	142	1.6	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・ウンモ含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形		007-02
281	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	144	1.8	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	3/12		012-01
282	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.5	144	1.5	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	8/12		005-08
283	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.76	146	2.1	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・白色粒・ウ ンモ若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	完形		004-07
284	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.82	145	1.6	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	7/12	底部内外面の一部に黒斑	007-05
285	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	145	1.6	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	微細な白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	7/12		015-03
286	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	146	1.8	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	微細な白色粒若干含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	ほぼ完形		010-08
287	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	147	1.9	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	9/12		012-04
288	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	144	2.1	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・白色粒若干 含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	3/12		020-09
289	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.54	148	1.8	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	5/12		013-03
290	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.4	148	1.4	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色砂粒含む	良好	橙 2.5YR6/8	完形		008-05
291	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	148	1.8	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	7/12		014-03
292	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	150	1.5	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	8/12		019-10
293	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	149	1.5	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・微細な白色 粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	4/12		013-01
294	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	150	1.4	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		020-02
295	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	150	1.6	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	8/12	底部外面の一部黒斑	023-03
296	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.98	151	1.9	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒 若干含む	良好	橙 5YR7/6	ほぼ完形		009-05
297	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	151	1.6	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	3/12		012-10
298	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.40	151	1.8	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	精良 赤色斑粒含む	良好	橙 5YR7/6	ほぼ完形		002-08
299	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.46	152	1.6	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	赤色斑粒・白色粒含む	良好	橙 5YR6/8	9/12		008-08
300	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.87	152	1.7	外：口縁部3行、底部行・北群 内：口縁部2行、底部行	白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	9/12		006-05

第Ⅱ-9表 第140次調査区出土遺物観察表(5)

番号	出土遺物 器種 器形	出土 遺物	口径	高さ	その他	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録 番号
301	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.2	1.2	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・白色粒含む	良好	橙 7.5YR7/6	6/12		019-04
302	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.2	1.7	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	3/12		021-10
303	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.2	1.4	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	6/12		022-10
304	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.2	1.6	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	9/12		024-03
305	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.2	1.7	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・白色粒多く含む	良好	橙 2.5YR6/8	9/12	内面ごく一部に黒斑	014-02
306	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.41	15.3	1.5	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・白色粒多く含む	良好	橙 5YR7/8	完形		009-01
307	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.3	1.6	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	精良	良好	橙 5YR6/6	6/12		015-05
308	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.5	1.7	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	7/12		014-08
309	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.3	1.2	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	4/12		019-05
310	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.3	1.6	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・白色粒少量含む	良好	橙 5YR7/8	10/12		052-03
311	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.50	15.4	1.5	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	ほぼ完形		007-08
312	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.4	1.7	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12		024-04
313	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.19	15.3	2.1	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	5/12		017-07
314	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.25	15.6	1.7	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・白色粒含む	良好	橙 2.5YR7/8	完形		003-01
315	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.6	1.6	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	精良 白色粒・ウンモ若干含む	良好	橙 5YR7/8	完形		004-03
316	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.6	2.3	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	6/12		015-02
317	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842	15.7	1.6	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・微細な白色粒含む	良好	橙 5YR6/6	ほぼ完形		014-01
318	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8842 No.95	15.8	1.7	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒・微細なウンモ若干含む	良好	橙 5YR6/6	5/12		017-01
319	土師器	皿B	S 10 - v18 SK8842 No.94	15.2	3.0	高台径7.8 外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒・微細なウンモ若干含む	良好	橙 5YR6/6	口縁部3/12 高台6/12		017-08
320	土師器	皿B	S 10 - v18 SK8842 No.51	15.6	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/8	6/12 (高台欠損)		016-06
321	土師器	皿B	S 10 - v18 SK8842 No.35	15.5	3.7	高台径外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒多く、ウンモ若干含む	良好	橙 5YR7/6	口縁部10/12 高台完存		017-10
322	土師器	皿B	S 10 - v18 SK8842	16.8	3.8	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部8/12 高台完存		022-03
323	土師器	皿B	S 10 - v18 SK8842 No.2	18.4	2.9	高台径外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・白色粒含む	良好	橙 5YR6/6	ほぼ完形		001-05
324	土師器	皿B	S 10 - v18 SK8842	18.1	2.4	高台径外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒多く、白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/8	口縁部6/12 高台完存		015-07
325	土師器	皿B	S 10 - v18 SK8842 No.32	17.8	4.2	高台径外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	口縁部4/12 高台7/12	外面に高台貼り付けに伴う工具痕あり	023-06
326	土師器	高杯A	S 10 - v18 SK8842	—	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒少量、ウンモ多く含む	良好	橙 5YR6/8	脚部9/12		054-02
327	土師器	高杯A	S 10 - v18 SK8842	—	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	赤色斑粒・白色粒多く含む	良好	橙 5YR7/8	脚部10/12		054-03
328	土師器	甕A	S 10 - v18 SK8842	13.6	10.2	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	ウンモ多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	口縁部完存 底部6/12	外面二次被熱による赤変・煤付着 底部内面に炭化物付着	051-03
329	土師器	甕A	S 10 - v18 SK8842	14.8	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒・ウンモ多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/3	2/12		052-07
330	土師器	甕A	S 10 - v18 SK8842	15.5	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	10/12		051-02
331	土師器	甕A	S 10 - v18 SK8842	17.9	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	砂粒多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	口縁部完存 底部欠損		051-04
332	土師器	甕C	S 10 - v18 SK8842 No.37	24.8	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	精良	良好	黄橙 10YR8/4	3/12	外面煤付着 口縁部内面・外面二次被熱により赤変・煤付着 底部内面に炭化物付着	054-01
333	土師器	甕	S 10 - v18 SK8842	29.1	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒少量、ウンモ多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	2/12		057-03
334	土師器	甕	S 10 - v18 SK8842	26.0	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒・ウンモ多く含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	5/12		056-01
335	土師器	甕	S 10 - v18 SK8842	27.5	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒微量、ウンモ多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	9/12		056-02
336	土師器	甕B	S 10 - v18 SK8842	26.2	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒・ウンモ多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	3/12		055-01
337	土師器	甕B	S 10 - v18 SK8842 No.21	27.6	9.2	高台径外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒・ウンモ多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	口縁部5/12 底部完存		051-01
338	土師器	甕B	S 10 - v18 SK8842	32.8	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒・ウンモ少量含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	2/12		057-02
339	土師器	甕B	S 10 - v18 SK8842	34.6	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色砂粒・ウンモ少量含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	3/12		057-01
340	土師器	甕	S 10 - v18 SK8842 No.47	31.4	33.4	高台径外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	~ 2.0mm 砂粒多く含む	良好	明黄橙 10YR7/6	8/12	外面下半二次被熱により赤変	053-01
341	灰釉陶器	碗	S 10 - v18 SK8842	15.6	4.2	高台径外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒含む	良好	釉:浅黄 5Y7/2 素地:灰白 5Y7/1	口縁部9/12 高台完存		001-02
342	灰釉陶器	段皿	S 10 - v18 SK8842	17.7	3.8	7.7 外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	精良	良好	釉:灰白 10Y7/2 素地:灰白 2.5Y8/2	2/12		055-02
343	灰釉陶器	碗	S 10 - v18 SK8842	14.5	4.6	7.1 外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色砂粒少量含む	良好	灰白 2.5Y8/2	2/12		055-03
344	灰釉陶器	皿	S 10 - v18 SK8842	15.6	2.3	高台径8.9 外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒多く含む	良好	釉:灰白 5Y7/2 素地:灰白 N7	口縁部1/12 高台5/12		052-04
345	灰釉陶器	段皿	S 10 - v18 SK8842	16.8	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	精良、硬質	良好	釉:抹茶色 838 素地:灰白 5Y7/2	2/12		060-04
346	緑釉陶器	段皿	S 10 - v18 SK8842 No.2	15.1	2.6	高台径7.7 外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	精緻、軟質	良好	釉:おこやなぎ色 825 素地:灰白 5Y8/1	ほぼ完形		001-01
347	緑釉陶器	皿	S 10 - v18 SK8842	—	—	高台径外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒多く含む、硬質	良好	釉:おこやなぎ色 825 素地:浅黄橙 10Y8/4	高台10/12		060-03
348	緑釉陶器	碗	S 10 - v18 SK8842	—	—	高台径外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	精良、やや軟質	良好	釉:おこやなぎ色 825 素地:灰白 5Y8/1	高台7/12	底部内外面に三ツトチンの痕跡あり	060-02
349	緑釉陶器	碗	S 10 - v18 SK8842 No.93	—	—	高台径外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	精良、硬質	良好	釉:浅緑色 840 素地:灰白 5Y7/2	高台4/12	底部内外面に三ツトチンの痕跡あり	060-01
350	緑釉陶器	碗	S 10 - v18 SK8842	—	—	6.9 外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	精良、硬質	良好	釉:おこやなぎ色 825 素地:灰白 7.5Y8/1	高台2/12	足底に陶師室相花文の捺印	060-05
351	須恵器	鉢A	S 10 - v18 SK8842 No.10	29.6	7.0	20.9 外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色砂粒含む	やや軟	灰白 5Y7/1	口縁部6/12 底部8/12		001-07
352	緑釉陶器	火舎	S 10 - v18 SK8842	21.5	—	外:口縁部30行、底部行・北1社 内:口縁部30行、底部行	白色粒少量、ウンモ多く含む、軟質	良好	釉:おこやなぎ色 825 素地:灰白 2.5Y8/2	1/12		061-01
353	金属製品	鉄鏝	S 10 - v18 SK8842	—	—	—	—	—	—	—	—	060-07
354	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8851	13.1	2.5	—	—	—	—	—	—	035-02
355	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8851	13.4	2.8	—	—	—	—	—	—	035-01
356	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8851	15.0	3.2	—	—	—	—	—	—	035-05
357	土師器	杯A	S 10 - v18 SK8851	16.3	3.3	—	—	—	—	—	—	035-03
358	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8851	16.8	3.5	—	—	—	—	—	—	035-06
359	土師器	碗A	S 10 - v18 SK8851	16.1	3.8	—	—	—	—	—	—	035-07
360	土師器	皿A	S 10 - v18 SK8851	17.1	1.7	—	—	—	—	—	—	035-04

第II-10表 第140次調査区出土遺物観察表(6)

番号	出土遺物 器種	出土遺物 器形	出土 寸法	法 量 (cm)			調整・技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残 存 度	備 考	登 録 番号
				口径	器 高	その他							
361	灰輪陶器	皿	S 10-u18 SK8851	14.9	2.6	8.1	外：070行、高台074 内：070行	白色粒多く含む	良好	釉：浅黄 5Y7/3 素地：灰白 5Y7/1	2/12	底部外面に三又トチン痕	035-09
362	灰輪陶器	皿	S 10-v18 SK8851	14.4	2.7	6.9	外：070行、高台074 内：070行	白色砂粒多く含む	良好	釉：浅黄 5Y7/3 素地：灰白 5Y7/1	口縁部 10/12 高台完存	歪み大 底部内面に三又トチン 痕、外面に「十」字形の 記号	035-10
363	須恵器	杯A	S 10-u18 SK8851	9.8	3.3	—	外：口縁部回転、底部回転 内：回転	白色粒多く含む	良好	灰 7.5Y6/1	4/12		035-08
364	回転土師器	台付小皿	S 10-x14 SK8852 No.2	9.4	2.3	4.1	外：口縁部回転、底部回転 内：回転	白色砂粒多く含む	良好	燈 5YR6/8	完形		031-10
365	陶器	小碗	S 10-x14 SK8852 No.1 下	9.4	3.0	5.0	外：070行、底部回転 内：070行	白色粒多く含む	良好	口縁部：灰白 5Y7/1 素地：透黄 2.5Y8/3	7/12		031-09
366	土師器	杯	S 10-x14 SK8852 No.1 上	12.5	2.5	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色砂粒多く含む	良好	灰白 2.5Y8/2	口縁部完存 底部 6/12	内面一部黒化	034-02
367	土師器	杯A	S 10-y11 SD8837	14.7	2.5	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色粒少量、ウンモ多く含む	良好	燈 5YR6/8	1/12		031-07
368	土師器	杯A	S 10-v18 SD8840	15.0	2.5	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色粒少量、ウンモ多く含む	良好	燈 5YR6/8	2/12		031-02
369	土師器	杯A	S 10-v18 SD8840	14.6	—	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・白色砂粒少量含む	良好	燈 7.5YR7/6	2/12		031-04
370	土師器	杯A	S 10-v18 SD8840	14.0	2.9	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・白色粒・ウンモ少量含む	良好	燈 5YR7/8	2/12		031-05
371	土師器	皿A	S 10-v18 SD8840	15.1	1.5	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・ウンモ少量含む	良好	燈 5YR7/6	3/12		031-03
372	土師器	甕A	S 10-v18 SD8840	15.7	—	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	精良	良好	燈 7.5YR6/8	2/12		031-06
373	土師器	碗A	S 10-x14 SB8855	14.2	3.6	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒少量、白色砂粒少量含む	やや軟	黄燈 7.5YR7/8	口縁部 1/12 底部完存		033-06
374	土師器	碗A	S 10-v13 SB8855 No.2	—	3.9	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・ウンモ少量含む	良好	黄燈 7.5YR7/8	小片		032-04
375	土師器	皿A	S 10-w13 SB8855	15.1	2.0	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色粒多く含む	良好	燈 5YR6/8	8/12		032-06
376	土師器	皿A	S 10-v13 SB8855 No.3	16.3	2.0	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色粒少量、ウンモ多く含む	良好	燈 7.5YR6/6	3/12		032-05
377	土師器	杯A	S 10-x13 SB8855	15.8	3.4	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色砂粒・ウンモ少量含む	良好	燈 5YR6/8	7/12		034-01
378	土師器	甕	S 10-v13 SB8855 No.2	25.8	—	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色砂粒多く、ウンモ少量含む	良好	浅黄燈 10YR8/4	3/12		032-08
379	土師器	甕A	S 10-v16 SB8860	13.4	—	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色粒多く、ウンモ少量含む	良好	にぶい黄燈 10YR7/4	3/12	外面二次焼熱により赤 変、炭付着	033-04
380	黒色土器	碗	S 10-v17 SB8860	15.2	6.0	7.3	外：070行、高台074 内：口縁部回転、底部回転	白色粒多く、ウンモ少量含む	良好	淡黄 2.5Y8/4 燈 5YR6/6	口縁部 5/12 高台完存		033-05
381	回転土師器	台付小皿	S 10-y15 SB8856	—	—	4.1	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・白色砂粒少量含む	良好	浅黄燈 10YR8/4	高台片		033-01
382	須恵器	杯B蓋	S 10-y16 SB8859	16.0	3.6	—	外：天井部 2/3 回転 内：天井部 2/3 回転	白色粒多く含む	良好	燈 5YR7/6 灰 16/6	2/12		033-03
383	土師器	皿A	S 10-x16 SB8859	20.1	2.2	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒多く含む	良好	燈 5YR6/8	1/12		033-02
384	土師器	碗A	S 10-y18 SB8861	14.0	3.5	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色粒・ウンモ少量含む	良好	明赤燻 2.5Y8/5	5/12		032-07
385	土師器	杯A	S 10-x18 SB8861	14.0	—	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色粒・ウンモ少量含む	良好	にぶい黄燈 10YR7/4	3/12		032-01
386	土師器	碗A	S 10-x16 SB8858	13.0	3.5	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色粒少量含む	良好	燈 5YR6/8	2/12		032-03
387	土師器	碗A	S 10-y17 SB8858	16.9	3.4	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒多く含む	良好	燈 5YR7/8	2/12		032-02
388	緑輪陶器	皿	S 10-y17 SB8858	—	—	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	精良、硬質	良好	釉：白緑 839 素地：透黄 5Y8/3	口縁小片	内面に陰刻	031-11
389	土師器	杯A	S 10-w19 SB8862 No.7	14.9	2.7	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・黒色粒少量含む	良好	燈 5YR7/8	ほぼ完形		031-01
390	土師器	杯A	S 10-w19 SB8862 No.10	14.6	2.5	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒多く、白色砂粒少量含む	良好	燈 7.5YR7/6	口縁部 4/12 底部 7/12	歪み大	030-07
391	土師器	杯A	S 10-w19 SB8862 No.12	14.5	2.9	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・ウンモ多く、白色粒少量含む	良好	燈 7.5YR7/6	ほぼ完形	口縁の一部に黒斑あり	030-03
392	土師器	杯A	S 10-w19 SB8862 No.9	14.4	3.2	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒多く、ウンモ少量含む	良好	燈 5YR6/8	ほぼ完形		030-06
393	土師器	杯A	S 10-w19 SB8862 No.13	14.0	3.0	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・ウンモ多く、白色粒少量含む	良好	燈 7.5YR7/6	完形		030-04
394	土師器	杯A	S 10-w19 SB8862 No.4	13.7	3.3	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒多く含む	良好	燈 5YR7/6	10/12		030-10
395	土師器	碗A	S 10-w19 SB8862 No.2	17.0	4.0	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・黒色粒多く含む	良好	燈 7.5YR7/6	4/12		030-09
396	土師器	皿A	S 10-w19 SB8862 No.5	14.2	1.6	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒少量、ウンモ少量含む	良好	燈 5YR6/6	完形		030-01
397	土師器	皿A	S 10-w19 SB8862 No.6	14.4	1.5	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒多く、ウンモ少量含む	良好	燈 5YR6/8	6/12		030-08
398	土師器	皿A	S 10-w19 SB8862 No.11	13.8	1.7	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒多く、ウンモ少量含む	良好	浅黄燈 7.5YR8/6	ほぼ完形		030-05
399	土師器	皿A	S 10-w19 SB8862 No.5	14.1	1.4	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・ウンモ多く含む	良好	浅黄燈 7.5YR8/6	完形		030-02
400	灰輪陶器	皿	S 10-w19 SB8862 No.1	14.6	2.8	7.0	外：070行、高台074 内：070行、反軸072	白色粒少量含む	良好	釉：灰黄 2.5Y7/2 素地：灰白 18/8	口縁部 8/12 高台完存		033-07
401	緑輪陶器	皿	S 10-w19 SB8862 No.3	14.8	3.0	6.4	外：070行、全面緑輪陶器 内：070行、全面緑輪陶器	精良、軟質	良好	釉：蒸栗色 801 ~ 蒸栗色 809 素地：透黄 2.5Y8/4	口縁部 2/12 高台完存		033-08
402	土師器	杯G	S 10-x14 P3	14.8	4.6	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	~25mm 砂粒多く含む	良好	黄燈 10YR8/6	11/12	口縁部に煤付着	034-08
403	土師器	杯A	S 10-w17 P4	14.0	2.8	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒・ウンモ多く、白色粒少量含む	良好	燈 7.5YR7/6	完形		034-03
404	土師器	杯A	S 10-w17 P4	15.2	3.0	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒多く含む	良好	燈 5YR6/8	6/12		034-06
405	土師器	碗A	S 10-w17 P4	14.0	3.2	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒多く、~30mm 砂粒微量含む	良好	燈 7.5YR7/6	10/12		034-05
406	土師器	皿A	S 10-w17 P4	15.0	1.9	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	赤色斑粒少量、ウンモ多く含む	良好	浅黄燈 10YR8/4	10/12		034-04
407	土師器	甕A	S 10-w17 P4	13.9	—	—	外：口縁部回転、底部回転 内：口縁部回転、底部回転	白色砂粒多く含む	良好	浅黄燈 10YR8/4	4/12		034-07
408	緑輪陶器	皿	S 10-v18 包含磨	16.7	3.0	8.6	外：070行、高台074 内：070行、緑輪全面陶器	白色粒多く含む、硬質	良好	釉：オリーフ緑 820 素地：にぶい赤燻 7.5YR4/3	1/12	SK8842 直上出土	031-08

第II-11表 第140次調査区出土遺物観察表(7)



調査区遠景 (上空南から)



調査区全景 (上空から)





調査区全景 (北から)



SH 8845、SK 8846、SE 8850 (北から)

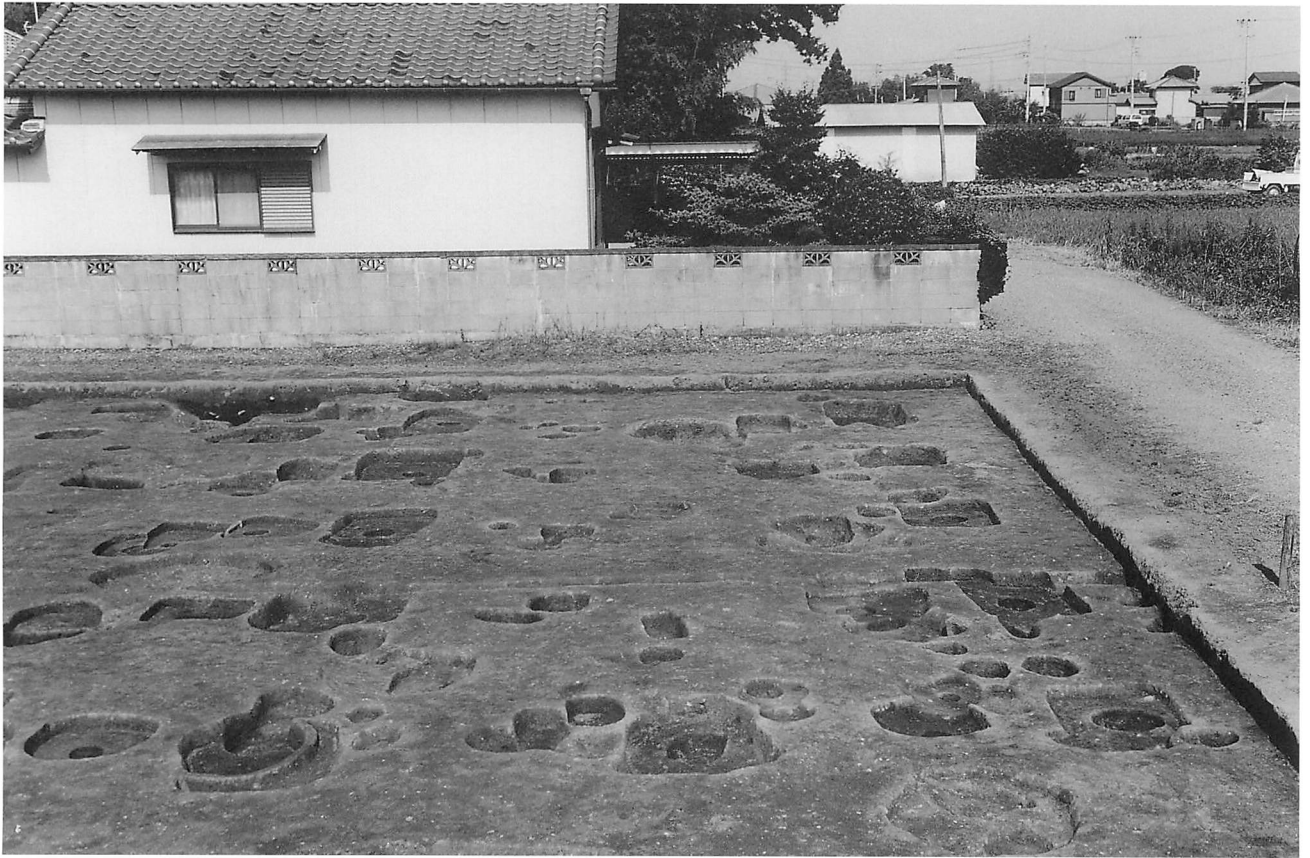




S B 8854・8855 (西から)



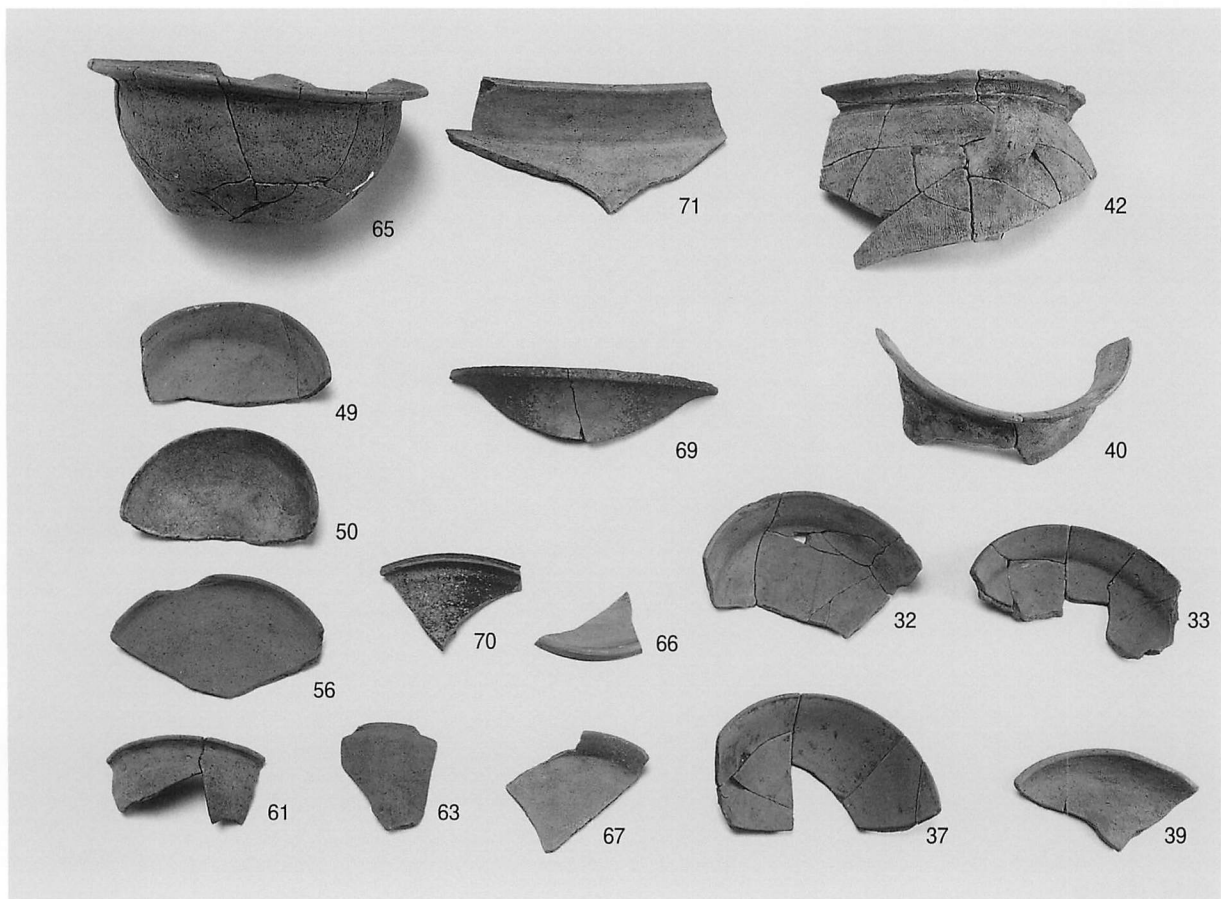
S B 8858・8859・8860 (西から)



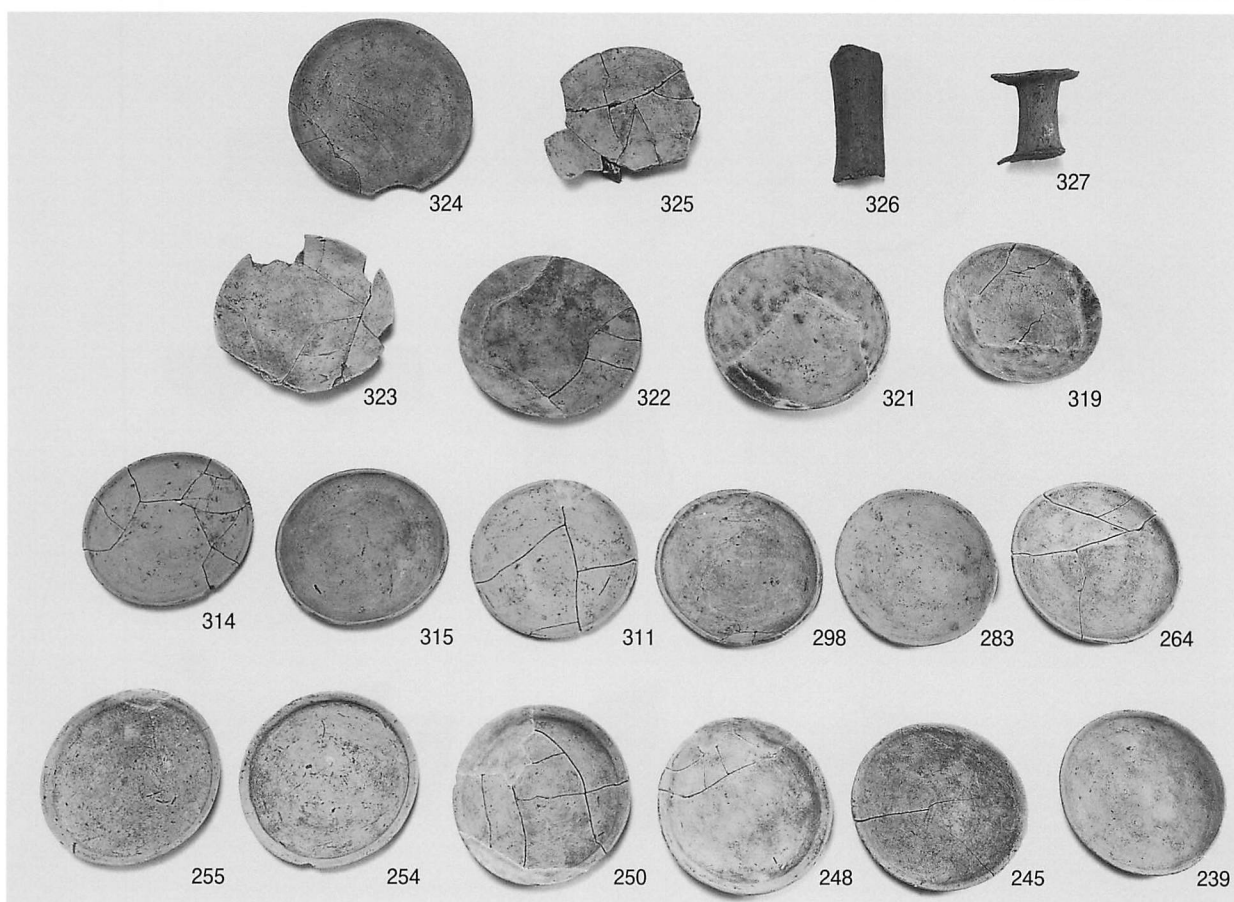
S B 8861・8862・8863 (西から)

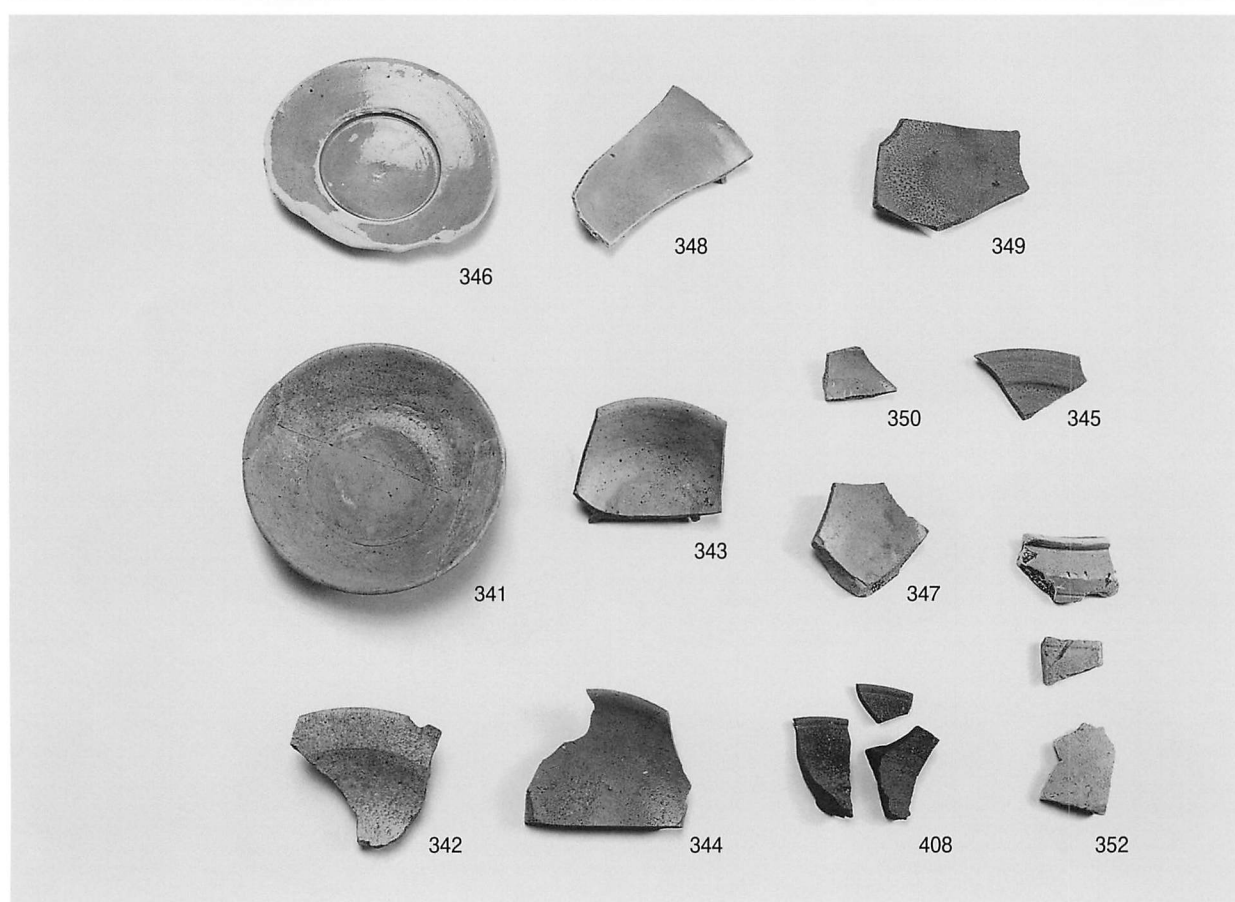
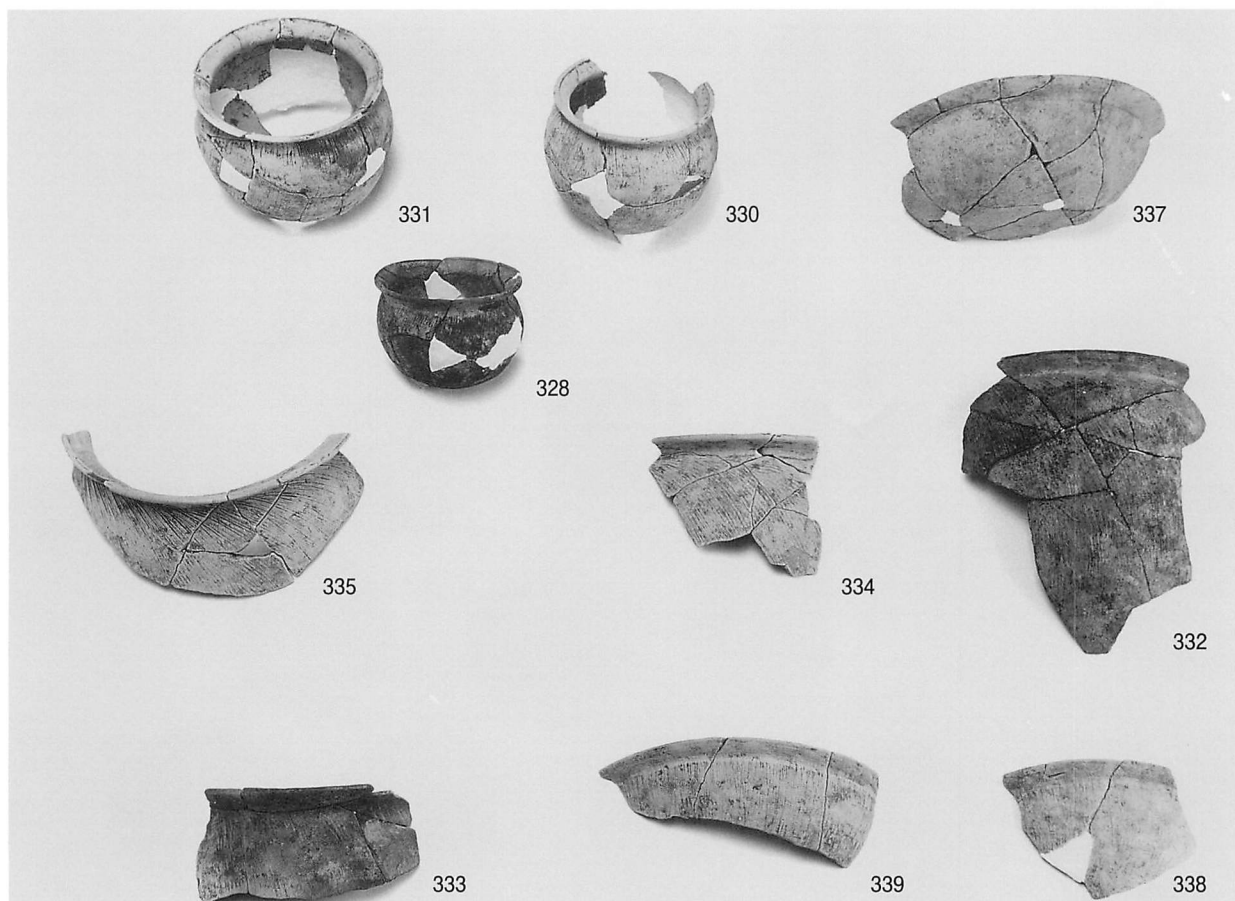


S K 8842 (西から)









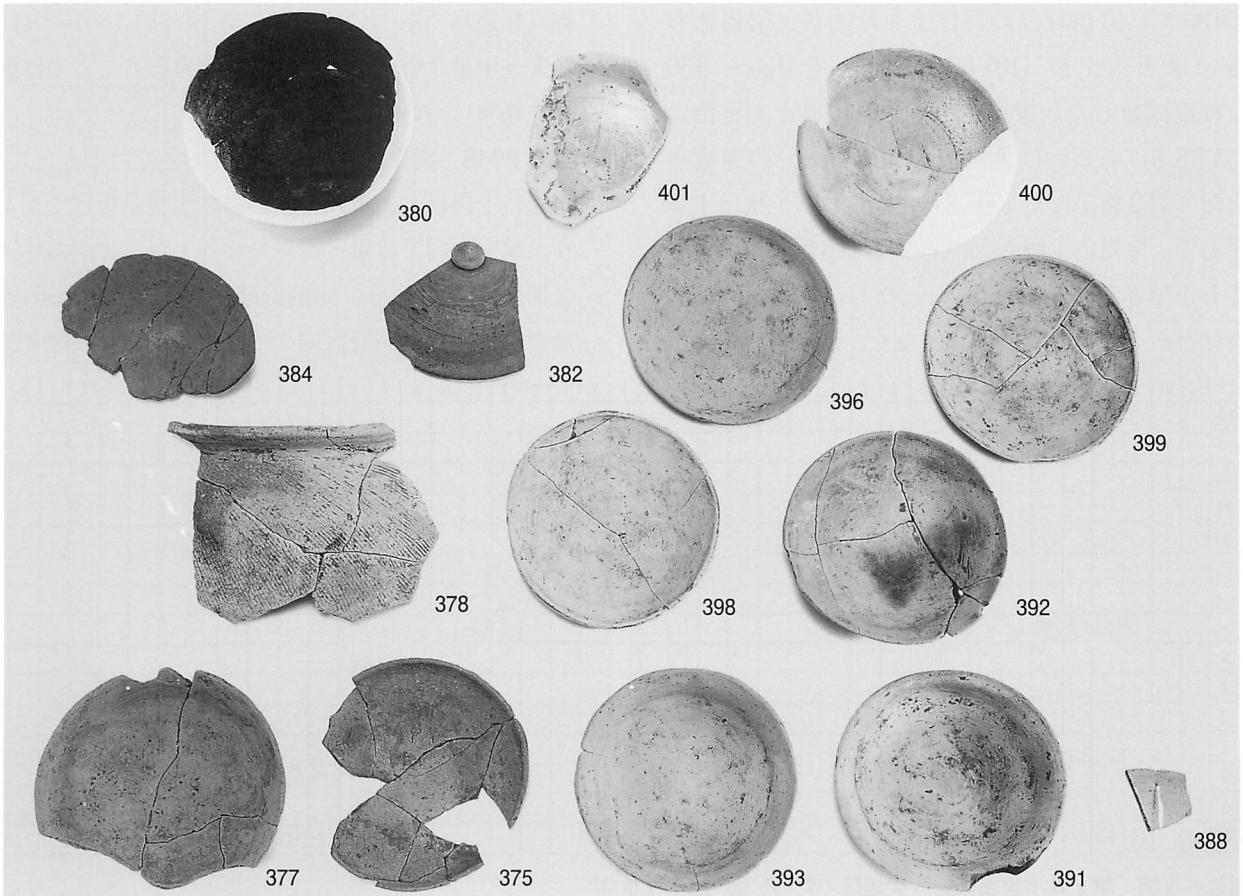
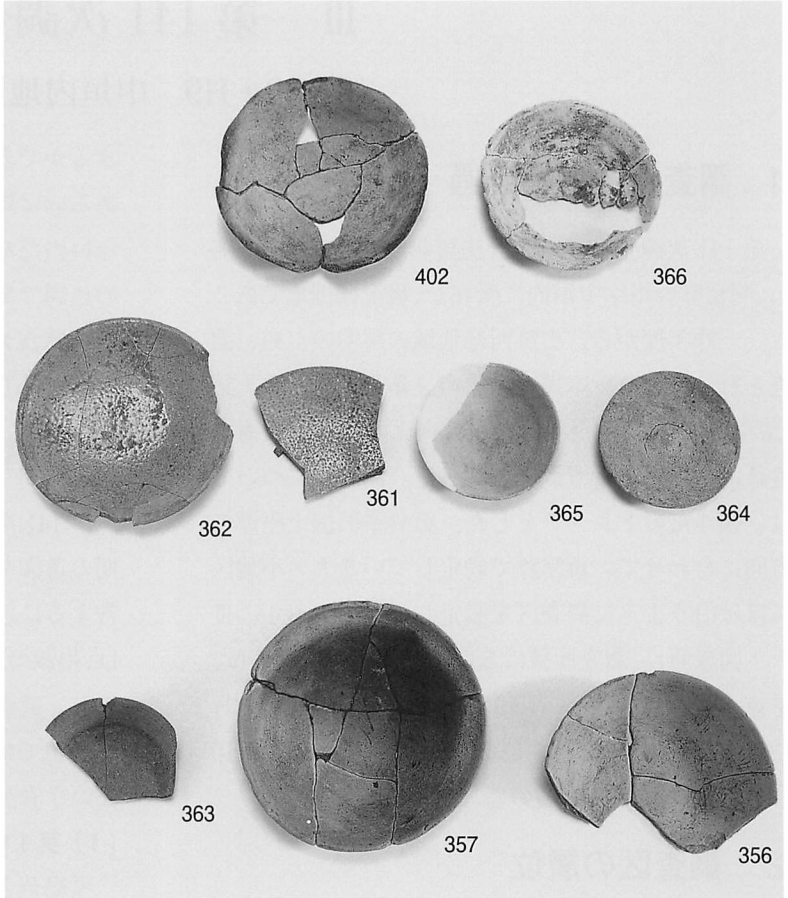




340



351



# Ⅲ 第141次調査

(6AG9・H9 中垣内地区)

## 1 調査の経緯と経過

第141次調査は、斎宮歴史博物館から南に約500m、明和町竹川字中垣内に所在し、現況は畑地であった。一昨年度から、史跡西部地域の解明のため、調査を行っている。本調査はその2年目に当たる。第137次調査を行った部分の最も南より、さらに南の近鉄線に近い場所で調査を行った。調査区については、幅4mのトレンチとした。第VI系旧国土座標の方向に合わせて、斎宮跡で設定している大・小地区にほぼ沿うように調査区を設定した(第I-4、Ⅲ-1図参照)。調査面積は533㎡であった。調査は、平成15(2003)年8月19日に開始し、同年11月12日に現地作業を終了した。現地説明会は同年10月25日に行い、133名の参加を得た。

## 2 調査区の層位

0.30～0.40m程度の耕作土を除去後、黒褐色あるいは黒色土層(10YR3/1など)を0.20～0.50m程度確認した。黒褐色土層のほぼ直下で橙色土(5YR6/6)あるいは黄褐色土(2.5Y5/6)の遺構検出面(第2検出面)を確認した。これらを検出する途上で、黒褐色土層直上の一部でも遺構を検出することができた(第1検出面)。なお、レベル的には高低があるものの時期差ではなく、遺構の確認がで

きるかできないかの差である。本来ならば、黒褐色あるいは黒色土上面での検出がなされなければいけないのだろうが、遺構検出面と遺構の埋土が同系統の色調であるため判別が困難なのである。また、土層の状況から、遺構検出面のレベルが西から東に徐々に低くなっていくことがわかる。

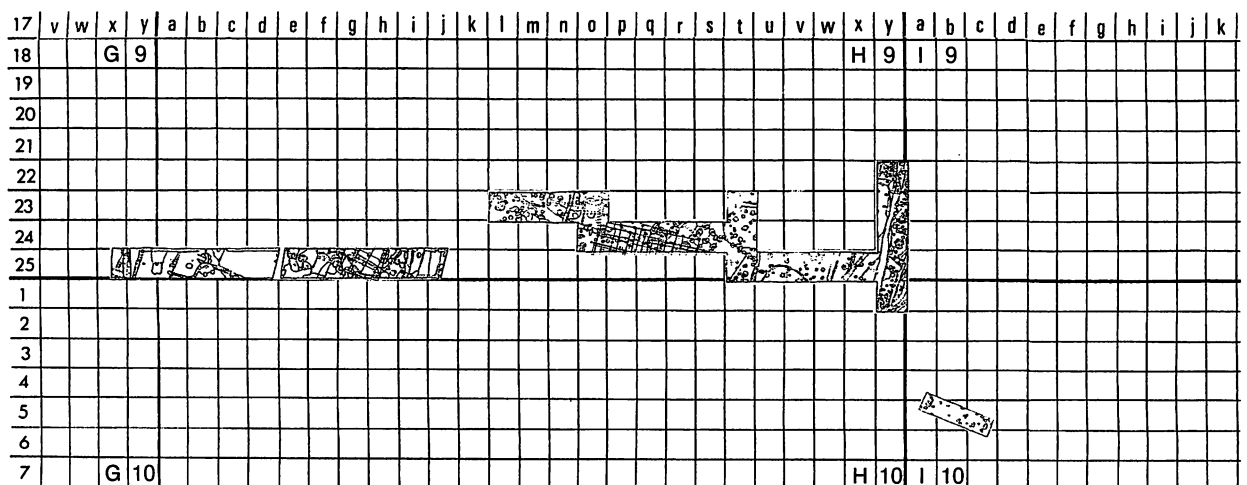
## 3 遺構

第141次調査では、弥生時代から中世にわたる時期の遺構を確認した。ここでは、主だった遺構を報告するとともに、本文中に記載がないものについては、掲載の遺構一覧表などを参照していただきたい。なお、遺構の時期を決定するにあたり、古代の土器については、斎宮編年<sup>(1)</sup>を参照し、斎宮〇-〇段階という表記をしている。

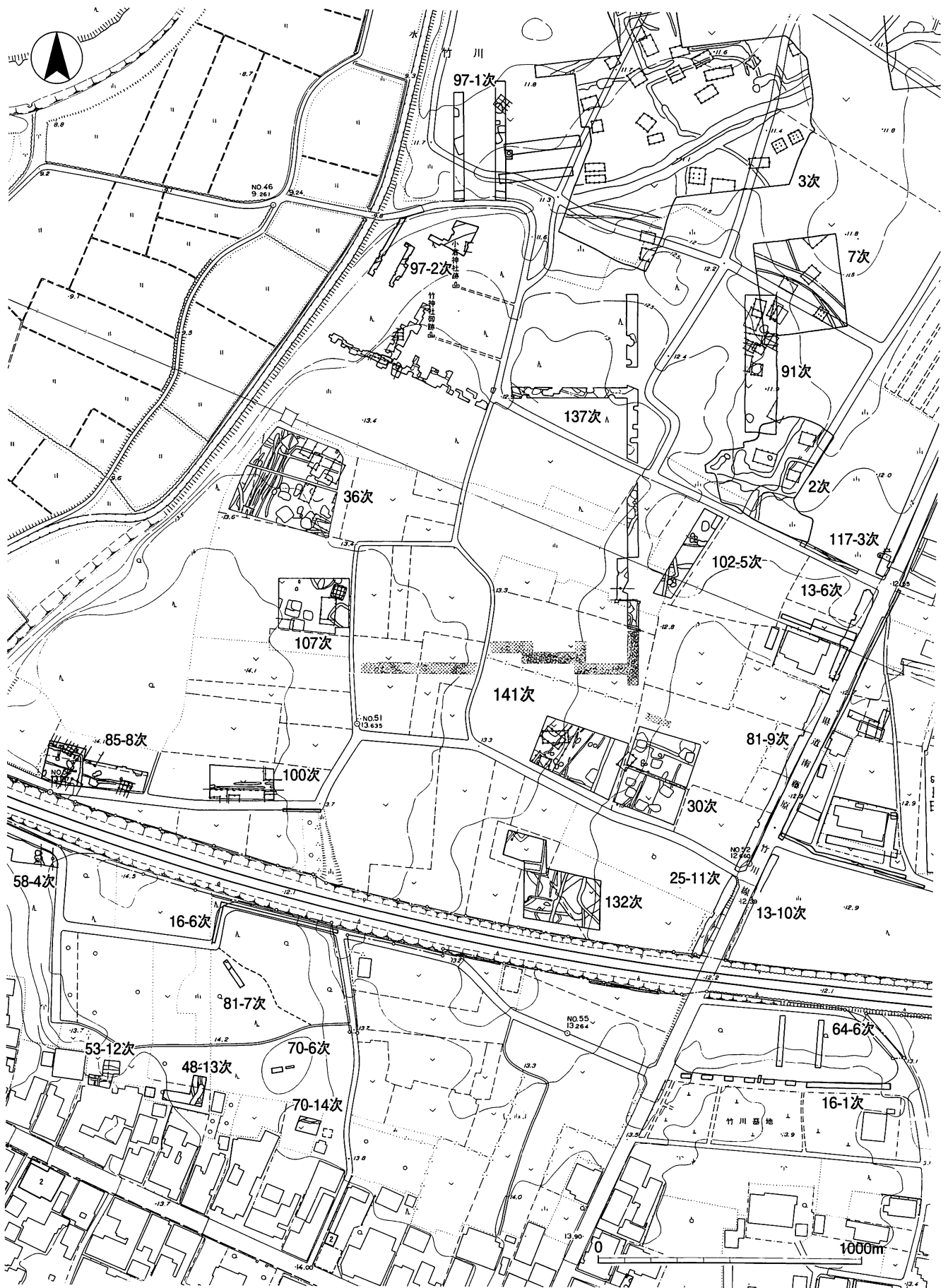
### (1) 第1検出面の遺構

黒褐色土の上面で検出できた遺構群については、掘立柱建物・溝・土坑である。所属時期については、平安～中世というように時期幅がある。ここでは掘立柱建物について報告をする。

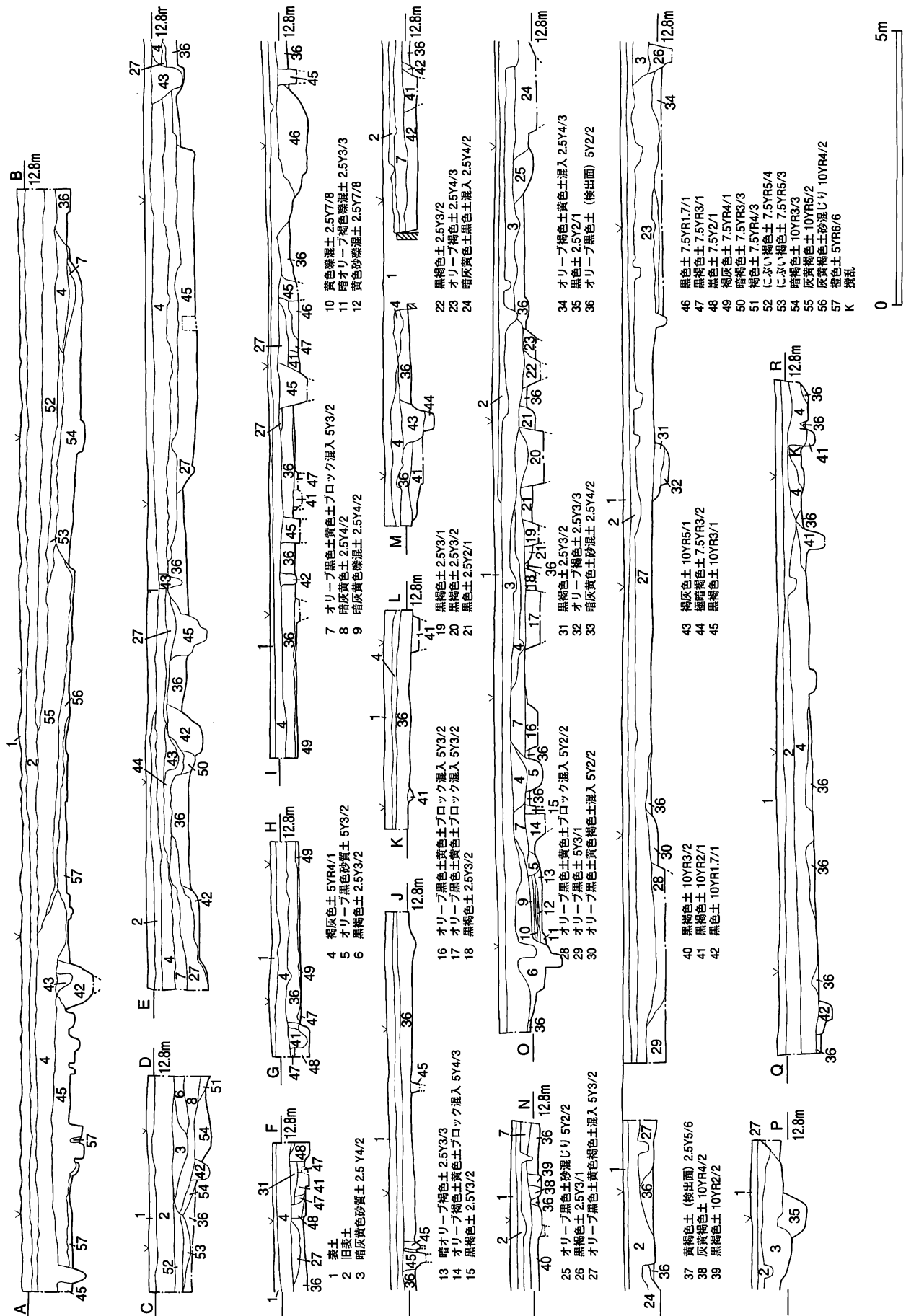
**S B 8946** 調査区外の南に延びていくと考えられ、南北に1間以上、東西2間の総柱建物が想定できよう。調査区内では東・西側の柱列1間、北側の柱列2間分を確認した。柱掘形は径0.48～0.82mの円形で、柱痕跡は調査区内すべてで確認でき、径0.22



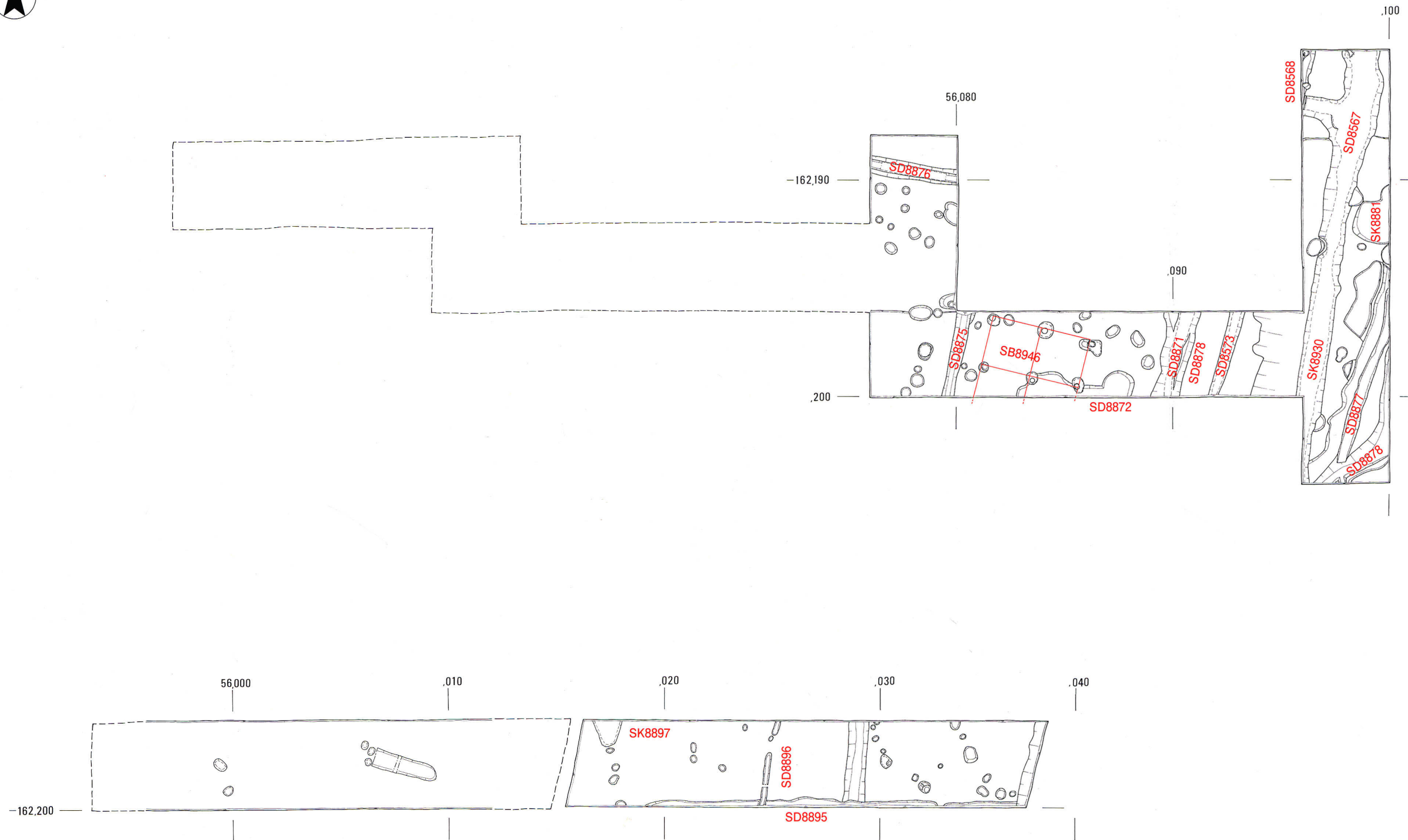
第Ⅲ-1図 第141次調査区 大地区・グリッド図(1:1,000)



第三-2図 第141次調査区 位置図 (1:2,000)



第三-3図 第141次調査区 土層断面図 (1:100)



第Ⅲ-4図 第141次調査区 遺構平面図 第一検出面部分 (1:200)





第Ⅲ-5図 第141次調査区 遺構平面図 第二検出面部分 (1:200)

～0.36 mの円形を呈している。柱穴からいわゆる  
ロクロ製土師器碗が出土していることから、斎宮Ⅲ  
期に属するものと考えられる。

## (2) 第2検出面の遺構

### a 古代以前の遺構

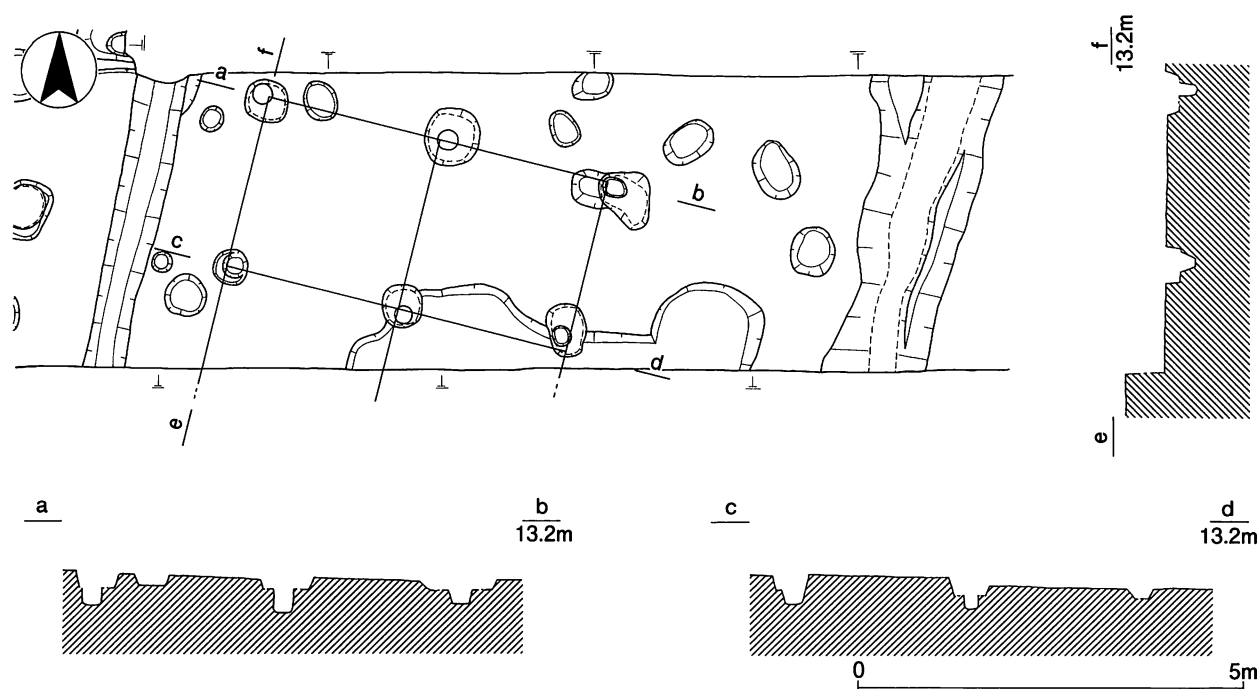
**S H 8885** 遺構の全体は検出できなかった。調  
査区外の南に延びる、円形の竪穴住居と考えられ  
る。調査区内で確認できた規模は東西6.14m、南北  
2.22m、深さ0.16～0.26mをはかる。遺構埋土は黒  
褐色土であった。調査区内の床面の端には、幅0.15  
～0.22 m、床面からの深さ0.01～0.04mの壁周溝  
を確認することができた。遺構の埋土から弥生土器  
甕・壺が少量出土している。小片ばかりで判断に苦  
しむが弥生時代中期に属するものと思われる。

**S H 8886** 調査区の制約があり遺構の全体は検出  
できなかった。調査区の東に延びていく、円形の  
竪穴住居と思われる。確認できた規模は東西4.4m、  
南北5.68m、深さ0.01～0.19 mをはかる。調査区  
内の床面の端には、幅0.19～0.21 m、床面からの  
深さ0.02～0.03 mの壁周溝を一部確認することが  
できた。遺構埋土は黒褐色土であった。遺構のほぼ  
中央に不整な楕円形の土坑を検出した。形状から炉  
と考えられるが、埋土からの灰・炭化物の出土や、  
底部あるいは側面が火を受けての赤化も確認でき

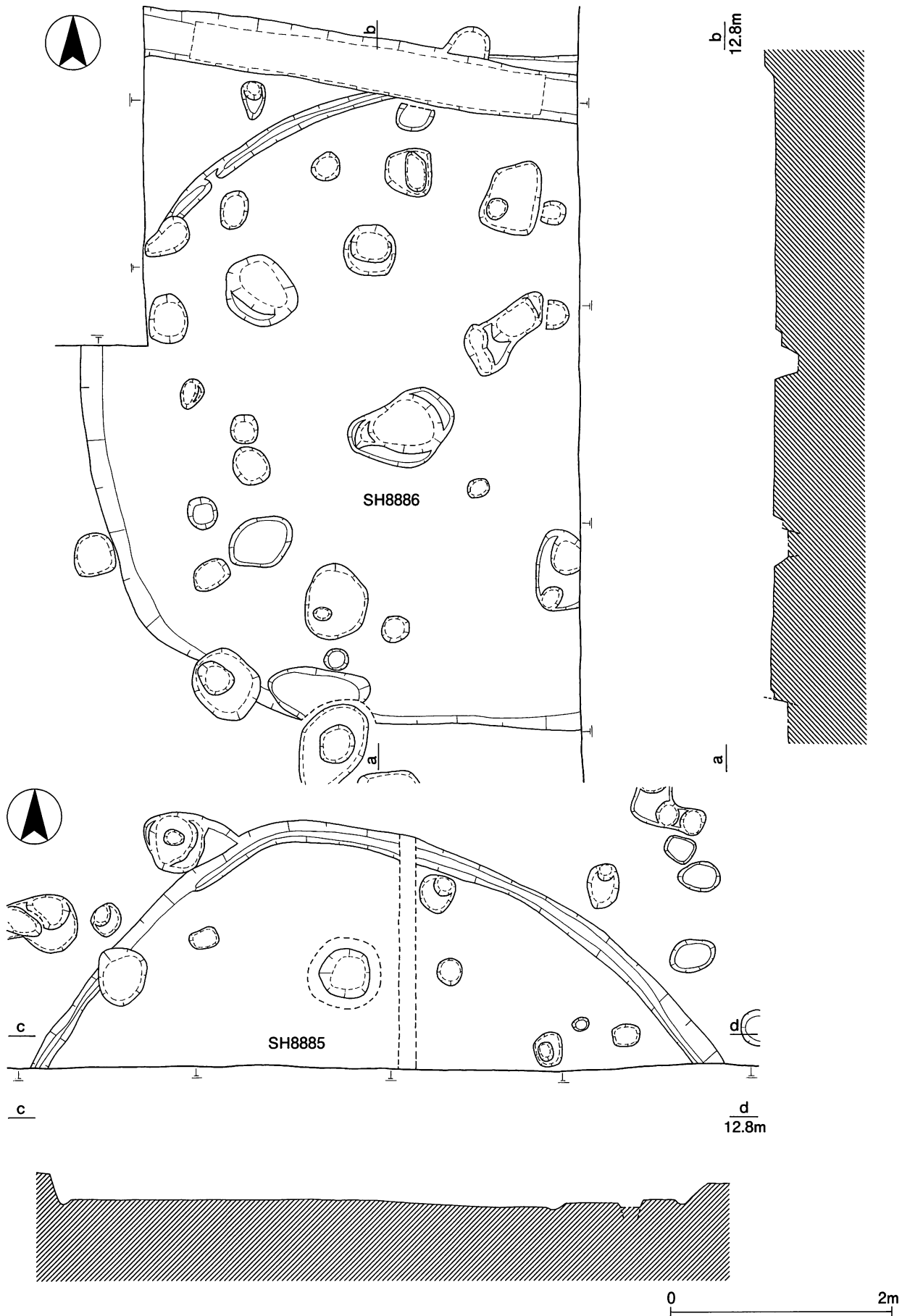
なかった。遺構埋土からの遺物の出土は確認できな  
かったため判断に苦しむが、S H 8885 と同時期の  
ものか。

**S H 8892** 調査区の制約で遺構の全てを検出する  
に至っていない。調査区外の南・北・西方向に延び  
ていく。時期の新しい遺構に切られているため、形  
状の判別が難しいが、円形の竪穴住居と考えられ  
る。調査区内で確認できた規模は東西4.60m、南北  
3.95m、深さ0.09～0.25mをはかる。遺構埋土は黒  
褐色土であった。調査区内では壁周溝を確認するこ  
とはできなかった。住居の中央と考えられる部分に  
楕円形のS K 8890があり、形状から炉と考えられ  
る。埋土からの灰または炭化物の出土や、底部ある  
いは側面が火を受けての赤化も確認できなかった。  
遺構埋土から遺物の出土が確認できなかったため判  
断に苦しむが、形状からS H 8885 と同時期であらう。

**S H 8917** 調査区の北側に延びていく円形の竪穴住  
居か。後世の遺構SH8903、SD8906などに切られて  
いた。調査区内で確認できた部分は、東西4.80m、南  
北1.65m、深さ0.01～0.13 mをはかる。遺構埋土は  
黒褐色土であった。調査区内で確認できた床面の端  
に、幅0.14～0.30 m、床面からの深さ0.03～0.04 m  
の壁周溝を確認することができた。床面直上で、横  
位でつぶれた状態の弥生土器壺(2)が出土した。



第三-6図 第141次調査区 S B 8946 平面・断面図 (1:100)



第Ⅲ-7図 第141次調査区 SH 8885・8886 平面・断面図 (1:50)

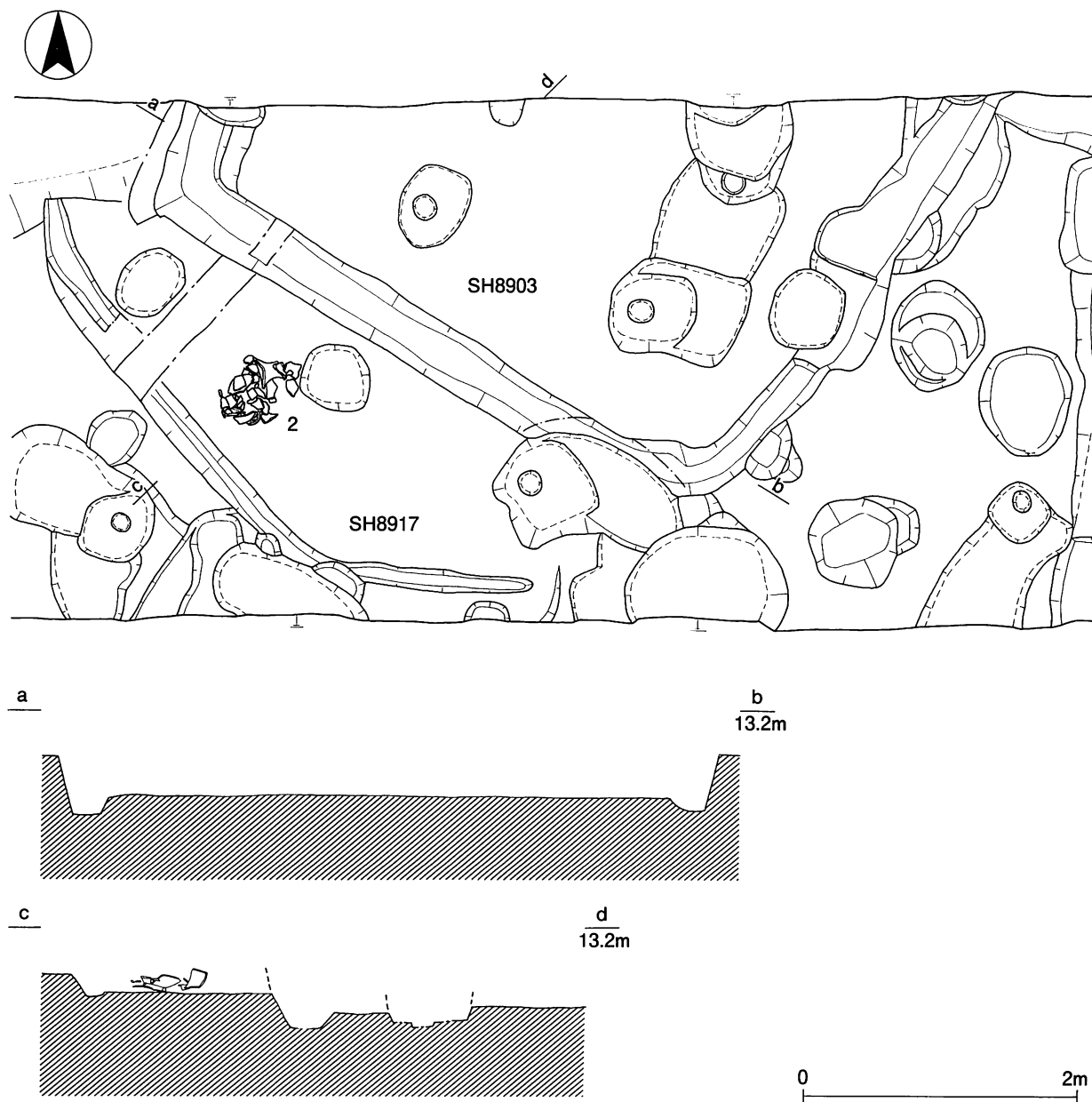
遺構の時期は弥生時代中期に属するものと思われる。  
**S X 8880** 幅 1.81 ~ 1.92m、深さ 0.32 ~ 0.42 m の溝に囲まれた方形周溝墓と考えられる。調査区の制約もあり、全体を検出することはできなかったが、周溝の屈曲部分が掘削されないものと思われる。なお、周溝に囲まれたほぼ中央部に楕円形の S K 8883 を確認した。埋土は周溝のものと同いで、主体部の可能性がある。周溝、主体部は全掘していないため遺物の出土が少ないが、前述の竪穴住居跡群と同時期と思われる。

**b 古代の遺構**

**S B 8931** 調査区内では東西 2 間・南北 2 間の柱

列を確認した。柱穴については、柱掘形が長辺 0.65 ~ 0.78 m の不整形円形を呈し、柱痕跡は径 0.14 ~ 0.34 m の円形で、一部の柱穴で確認することができた。調査区外の南に延びていく、桁行 2 間以上、梁行 2 間の掘立柱建物になると考えられる。柱穴からの出土遺物が少量で判断に苦しむが、斎宮 II 期の範疇であろうか。柱穴の切り合いから判断すれば S B 8932 より新しい。

**S B 8932** 東西 2 間・南北 2 間の総柱建物と考えられる。建物東側の柱穴 1ヶ所が未検出で、調査区外の南に延びる。柱穴については、柱掘形が長辺 0.53 ~ 0.84 m の隅丸方形あるいは楕円形を呈し、柱痕



第三-8図 第141次調査区 SH 8903・8917 平面・断面図 (1:50)

跡は径 0.15 ~ 0.25 m の円形で、一部の柱穴で確認することができた。出土遺物が小片ばかりで判断に苦しむが、斎宮 I 期のものと考えられる。また、この建物の柱穴と重複する柱穴の存在があり、同じ場所での建て替えなどの可能性がある。

**S B 8933** 調査区内では東西 2 間・南北 1 間分を確認した。調査区外の北側に延びる掘立柱建物と考えられる。柱穴については、柱掘形が長辺 0.56 ~ 0.68 m の隅丸方形を呈し、柱痕跡は径 0.18 ~ 0.34 m の円形で、一部の柱穴で確認することができた。東西の柱列の柱穴 1ヶ所は、S D 8887 に切られていて検出することができなかった。出土遺物が小片ばかりで判断に苦しむが、斎宮 I 期のものと思われる。

**S B 8934** 調査区内では東西 2 間分を確認した。調査区外の北側に延びる掘立柱建物と考えられる。柱穴については、柱掘形が長辺 0.64 ~ 0.77 m の隅丸方形を呈し、柱痕跡は径 0.19 ~ 0.20 m の円形であることが確認できた。出土遺物が小片ばかりで判断に苦しむが、斎宮 I 期のものと考えられる。

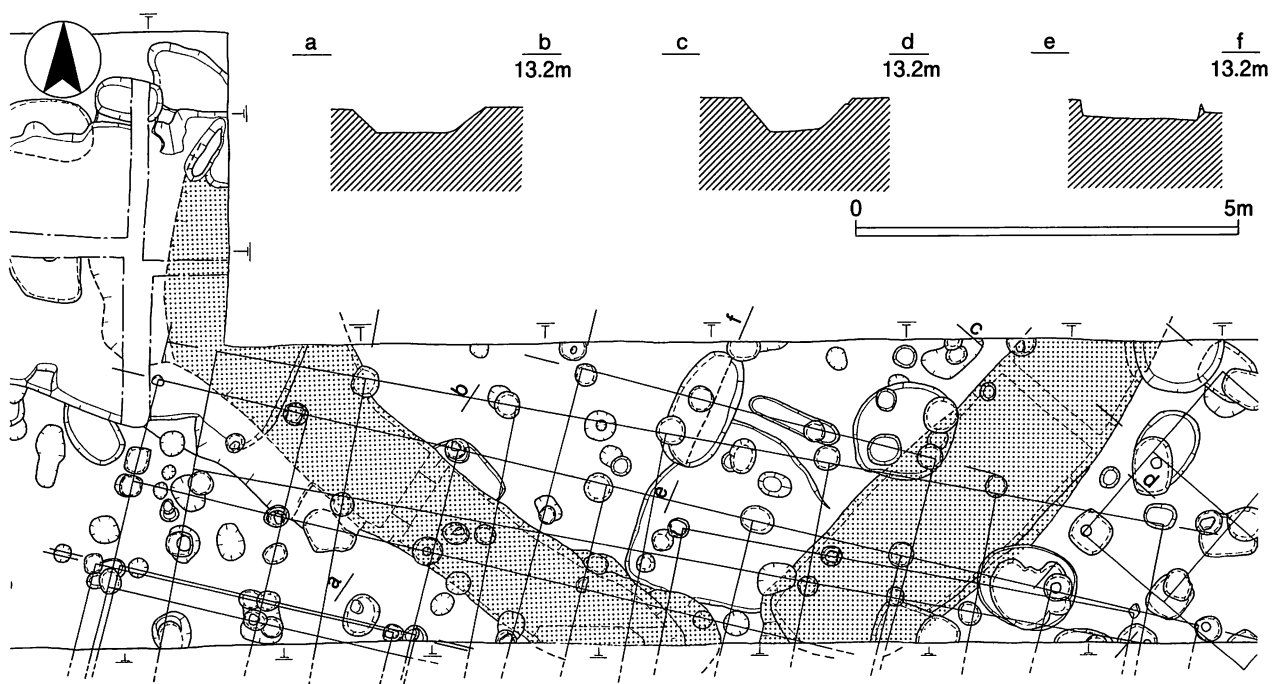
**S B 8935** 調査区外に延びていくと考えられ、南北に 3 間、東西 3 間の掘立柱建物が想定できよう。調査区内では東・南側の柱列 2 間、西側の柱列 1 間分を確認した。柱掘形は長辺 0.72 ~ 0.92 m の隅丸方形あるいは楕円形を呈している。柱痕跡は径 0.14

m の円形を呈し、一部の柱穴で確認することができた。柱穴からの出土遺物が小片ばかりで判断に苦しむが、斎宮 I 期に属するものと思われる。

**S B 8936** 東西 3 間・南北 3 間の総柱建物が想定できよう。調査区内では北から 3 列目の東西東柱列については、3 間分を確認することができた。柱穴については、柱掘形が長辺 0.56 ~ 1.08 m の隅丸方形あるいは楕円形を呈している。柱痕跡は径 0.15 ~ 0.18 m の円形で、一部の柱穴で確認することができた。柱穴からの出土遺物が小片ばかりで判断に苦しむが、斎宮 I - 2 ~ 3 段階のものと考えられる。

**S H 8884** 後世の遺構である S D 8567・8877 などに切れ判別が難しいが壁周溝が残存している部分もあったので、竪穴住居と判断した。壁周溝は全周に巡っているわけではないが北・西・南辺で確認できた。幅 0.21 ~ 0.40 m、深さは床面から 0.02 ~ 0.04 m の規模であった。平面形は、長辺 4.90 m、短辺 4.08 m の隅の丸い長方形である。深さは遺構検出面より 0.09 ~ 0.25 m であった。竈跡については確認することはできなかった。埋土からは、斎宮 I - 2 段階に属すると考えられる土師器皿・甕、弥生土器小片、炭化物を少量ではあるが確認した。

**S H 8888** 調査区の制約があるため遺構の全部を検出することはできなかった。平面形については、



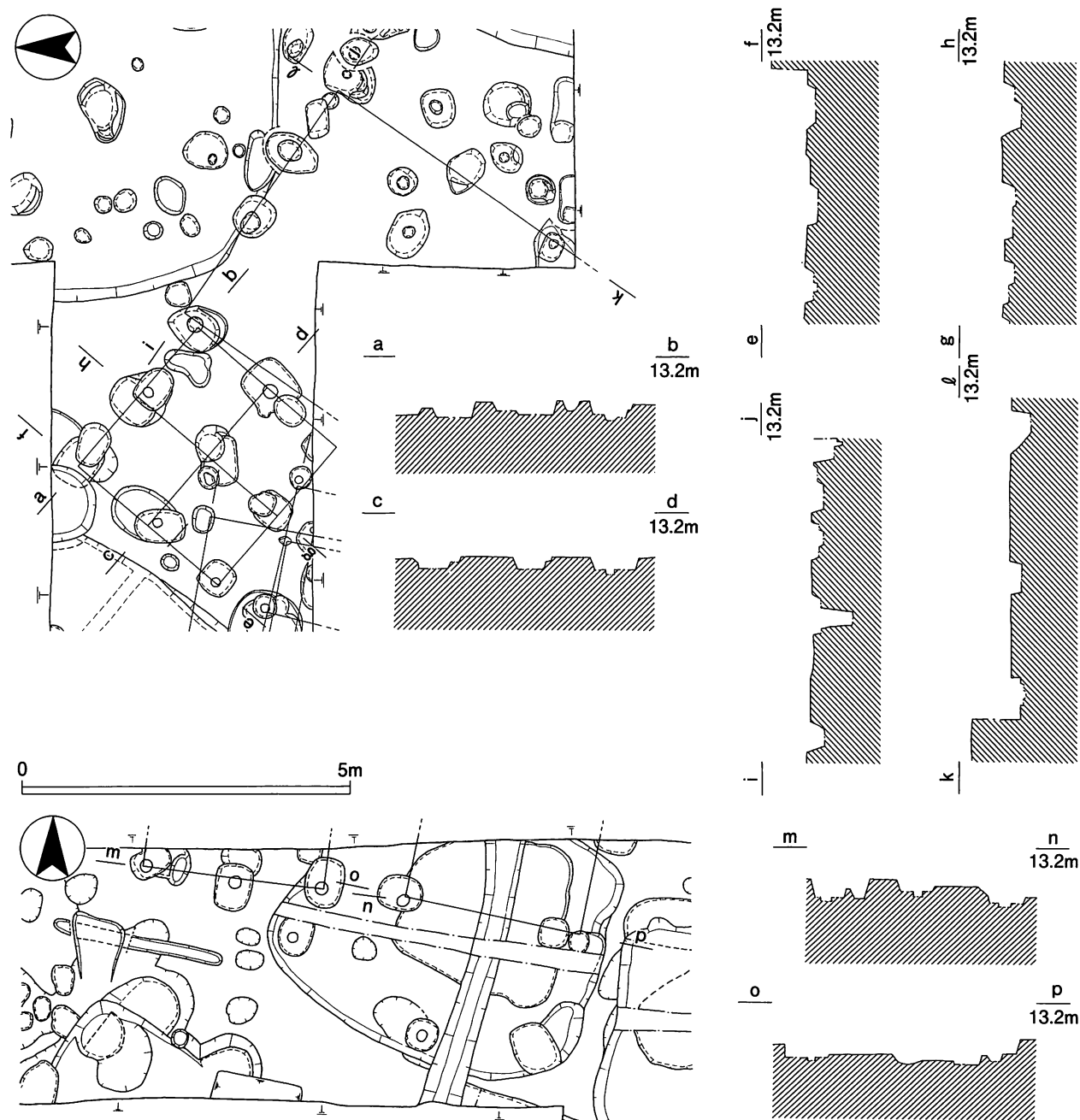
第三-9図 第141次調査区 SK 8883、SX 8880 平面・断面図 (1:100) ※網点部分が周溝。

長辺 4.36 m、短辺 3.80 m の隅の丸い長方形である。深さは遺構検出面から 0.14 ~ 0.30 m であった。壁周溝は確認することができなかった。竈跡については、北辺のほぼ中央でみられた。火熱を受け赤変している部分が北端にみられ硬化が一部ではあるが確認できた。また、竈部分から東へ約 1 m のところで、竈跡の半分程度をもう 1 基確認した。所属時期の新旧は判然としないが、竪穴住居が重複していたのであろう。埋土からは、斎宮 I - 2 段階と思われる土師器杯・皿・甕・高杯や須恵器杯蓋の出土を確認した。

**S H 8891** 調査区の制約や S D 8887 などの後世の

遺構に切られているため遺構の全体を確認することはできなかったが、平面形については、長辺 4.72 m、短辺 3.8 m の隅の丸い長方形であろう。深さは遺構検出面より 0.19 ~ 0.26 m であった。竈跡については確認することはできなかった。埋土からは、斎宮 I - 2 段階に属すると考えられる土師器杯・皿・甕・甑・高杯や須恵器杯・杯蓋、また弥生土器壺片が出土した。

**S H 8893** 調査区の制約、近現代の井戸や中近世の溝に切られているため遺構の全容は判然としないが、竪穴住居跡の北西隅と思われる部分を確認する



第Ⅲ - 10 図 第 1 4 1 次調査区 S B 8931・8932・8933・8934 平面・断面図 (1 : 100)

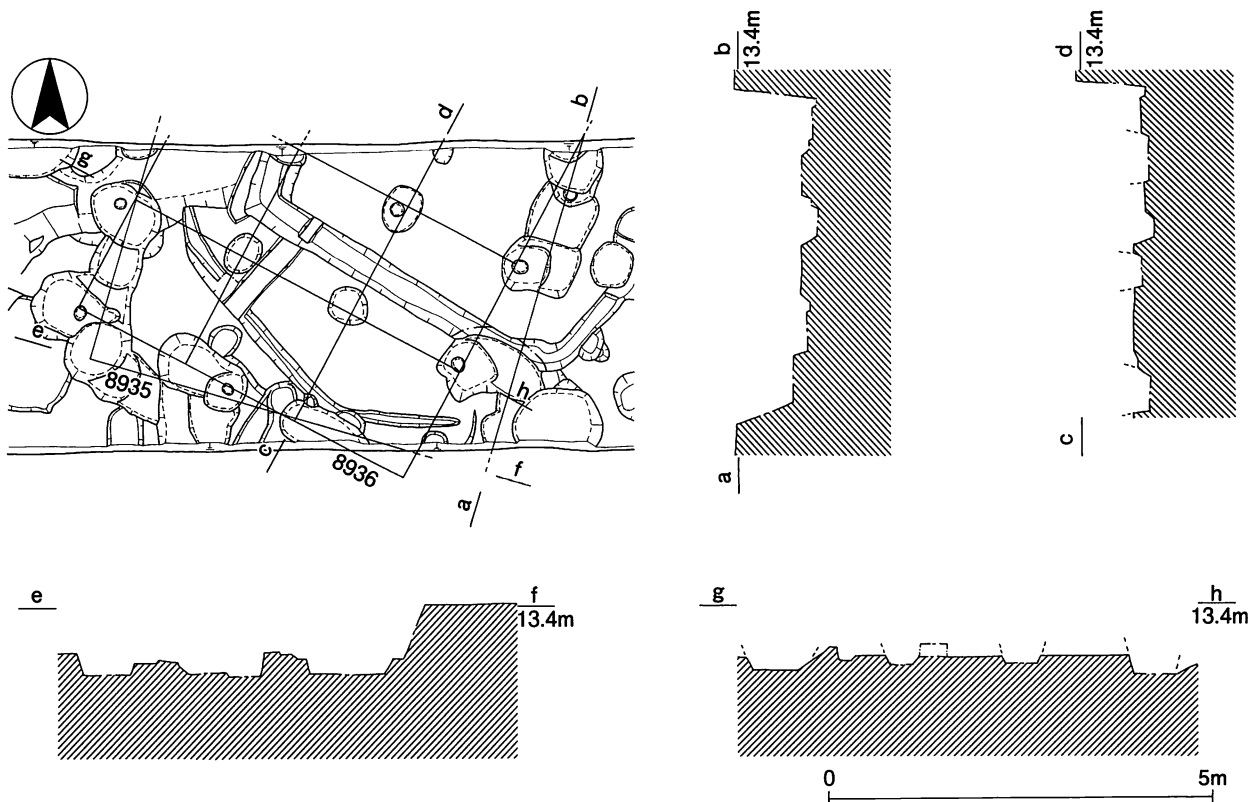


ことができた。平面形は隅丸方形であろうか。東西 2.24 m、南北 1.70 m を確認することができた。深さは遺構検出面から 0.09 ~ 0.25 m であった。壁周溝は確認することができなかった。近現代の井戸に切られる状況であるため全体は判然としないが、竈跡の基底部半分程度を確認することができた。西側の袖を補強するためであろうか、土師器甕が逆位で据え付けてあった。支柱石についても 1ヶ所確認することができた。埋土からは、斎宮 I 期に属すると考えられる土師器皿・甕や弥生土器壺・甕片を少量ではあるが確認した。

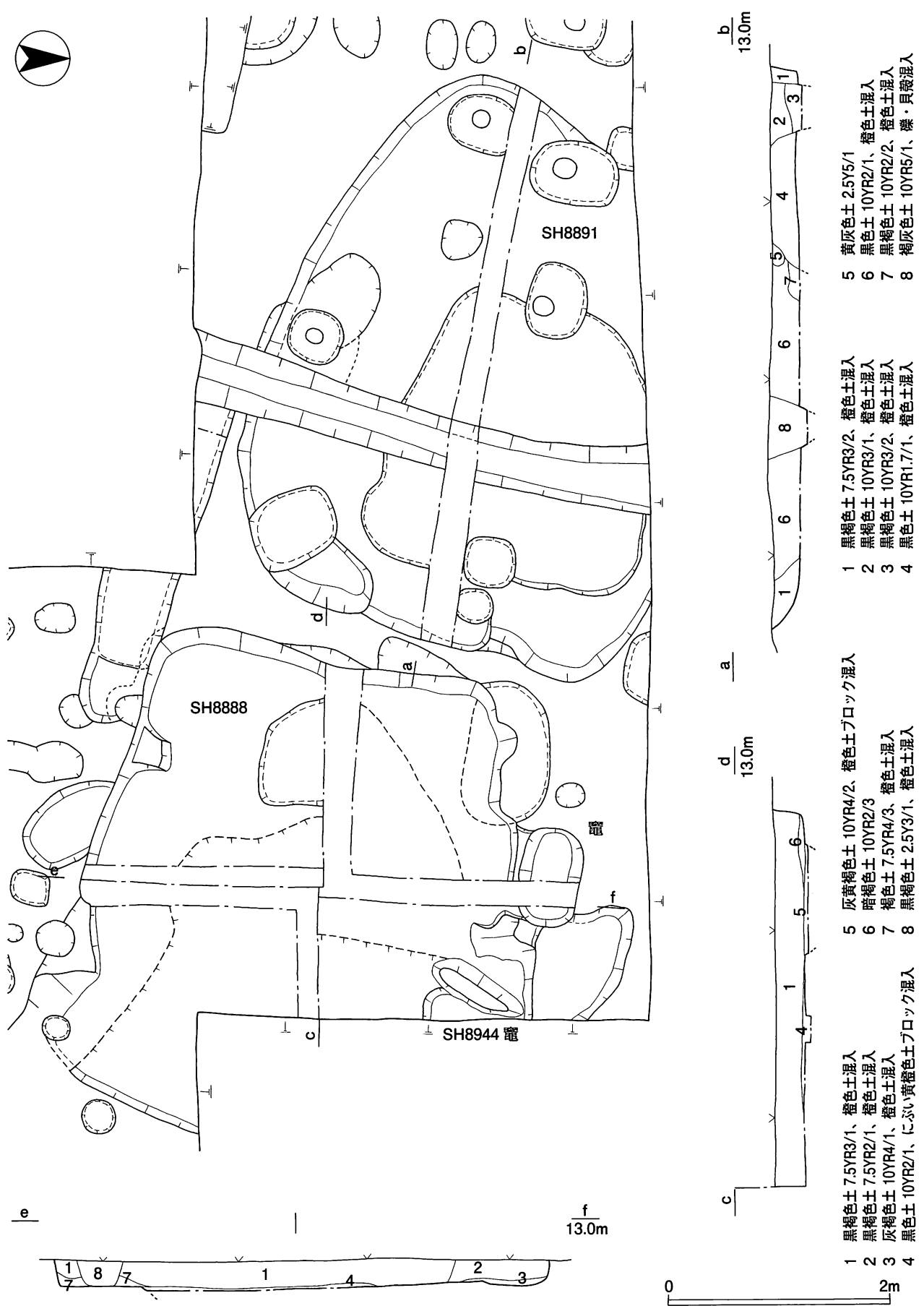
**S H 8903** 調査区の制約もあり、遺構の全体を確認することはできなかった。平面形は隅丸方形で、一辺 4.84 m の規模がある。深さは遺構検出面より 0.24 ~ 0.32 m であった。壁周溝については、調査区内で確認した部分の全てを巡っていた。幅 0.30 ~ 0.48 m、深さは床面から 0.08 ~ 0.11 m であった。竈跡は確認することはできなかった。埋土からは、斎宮 I - 2 ~ 3 段階に属すると考えられる土師器杯・甕・鍋や須恵器甕・高杯、土錘や弥生土器壺・甕片も出土した。

**S H 8920** 調査区の西端で一部を検出した。調査区の制約もあり、遺構の全体を確認することはできなかったが、遺構の規模や形状から竪穴住居と判断した。調査区内では住居跡の東南隅と思われる部分を確認することができた。平面形は隅丸方形であろう。東西 1.32 m、南北 2.8 m を検出することができた。深さは遺構検出面から 0.18 ~ 0.22 m であった。壁周溝や竈跡は確認することができなかった。埋土からは、斎宮 I - 3 ~ 4 段階に属すると考えられる土師器杯・皿・甕、弥生土器壺片が出土した。

**S H 8925** 調査区の制約もあり、遺構の全ての検出はできなかった。調査区内では竪穴住居跡の東南隅と思われる部分を検出した。平面形については隅丸方形と思われる。東西 3.14 m、南北 4.06 m の部分を確認することができた。深さは遺構検出面から 0.15 ~ 0.22 m であった。壁周溝については、調査区内で確認した部分の全てを巡っていた。幅 0.30 ~ 0.36 m、深さは床面から 0.18 ~ 0.38 m の規模であった。竈跡については東辺に基底部を確認することができた。埋土からは、斎宮 I - 2 ~ 3 段階に属すると考えられる土師器杯・皿・甕・甌が出土した。



第Ⅲ - 11 図 第 1 4 1 次調査区 S B 8935・8936 平面・断面図 (1 : 100)



- |   |                           |   |                         |   |                    |
|---|---------------------------|---|-------------------------|---|--------------------|
| 1 | 黒褐色土 7.5YR3/1、橙色土混入       | 1 | 黒褐色土 7.5YR3/2、橙色土混入     | 5 | 黄灰色土 2.5Y5/1       |
| 2 | 黒褐色土 7.5YR2/1、橙色土混入       | 2 | 黒褐色土 10YR3/1、橙色土混入      | 6 | 黒色土 10YR2/1、橙色土混入  |
| 3 | 灰褐色土 10YR4/1、橙色土混入        | 3 | 黒褐色土 10YR3/2、橙色土混入      | 7 | 黒褐色土 10YR2/2、橙色土混入 |
| 4 | 黒色土 10YR2/1、にぶい黄褐色土ブロック混入 | 4 | 黒色土 10YR1.7/1、橙色土混入     | 8 | 褐色土 10YR5/1、礫・貝殻混入 |
|   |                           | 5 | 灰黄褐色土 10YR4/2、橙色土ブロック混入 |   |                    |
|   |                           | 6 | 暗褐色土 10YR2/3            |   |                    |
|   |                           | 7 | 褐色土 7.5YR4/3、橙色土混入      |   |                    |
|   |                           | 8 | 黒褐色土 2.5Y3/1、橙色土混入      |   |                    |

第Ⅲ-12図 第141次調査区 SH888・8891平面・断面図(1:50)

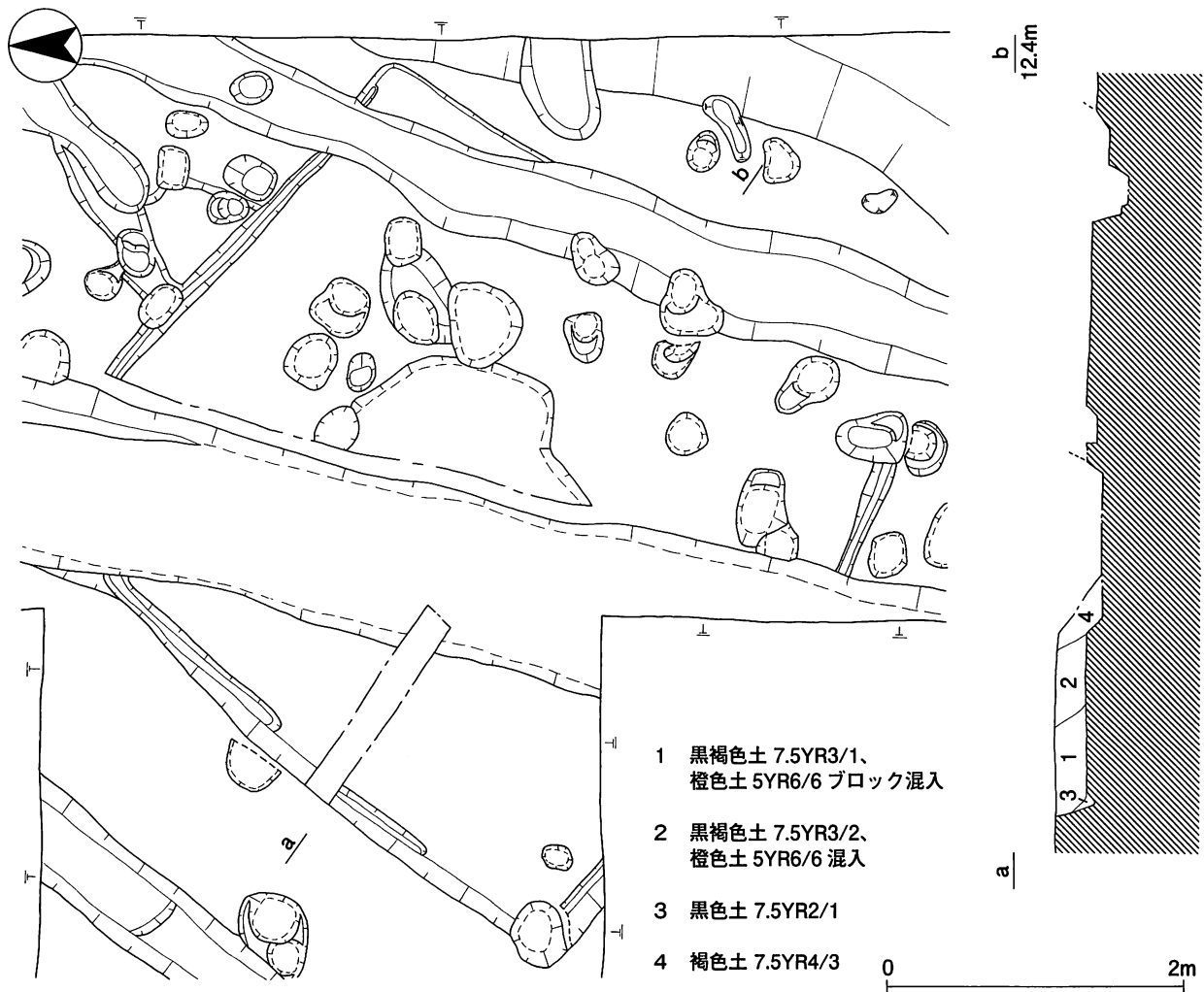
なお、隣接するS H 8928に切られていた。

**S H 8928** 調査区の制約もあり、遺構全体を確認することはできなかった。遺構の東辺と西辺には、壁周溝と考えられる溝を確認することができた。このことや遺構の形状から、竪穴住居であると判断した。結果的に、この住居跡の中央を調査区が横断することとなった。一辺5.90mをはかり、深さは遺構検出面から0.20～0.28mであった。壁周溝については、調査区内で確認した部分の全てでみられた。幅0.19～0.50m、深さは床面から0.08～0.10mの規模であった。竈跡については東辺に確認することができたが、床面が円形に赤変していた部分と若干の窪みだけの残存状況であった。埋土からは、斎宮I-2段階に属すると考えられる土師器杯・皿・甕・甑・鍋・高杯・鍔付円筒土器や須恵器杯・甕が出土した。

**S F 8945** 過去の調査成果から、北は通称奈良古

道の付近、南は近鉄の線路周辺にまで延びる直線的な道路遺構と考えられる。S D 8879が西、S D 8929が東の側溝にあたるものであろう。S D 8879は幅0.48～0.65m、深さは遺構検出面から0.25～0.54m、一方S D 8929は幅0.31m、深さは遺構検出面から0.06～0.11mの規模であった。S D 8929については、後世の遺構S D 8878などに切られていることもあって残りが良くない。S D 8879とS D 8929の間が道路となり、溝心心8.1mの幅員がある。調査区内の成果や過去の調査成果においても道路の硬化面は確認されていない。S D 8879の埋土から、斎宮I-2～3段階に属すると考えられる土師器杯・甕や須恵器甕が出土した。

**S Z 8919** 調査区の制約もあり、遺構の全体を確認することはできなかった。また、同系統の色調の埋土であり、平面及び断面を観察しても切り合い関係が判然としなかったため、「落ち込み」とした。



第Ⅲ-13図 第141次調査区 S H 8884 平面・断面図 (1:50)

遺物についても「落ち込み」と一括して取り上げた。埋土からは、弥生時代中期の土器から室町期までの遺物が混在している。弥生、古代、中世の遺構が複数重複していることが想定できよう。遺構群の切り合い関係については、周辺の面的調査の結果を待ちたいと思う。

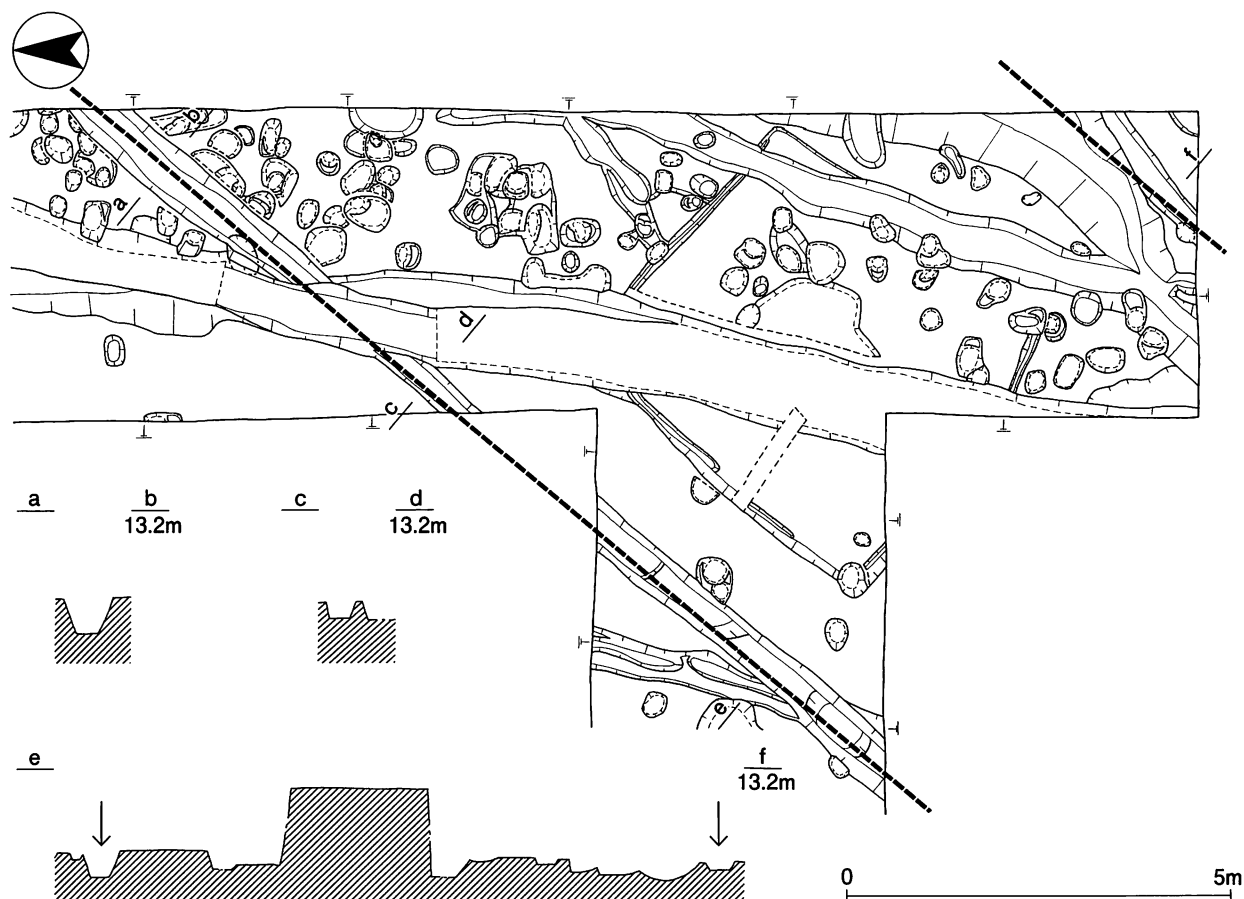
### c 中世の遺構

**S B 8937** 調査区内では東西7間・南北2間分の柱列を確認した。柱穴については、柱掘形が径0.21～0.44 mの円形を呈し、柱痕跡は径0.12～0.15 mの円形で、一部の柱穴で確認することができた。また、根石についても一部の柱穴で確認することができた。調査区外の南に延びていく、東西7間・南北2間以上の総柱建物になると思われるが、建物方向の揃った2棟である可能性もある。本報告では1棟として報告するが、周辺の面的調査の結果を待ちたい。柱穴からの出土遺物から、斎宮Ⅱ期に属すると考えられる土師器甕が出土しているものの、柱穴の規模や形状、周辺の建物群との関係も踏まえ、中世以降の建物と考えたい。

**S B 8938** 調査区の制約で柱穴の全てを確認することはできなかった。調査区内では東西6間・南北2間分の柱列を確認した。柱穴については、径0.26～0.51 mの円形を呈していた。柱痕跡及び根石については確認することができなかった。調査区外の南に延びていく、東西6間・南北2間以上の総柱建物になると思われるが、建物方向の揃った2棟である可能性もある。本稿では1棟として報告するが、周辺の調査の進捗を待ちたい。柱穴からの出土遺物については、室町期のものと考えられる土師器小皿片を確認した。

**S B 8939** 調査区内では東西3間・南北2間の柱列を確認した。調査区外の南に延びていく、東西3間、南北2間以上の掘立柱建物になるものと考えられる。柱穴については、径0.26～0.51 mの円形を呈していた。根石については一部の柱穴で確認することができた。柱穴の埋土からは、室町期のものと考えられる土師器小皿が出土した。

**S B 8940** 調査区内では東西3間の柱列を確認した。調査区外の南に延びていく、東西3間・南北1

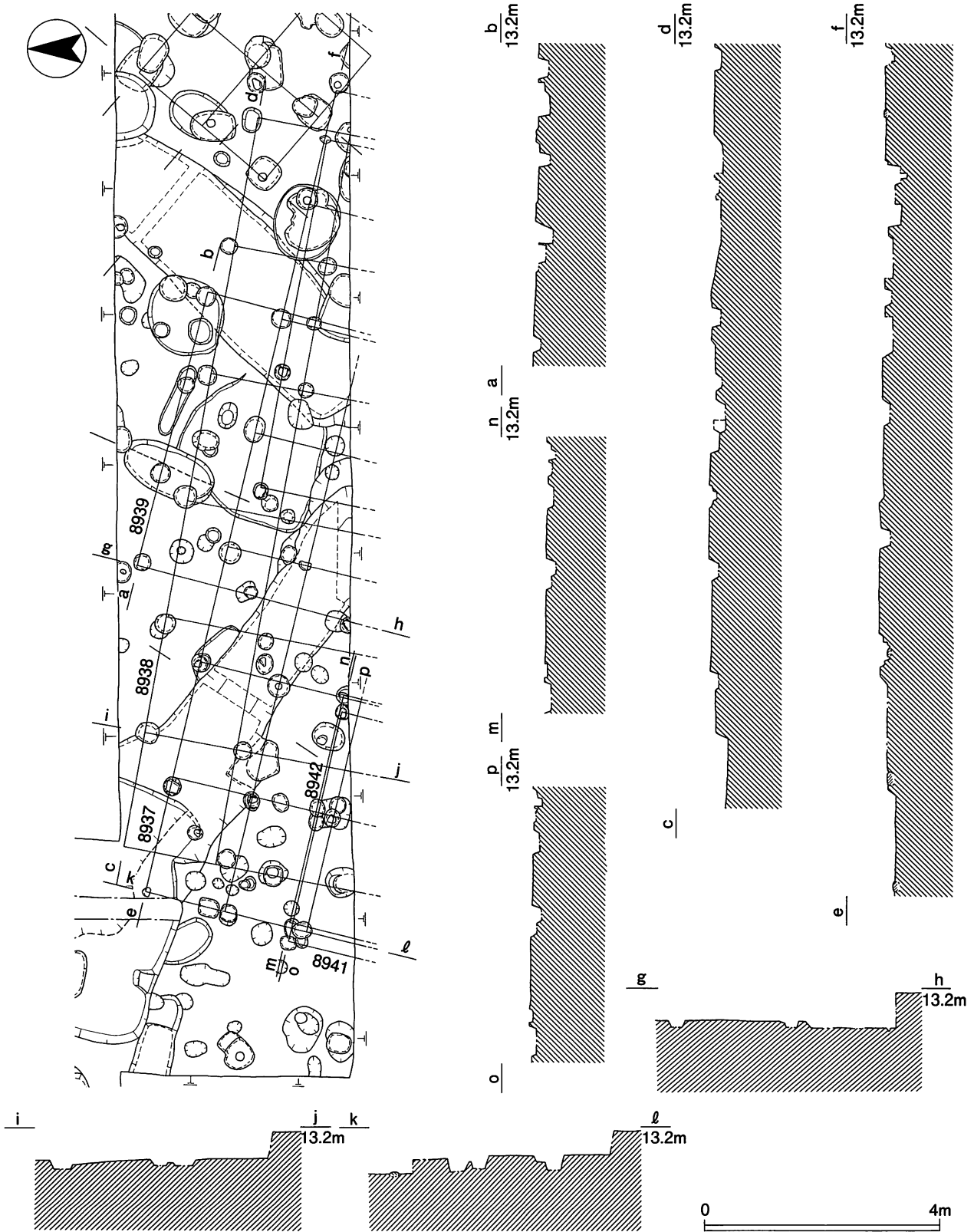


第Ⅲ-14図 第141次調査区 SF 8945 平面・断面図 (1:100)

間以上の掘立柱建物になると思われる。柱穴については、径0.20～0.28 mの円形を呈し、根石についても一部の柱穴で確認することができた。建物の全容については、周辺の調査の進捗を待ちたい。調査

区内の柱穴から遺物の出土がないため、所属時期の判断に苦しむが、柱穴の規模や形状、周辺の建物群との関係も踏まえ、中世以降の建物であろう。

**S B 8941** 調査区内では東西2間分の柱列を確認



第Ⅲ-15図 第141次調査区 S B 8937・8938・8939・8940・8941・8942 平面・断面図 (1:100)



通番遺構番号	性格	次数	調査時遺構名	地区	グリッド	時期	竊宮編年	遺構の性格・遺物・その他
S K 8870	土坑	141	土坑 43	H9	e25	奈良	I	弥生土器、土師器杯・甕が出土。
S D 8871	溝	141	溝 1	H9	w25	室町		土師器甕・皿・小皿、須恵器杯、陶器片が出土。
S D 8872	溝	141	溝 2	H9	v25	平安後	Ⅲ - 3	土師器皿・甕・台付皿か碗・小皿、須恵器台付杯が出土。
S D 8873	溝	141	溝 3	H9	x25	室町		土師器皿・甕、須恵器甕が出土。出土遺物の時期幅あり。
S D 8874	溝	141	溝 4	H9	w25	平安末～室町		土師器小皿・甕・南伊勢系皿、陶器片、山茶碗が出土。
S D 8567	溝	137	溝 5	H9・10	y22～y1	鎌倉		土師器甕が出土。出土遺物の時期幅あり。
S D 8875	溝	141	溝 6	H9	u25	室町		土師器甕・杯・南伊勢系皿、土錘、陶器片が出土。
S D 8876	溝	141	溝 7	H9	f23	室町		土師器甕・皿・南伊勢系小皿、須恵器小片が出土。
S D 8877	溝	141	溝 8	H9・10	y24～y1	中世?		遺物なし。
S D 8878	溝	141	溝 9	H9・10	y25～y1	中世?		遺物なし。
S D 8568	溝	137	溝 10	H9	y22	古代～鎌倉		山茶碗、陶器片が出土。
S D 8879	溝	141	溝 11	H9	y25～x25	奈良前～中	I - 2～3	土師器甕、須恵器壺・甕、弥生土器片が出土。西側道路側溝。
S X 8880	方形周溝墓	141	周溝墓 12	H9	q24～r24	弥生中期		弥生土器甕・壺が出土。
S K 8881	土坑	141	土坑 61	H9	y23～24	室町		土師器甕・甕、南伊勢系鍋、陶器が出土。
S K 8882	土坑	141	土坑 14	H9	q24	鎌倉		土師器皿、須恵器杯蓋、陶器片、山茶碗、南伊勢系皿・小皿が出土。
S K 8883	土坑	141	土坑 15	H9	q24	弥生中期		方形周溝墓の主体部?
S D 8887	溝	141	溝 19	H9	n23	鎌倉～室町		山茶碗 (6～7型式)、土師器 (南伊勢系) 鍋体部・皿・小皿が出土。
S D 8889	溝	141	溝 21	H9	m23	中世?		SH8892 を切る。掘削中に消滅。
S K 8890	土坑	141	土坑 22	H9	l23	奈良	I	弥生壺、土師器甕、須恵器杯が出土。
S D 8894	溝	141	溝 26	H9	i25・j25	奈良	I	土師器皿・甕が出土。
S D 8895	溝	141	溝 27	H9	e25～i25	奈良前～中	I - 2～3	土師器皿・甕、須恵器蓋が出土。
S D 8896	溝	141	溝 28	H9	g25	奈良	I	土師器杯小片、弥生小片が出土。
S K 8897	土坑	141	土坑 29	H9	e25	中世		土師器甕、陶器片が出土。
S D 8898	溝	141	溝 30	H9	l23	奈良	I	弥生小片、土師器甕が出土。
S K 8899	土坑	141	土坑 31	H9	o24	奈良	I	土師器甕・杯、弥生壺・甕が出土。
S D 8900	溝	141	溝 32	H9	j25	鎌倉～室町		土師器甕・皿、山茶碗 (6型式)、陶器片が出土。
S D 8901	溝	141	溝 33	H9	h25	中世?		SH8903・8917 を切る。調査中に消滅。
S D 8902	溝	141	溝 34	H9	h25	奈良前～中	I - 2～3	土師器杯・皿・高杯が出土。
S K 8904	土坑	141	土坑 36	H9	g25	奈良	I	土師器杯・甕が出土。調査中にSB8936 を構成する柱穴に。
S K 8905	土坑	141	土坑 37	H9	g25	奈良	I	土師器甕、須恵器小片が出土。調査中に消滅。
S D 8906	溝	141	溝 38	H9	f25	奈良	I	土師器甕が出土。調査中にSB8936 を構成する柱穴に。
S D 8907	溝	141	溝 39	H9	i25・g25	奈良前	I - 2	土師器皿・甕・鍋、弥生壺・甕が出土。S D 8906 と同一か。
S K 8908	土坑	141	土坑 40	H9	f25	奈良		S B 8935 を構成する柱穴に。
S K 8909	土坑	141	土坑 41	H9	e25	奈良中～後	I - 3～4	土師器鍋・杯、須恵器甕・杯蓋が出土。
S K 8910	土坑	141	土坑 42	H9	c25	奈良～鎌倉		土師器甕・皿、須恵器杯、山茶碗が出土。
S K 8911	土坑	141	土坑 43	H9	b25	平安後	Ⅲ - 3	土師器甕・杯、弥生甕・壺が出土。
S D 8912	溝	141	溝 44	H9	a25	奈良	I	土師器甕・皿が出土。
S D 8913	溝	141	溝 45	H9	a25	奈良	I - 2	土師器甕・杯・皿、須恵器台付杯・甕・杯蓋・壺が出土。調査中に消滅。
S D 8914	溝	141	溝 46	H9	x25	奈良	I - 2	土師器皿・甕、須恵器杯・甕が出土。調査中に消滅。
S D 8915	溝	141	溝 47	H9	x25	奈良	I - 2～3	土師器杯蓋・甕、須恵器甕体部片が出土。調査中に消滅。
S K 8916	土坑	141	土坑 48	H9	f25	奈良	I	弥生壺、土師器甕が出土。調査中にSB8936 を構成する柱穴に。
S D 8918	溝	141	溝 50	H9	i25	鎌倉		土師器甕・皿、山茶碗 (6～7型式) が出土。
S Z 8919	落ち込み	141	落ち込み 51	H9	b25	弥生中期～室町		土師器長胴甕・甕・杯蓋・杯・皿・鍋、須恵器甕・杯・壺・杯蓋が出土。複数の遺構の重複。出土遺物の時期幅あり。
S D 8921	溝	141	溝 53	G9	x25	中世?		遺物なし。
S D 8922	溝	141	溝 54	H9	a25・b25	奈良前～中	I - 2～3	土師器高杯、須恵器杯蓋が出土。
S D 8923	溝	141	溝 55	H9	i25	奈良	I	土師器甕・皿が出土。
S K 8924	土坑	141	土坑 56	H9	b25	奈良	I	土師器甕・杯が出土。
S K 8926	土坑	141	土坑 58	H9	j25	奈良	I - 2～3	土師器甕・皿が出土。
S K 8927	土坑	141	土坑 59	H9	b25	弥生		弥生土器甕が出土。
S D 8929	土坑	141	溝 13	H10	y1	奈良	I	遺物なし。東側道路側溝。
S K 8930	土坑	141	土坑 62	H9	x25	鎌倉		土師器皿・甕、山茶碗 (6型式) が出土。
S D 8943	溝	141	溝 78	G9	x25	不明		遺物なし。
S F 8945	道路	141		H9・10	x25～y25 y1	奈良	I - 2～3	S D 8879・8929 が側溝に相当。

第Ⅲ-1表 第141次調査区遺構一覧表

通番 遺構番号	調査時 番号	地区	グリッド	規模 (m)	建物方向	深さ (m)	柱穴	カマド	時期	竈宮編年	特記事項
				(東西×南北)	(北から)						
S H 8884	竪穴 16	H9	x25 ~ y25	4.08 × 4.90	N39.2° E	0.09 ~ 0.25	-	-	奈良前	I - 2	土師器甕・皿、弥生片、炭化物が出土。
S H 8885	竪穴 17	H9	u25 ~ v25	6.14 × 2.22+		0.16 ~ 0.26	-	-	弥生		弥生土器壺が出土。壁周溝検出。
S H 8886	竪穴 18	H9	s24 t23 ~ 24	4.68+ × 4.52+		0.01 ~ 0.19	-	-	弥生		壁周溝及び炉跡検出。
S H 8888	竪穴 20	H9	o23 ~ 24	4.36 × 3.8	N18.0° E	0.14 ~ 0.30	-	北	奈良前	I - 2	土師器甕・皿・高杯、須恵器杯蓋が出土。
S H 8891	竪穴 23	H9	n23 ~ o23	4.72 × 3.98	N18.0° E	0.19 ~ 0.26	-	-	奈良前	I - 2	土師器杯・皿・高杯・甕・甌、須恵器杯蓋・杯、弥生土器壺が出土。
S H 8892	竪穴 24	H9	m23	4.6+ × 3.95+		0.03 ~ 0.06	-	-	弥生		遺物少量。炉跡検出。混入遺物あり。
S H 8893	竪穴 25	H9	l23 ~ m23	2.24+ × 1.70+	N34.4° E	0.09 ~ 0.25	-	北東	奈良	I	土師器皿・甕、弥生土器壺・甕が出土。
S H 8903	竪穴 35	H9	h25	4.84 × 3.82+	N31.2° E	0.24 ~ 0.32	-	-	奈良前~中	I - 2~3	土師器甕・杯・鍋、須恵器高杯・甕、弥生土器片、土錘が出土。
S H 8917	竪穴 49	H9	g25	4.0+ × 1.65+		0.01 ~ 0.13	-	-	弥生中期		弥生土器壺、土師器杯・甕が出土。
S H 8920	竪穴 52	G9	x25	1.32+ × 2.80+	N21.0° E	0.18 ~ 0.22	-	-	奈良中~後	I - 3~4	弥生土器壺、土師器杯・甕が出土。
S H 8925	竪穴 57	H9	a25 ~ b25	3.14+ × 4.06	N16.3° E	0.20 ~ 0.22	-	南東	奈良前~中	I - 2~3	土師器杯・皿・甕・甌が出土。
S H 8928	竪穴 60	H9	a25	5.04 × 4.12+	N16.1° E	0.20 ~ 0.28	-	南東	奈良前	I - 2	土師器皿・杯・高杯・甕・甌・鍋、須恵器甕・杯が出土。
S H 8576	H9y22pit	H9	y22	3.00 × 3.00	N41.0° E	0.20 ~ 0.22	-	南?	奈良	I	第137次調査で検出。
S H 8944	-	H9	o23 ~ 24	×	-	-	-	○	奈良?		カマドのみ検出。S H 8888 と重複。

第Ⅲ-2表 第141次調査区竪穴住居一覧表

通番 遺構名	整理時 遺構名	地区	グリッド	ピット番号	ピット遺物の時期	建物 時期	規模 東西間(m)×南北間(m)	柱間 (東西-南北)	主軸	方位 (N基準)	備考	
SB8931	掘立柱建物 66	H9	t24	pit12	Ⅱの範疇	Ⅱ?	2(4.2)×2+(4.2)	2.1-2.1	南北	N34.5° E	SB8932より新しい。	
			t25	pit9								
			s24	pit2								
SB8932	掘立柱建物 67	H9	s24	pit4・5・7・10・11・14	pit14: Ⅰの範疇	Ⅰ	2(2.8)×2(2.8)	1.4-1.4			総柱建物	
SB8933	掘立柱建物 68	H9	n23	pit10	Ⅰの範疇	Ⅰ	2(2.8)×1+(1.4)	1.4-1.4				
			o23	pit3	Ⅰの範疇							
SB8934	掘立柱建物 69	H9	m23	pit2・8	Ⅰの範疇	Ⅰ	2(2.8)×*	1.4-*				
SB8935	掘立柱建物 70	H9	f25	pit7・10、SK8908	Ⅰの範疇	Ⅰ	3(5.4)×3(4.5)	1.8-1.5				
			h25	pit15・16・17	Ⅰの範疇							
SB8936	掘立柱建物 71	H9	f25	pit9・11、SK8916、SD8906	Ⅰの範疇	Ⅰ-2~3	3(4.8)×3(4.8)	1.6-1.6				総柱建物
			g25	pit11・17・19、SK8904	Ⅰ-2~3							
			h25	pit14	Ⅰの範疇							
SB8937	掘立柱建物 72	H9	p24	pit17		中世	7(14.0)×2+(2.8)	2.0-1.4	東西	N13.5° E	総柱建物	
			q24	pit5								
			r24	pit3	pit16: Ⅲの範疇							
			s24	pit12								
SB8938	掘立柱建物 73	H9	o24	pit21・24	pit21: 土師器小皿、室町	室町	6(12.6)×2+(3.4)	1.6-2.0-2.2	東西	N10.3° E	総柱建物	
			p24	pit3								
			q24	pit7・13	pit13: 土師器小皿、室町							
			r24	pit19	pit19: 土師器小皿、室町							
SB8939	掘立柱建物 74	H9	q24	pit8・10・15・17	pit17: 土師器小皿、室町	室町	3(4.8)×2+(3.6)	1.6-1.6・2.0	南北	N14.4° E	総柱建物	
SB8940	掘立柱建物 75	H9	r24	pit9	pit9: 土師器小皿	中世	4(8.0)×+*	2.0-*	東西	N11.0° E		
SB8941	掘立柱建物 76	H9	o24	pit25		中世	2(4.0)×+*	2.0-*	東西	N13.5° E		
SB8942	掘立柱建物 77	H9	p24	pit15・19		中世	2(4.0)×+*	2.0-*	東西	N13.5° E		
SB8946	掘立柱建物 65	H9	u25	pit2・4		Ⅲ	2(4.6)×1+(2.3)	2.3-2.3	南北	N13.9° E	総柱建物	
			v25	pit5・6	pit6: ロク口製土師器碗、Ⅲ期							

第Ⅲ-3表 第141次調査区掘立柱建物一覧表

した。調査区外の南に延びていく、東西2間・南北1間以上の掘立柱建物になると思われる。柱穴については、径0.20～0.28mの円形を呈していた。根石については一部の柱穴で確認することができた。建物の全容については、周辺の面的調査の成果を待ちたいと思う。調査区内の柱穴から遺物の出土がないため、所属時期の判断に苦しむが、柱穴の規模や形状、周辺の建物群との関係も踏まえ、中世以降の建物と思われる。

**S B 8942** 調査区内では東西2間分の柱列を確認した。柱穴については、径0.20～0.28mの円形を呈していた。調査区外の南に延びていく、東西2間・南北1間以上の掘立柱建物になると思われる。建物の全容については、周辺の調査の進捗を待ちたいと思う。調査区内の柱穴から遺物の出土がないため、所属時期の判断に苦しむが、柱穴の規模や形状、周辺の建物群との関係も踏まえ、中世以降の建物と考えたい。

## 4 遺物

第141次調査区からの出土遺物は、整理箱に換算して約70箱である。内訳は大部分が土器類で、石器、金属製品が少量出土している。

ここでは、主だった遺物について、斎宮分類・編年及び平城・長岡・平安京における編年を参照している<sup>2)</sup>。

**S H 8885 出土遺物 (1)** 底部にまでミガキがみられる弥生土器壺か。弥生時代中期に属するものであろう。

**S H 8917 出土遺物 (2)** 頸部には櫛状工具による直線文、体部上半には流水状の文様が施されている弥生土器壺である。伊勢Ⅲ様式前半<sup>3)</sup>に属するものと考えられる。

**S H 8917 出土遺物 (3)** 口縁部直下から頸部上半にかけて、櫛状工具による直線文が施されている弥生土器壺である。伊勢Ⅱ様式に比定できよう。

**S H 8888 出土遺物 (4～7)** 4は土師器杯Gである。口縁部がやや内弯気味のものである。5は土師器皿B。器面の残存が良好でないため調整は判然としない。6は土師器甕A。口縁端部に面がみられる。小形甕である。7は須恵器杯蓋である。口縁部

に小さいカエリがみられる。これらは、斎宮Ⅰ-2段階に相当するものと考えられる。

**S H 8891 出土遺物 (8～14)** 8は底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がる土師器杯G。9は土師器皿B。器面の残存が良好でないため調整は判然としない。10は口縁端部に面取りがみられる土師器甕Aである。11は土師器甕の体部下半から底部にかけてのものである。12は口縁端部が直立気味の須恵器杯蓋である。13は須恵器杯G。底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がる。在地系のものと考えられる。14は高台の付く須恵器壺Kの底部片である。これらは、斎宮Ⅰ-2段階に比定できよう。

**S H 8892 出土遺物 (15)** 底部がやや丸みをもち、口縁端部がやや外反する須恵器杯Aである。斎宮Ⅰ-2～3段階のものと思われる。混入遺物である。

**S H 8903 出土遺物 (16～21)** 16は土師器杯G。口縁部がやや内弯気味のものである。17は土師器甕Cか。口縁部が大きく外反し、端部には面がみられる。18は口縁端部に面取りがみられる土師器鍋Aと考えられる。19は口縁端部が少し外反し、底部から口縁部にかけてやや丸みのある須恵器杯である。これらは、斎宮Ⅰ-2～3段階に相当しよう。20は球形の土玉である。21は円筒状の土製土錘である。

**S H 8925 出土遺物 (22～26)** 22は口縁部が外傾気味の土師器皿Aである。23は底部から口縁部にかけてがやや内弯気味の土師器杯Gである。24は口縁部が大きく外反し体部が丸く張り出す小形の土師器甕Aである。これらは、斎宮Ⅰ-2段階に比定できよう。25は口縁部にカエリがみられる須恵器杯蓋。美濃須衛窯産か。26は須恵器平瓶である。丸みを帯びた体部から斜め上方に口縁部が外反気味に斜位に延びる。風船技法により製作されたものである<sup>4)</sup>。これらは7世紀末のものと思われる。

**S H 8928 出土遺物 (27・28)** 27は土師器皿の底部であろうか。底部外面に線刻がみられるが小片であるため全容は不明である。28は口縁部から体部上半にかけて直線的な土師器甕である。これらは、斎宮Ⅰ-2段階のものと思われる。

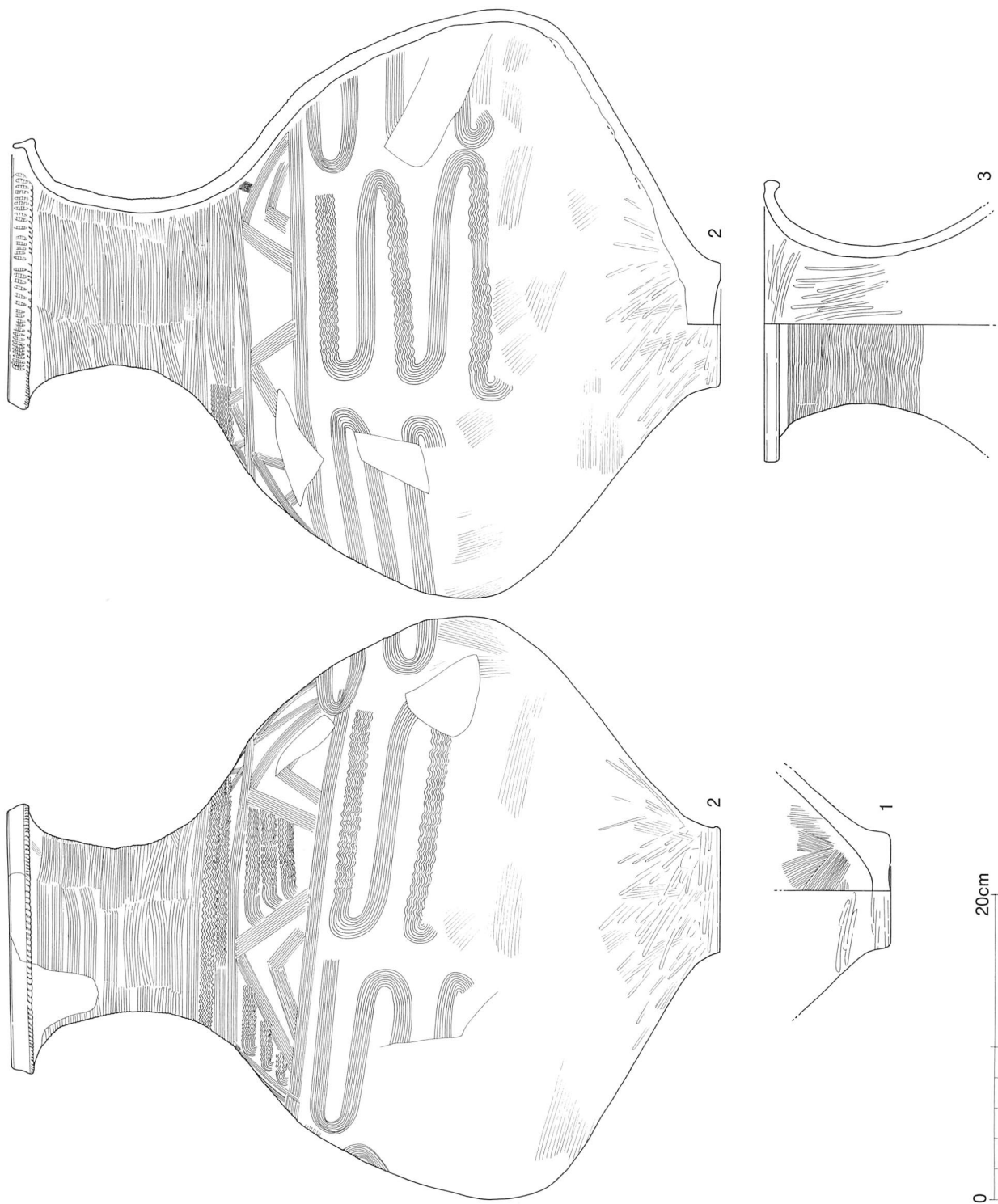
**S H 8920 出土遺物 (29・30)** 29は底部から口縁部が内弯気味にたちあがる土師器杯Gである。30は小形の土師器甕Aである。口縁部の屈曲はそれほ

ど強くない。これらは、斎宮 I - 3 ~ 4 段階に相当しよう。

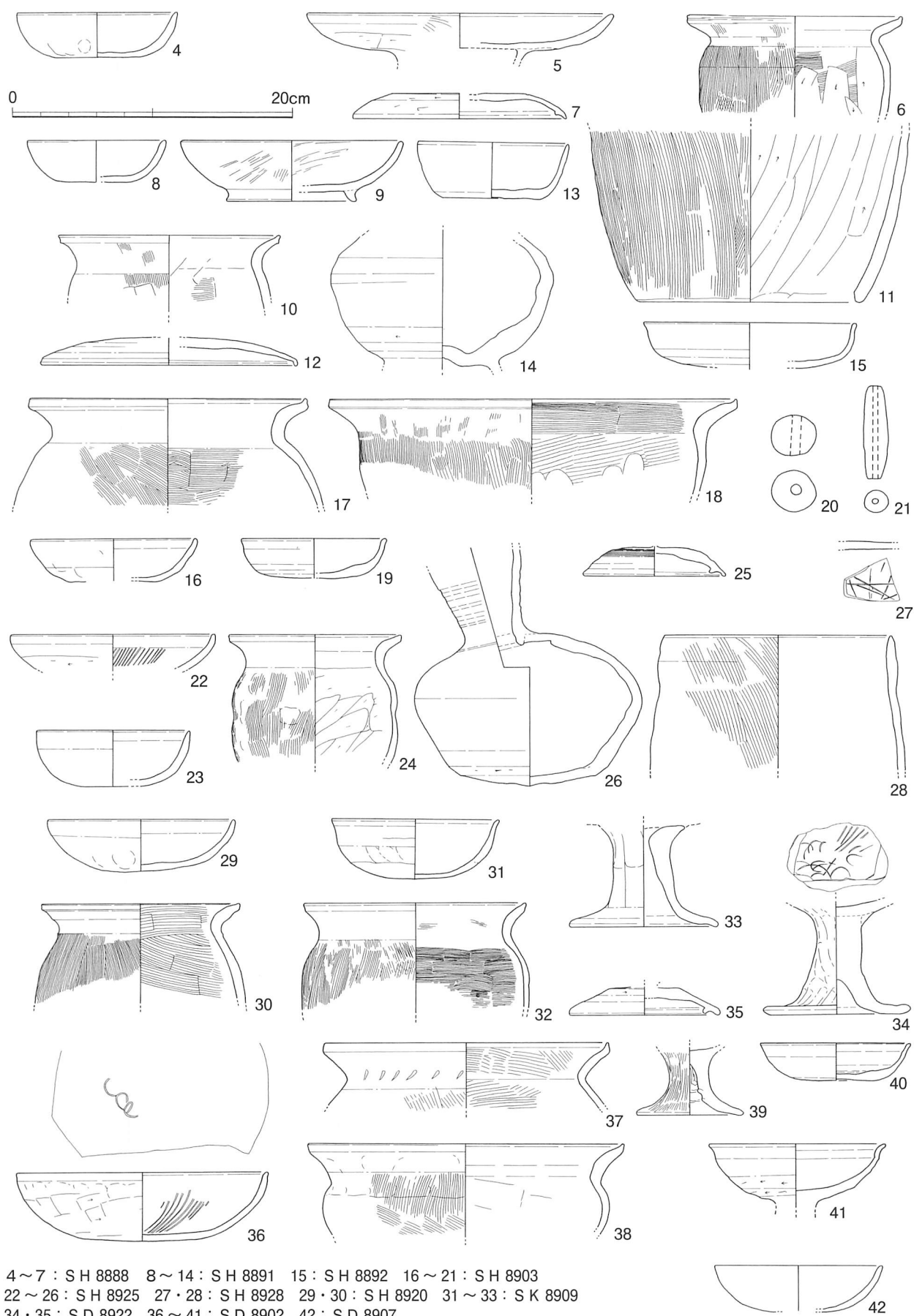
**S K 8909 出土遺物 (31 ~ 33)** 31 は底部から口縁部にかけてが内弯気味にたちあがる土師器杯 G である。32 は小形の土師器甕 A である。口縁部の屈曲はそれほど強くない。33 は土師器高杯の脚部である。脚内は中空で、裾部は水平に延びる。これら

は、斎宮 I - 3 ~ 4 段階に比定できよう。

**S D 8922 出土遺物 (34・35)** 34 は高杯脚部である。脚内は中空で、裾部は水平に延び、端部は上方に若干反る。杯部の内面には放射状暗文と螺旋状暗文が施されている。35 は口縁部にカエリがみられる須恵器杯蓋。これらは、斎宮 I - 2 ~ 3 段階に比定できよう。

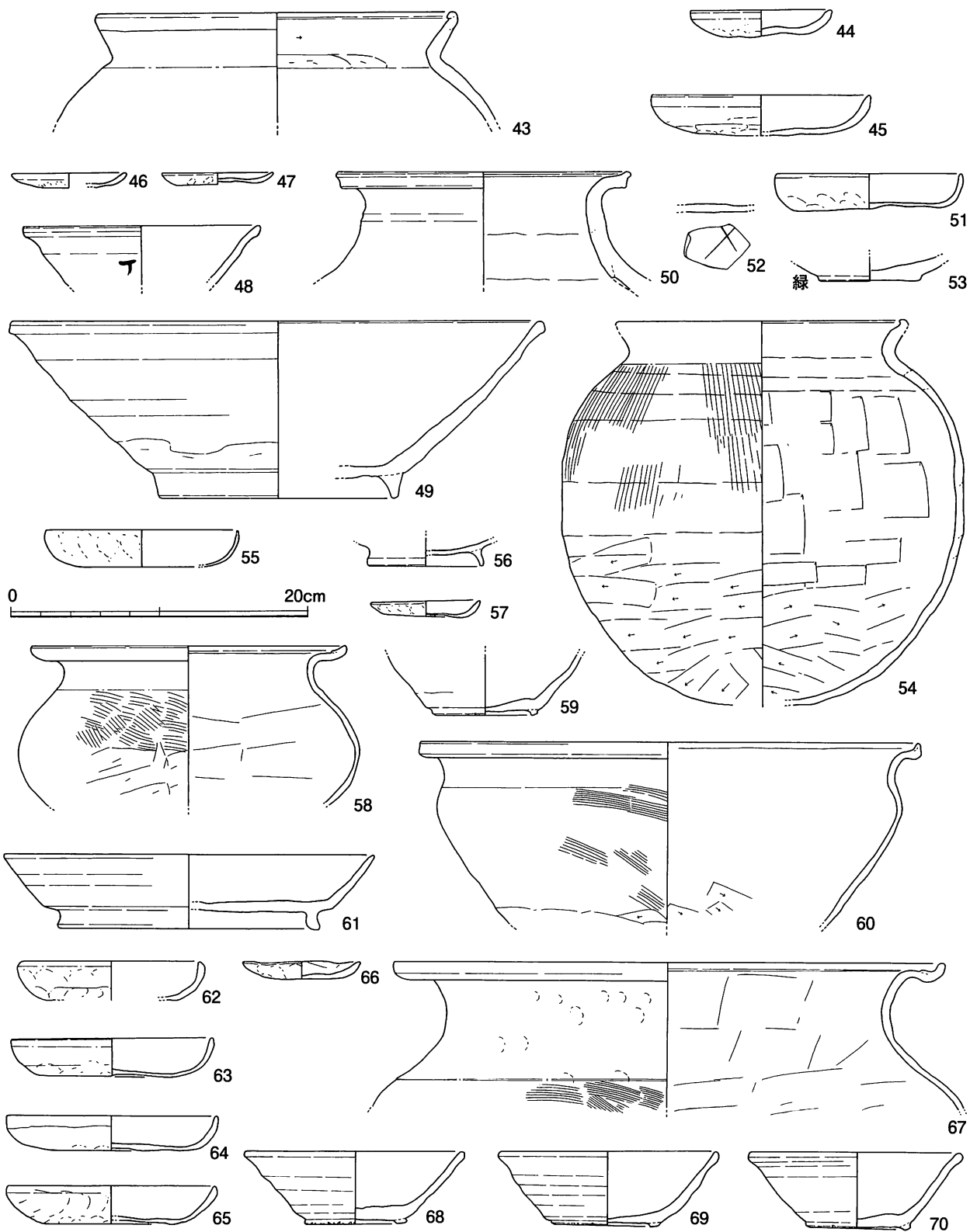


第Ⅲ-16図 第141次調査区 出土遺物実測図(1) (1:4)



第Ⅲ - 17 図 第 1 4 1 次調査区 出土遺物実測図 (2) (1 : 4)





43 : S K 8911 44 : S D 8872 45 : S B 8938 46 ~ 50 : S K 8882 51 ~ 54 : S D 8567  
 55 ~ 56 : S D 8873 57 ~ 59 : S D 8874 60 : S D 8875 61 ~ 70 : S D 8887

S D 8902 出土遺物 (36～41) 36は土師器杯Cである。器面の残りは良好でないが、口縁部直下の外面にケズリ、内面の底部近くにミガキがみられる。37は口縁部が外反し、端部には面取りがみられる土師器甕Cであろうか。38は土師器甕A。口縁部が若干外傾気味で、体部が球形になるものである。39は高杯脚部である。脚内は中空で、裾部は徐々に広がっていくものである。外面にはハケメが施されている。40は須恵器杯Gである。41は口縁部が外反する須恵器高杯杯部である。これらは、斎宮Ⅰ～Ⅱ～Ⅲ段階の範疇と考えられるが、41は時期が遡るものか。

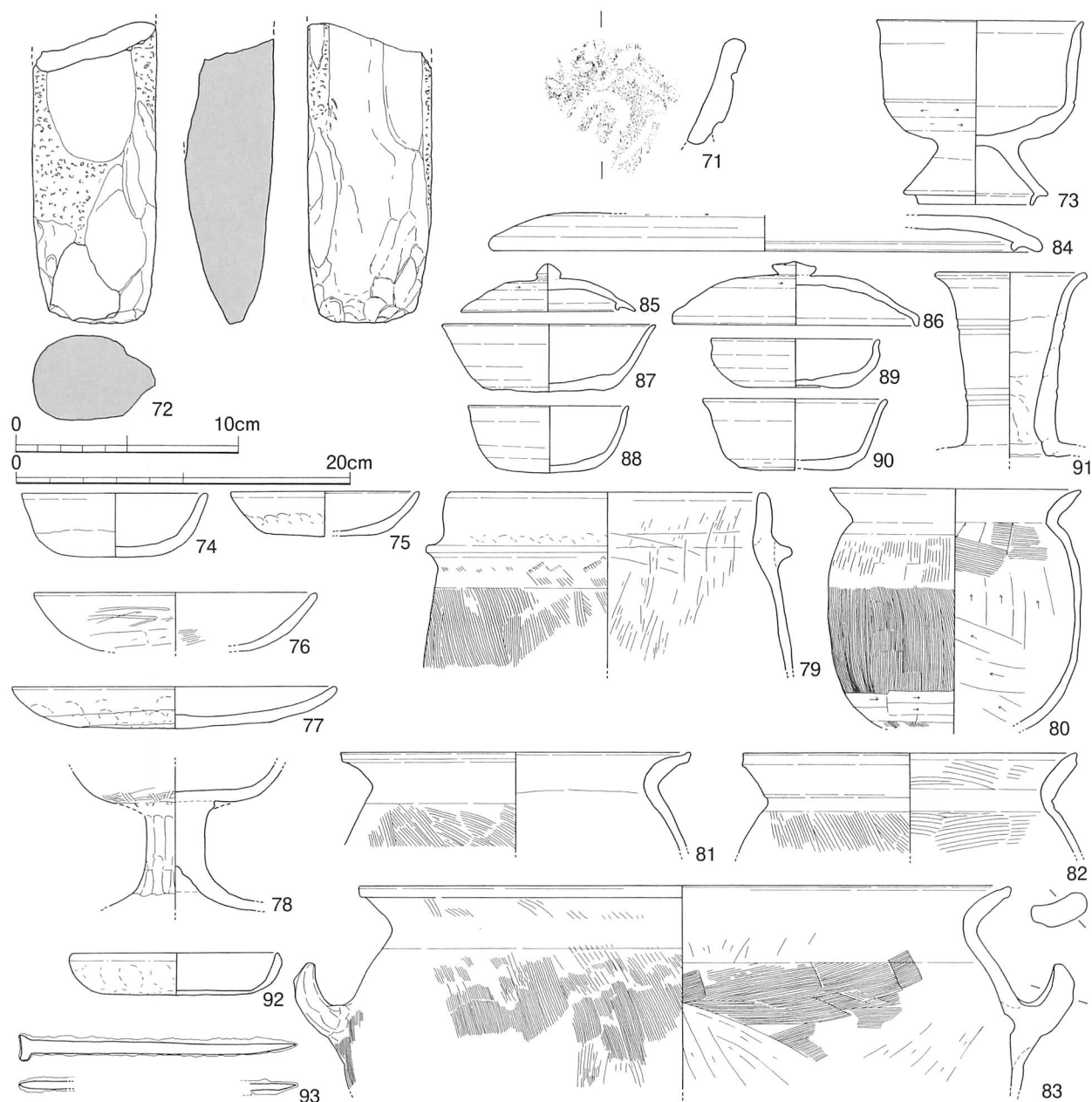
S D 8907 出土遺物 (42) 口縁部が外傾気味の土師器杯Gである。斎宮Ⅰ～Ⅱ段階に相当するものであるであろう。

S K 8911 出土遺物 (43) 口縁端部が内側に巻き込むように肥厚している土師器甕である。斎宮Ⅲ～Ⅳ段階に比定できよう。

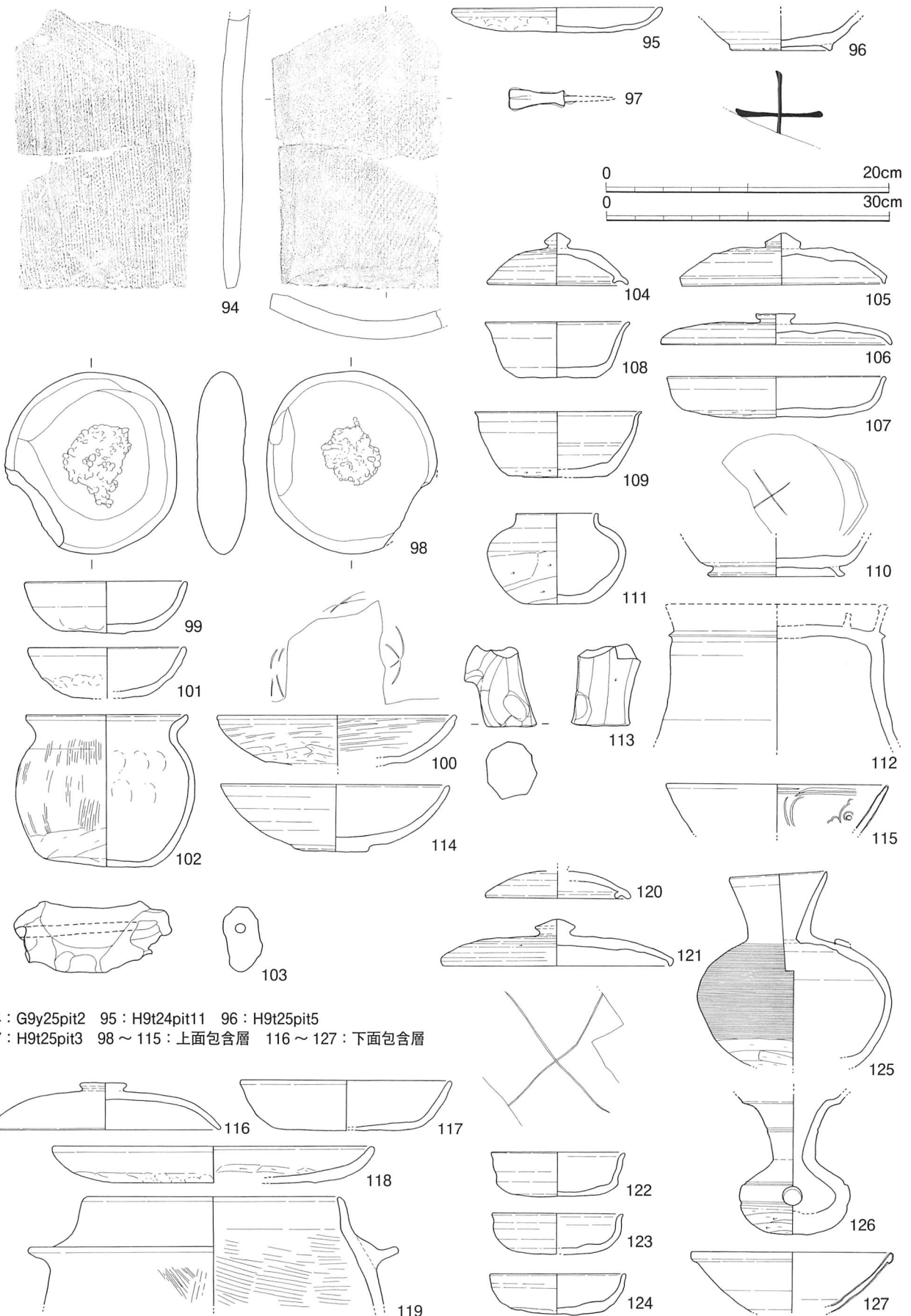
S D 8872 出土遺物 (44) 粗製の土師器皿である。斎宮Ⅲ～Ⅳ段階のものと思われる。

S B 8938 出土遺物 (45) 口縁部ヨコナデの粗製の土師器皿である。斎宮Ⅲ～Ⅳ段階に属するものと考えられる。遺構の時期より遡るものである。

S K 8882 出土遺物 (46～49) 46・47は底部か



第Ⅲ-19図 第141次調査区 出土遺物実測図(4) (1:4、71は1:3、S Z 8919出土)



第三 - 20 図 第 1 4 1 次調査区 出土遺物実測図 (5) (1 : 4、94 は 1 : 6)

ら口縁部にかけて直線的に外反する薄手の土師器皿である。48は底部から口縁部にかけて直線的に外反する通称「山茶椀」といわれている陶器椀である。藤澤編年6型式に<sup>5)</sup>相当しよう。49は陶器練鉢である。これらは、概ね13世紀前半に属するものと考えられる。50は常滑産壺の口縁部付近のものである。時期は若干遡るものか。

**S D 8567 出土遺物 (51～54)** 51は底部から口縁部にかけて内弯している土師器皿である。器壁が非常に薄いものである。伊藤編年Ⅱb期<sup>6)</sup>に相当しよう。52は底部外面に線刻がみられる土師器皿である。斎宮Ⅰ期の範疇のものであろう。53は緑釉陶器の底部片である。皿の類か。斎宮Ⅱ期に属するものと考えられる。54は口縁端部が内側に巻き込むように肥厚している土師器甕である。斎宮Ⅲ-3段階に相当するものか。

**S D 8873 出土遺物 (55・56)** 55は底部から口縁部にかけて内弯している土師器皿である。器壁が非常に薄い。伊藤編年Ⅲa期に属するものであろう。56は黒色土器椀の底部で、高台部分が残存している。斎宮Ⅲ-1段階に相当しよう。

**S D 8874 出土遺物 (57～59)** 57は底部から口縁部にかけて直線的に外反する薄手の土師器皿である。13世紀前半のものと思われる。58は口縁部から頸部にかけて大きく屈曲する南伊勢系土師器鍋である。伊藤編年第1段階<sup>7)</sup>に属するものと考えられる。59は「山茶椀」といわれている陶器椀である。藤澤編年6～7型式に相当しよう。

**S D 8875 出土遺物 (60)** 口縁部が大きく屈曲し、口縁端部が上方に延びる薄手の南伊勢系土師器鍋である。伊藤編年第4段階に属するものと思われる。

**S D 8887 出土遺物 (61～70)** 61は底部から口縁部にかけて直線的に外傾する須恵器皿Bである。斎宮Ⅰ期1～2段階に相当するものと考えられる。62～65は底部から口縁部にかけて内弯している土師器皿である。器壁が非常に薄いものである。伊藤編年Ⅱb期に相当しよう。66は底部から口縁部にかけて直線的に外反する薄手の土師器皿である。13世紀代のものか。67は口縁部から頸部にかけて大きく屈曲する大形の南伊勢系土師器鍋である。伊藤編年第1段階に属するものと思われる。68～70は底部か

ら口縁部にかけて直線的に外反する陶器椀で、通称「山茶椀」である。藤澤編年6型式に相当しよう。

**S Z 8919 出土遺物 (71～93)** 先述のように、この遺構については、複数遺構の重複であり、したがって出土遺物の時期もかなりの時期幅がみられる。71は縄文土器の波状口縁の波頂部分である。外面には沈線文が施されている。中津式期の範疇であろう。72は磨製石斧。刃部のみ磨かれている。材質は、ハイアロクラストイトと思われる。弥生時代に属するものと考えられる。73は須恵器高杯である。脚部の端部には、杯蓋のようなカエリがみられる。在地系のものか。7世紀前半のものであろう。74は底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がる土師器杯Gである。75・76は土師器杯Aである。ともに器面の残存が良好ではないが、76については、土器外面にミガキ、土器内面には暗文が一部で確認できる。77は口縁部が外傾する土師器高杯の杯部か。78は面取りされた脚部をもつ土師器高杯の脚部である。脚内は中実で、裾部は水平に延びるものか。79は鏝付円筒形土器である。80は口縁部が外反し丸底の小形の土師器甕Aである。81・82は大形の土師器甕C。口縁部が屈曲し、端部に面がみられる。83は土師器鍋Bである。把手が2ヶ所残存している。84は須恵器杯蓋である。85は須恵器杯蓋。天井部には高いツマミがみられ、口縁端部のカエリは低く内折する。86は須恵器杯蓋。天井部には扁平なツマミがみられ、口縁端部のカエリは直立する。87は底部から口縁部にかけて直線的に外反する須恵器杯Aである。88～90は底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がり、口縁端部が若干外反する須恵器杯Gである。91は須恵器長頸壺である。在地系のものか。体部から直線的に立ち上がり口縁端部付近で外反する。これらは斎宮Ⅰ期1～2段階の範疇のものと考えられる。92は底部から口縁部にかけて内弯している土師器皿である。器壁が非常に薄いものである。伊藤編年Ⅱa期に相当しよう。93は釘である。

**柱穴出土遺物 (94～97)** 94は平瓦である。古代のものと考えられる。95は底部から口縁部にかけて外傾する土師器皿Aである。斎宮Ⅱ-1段階に属するものと思われる。96は通称「山茶椀」といわれている陶器椀である。藤澤編年5～6型式に相当

しよう。底部外面には「+」の墨書がみられる。97は鉄鏝である。

**上面包含層出土遺物 (98～114)** 第1検出面を検出するまでに出土した遺物である。98は円形の扁平な敲石である。石材は砂岩系のものと考えられる。縄文時代に属するものか。99は底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がる土師器杯Gである。100は口縁部が外傾する土師器杯Aである。内面には暗文、外面はミガキがみられる。これらは、斎宮Ⅰ-2段階のものと考えられる。101は土師器杯である。102は口縁部が外反し底部が平になる小形の土師器甕Aである。これらは斎宮Ⅱ期1～2段階に比定できよう。103は不明土製品である。土馬の胴部である可能性がある。古代のものと思われる。104は須恵器杯蓋。天井部には高いツマミがみられ、口縁端部のカエリは低く内折する。105は須恵器杯蓋である。天井部には扁平なツマミがみられ、口縁端部のカエリは直立する。106は須恵器杯蓋。天井部には扁平なツマミがみられ、口縁端部のカエリは直線的に外反する。器高が低い。107は口縁部が外傾する須恵器皿である。尾北産と考えられる。108は底部から口縁部に向かい直線的に立ち上がり、口縁端部が若干外反する須恵器杯である。109は底部から口縁部に向かい内弯しながら立ち上がり、口縁端部が若干外反する須恵器杯である。金属器の写しと考えられる。110は須恵器杯Bである。底部内面に「×」の線刻が施されている。111は口縁部が短く直立する須恵器短頸壺である。112は脚が高い円面硯である。これらは7世紀後半のものと考えられる。113は須恵器薬壺の脚部である。8世紀代のものか。114はロクロ製土師器碗である。斎宮Ⅲ-3段階に属するものと考えられる。115は青磁碗である。龍泉窯産のものと考えられる<sup>8)</sup>。

**下面包含層出土遺物 (116～127)** 第2検出面を検出するまでに出土した遺物である。116は土師器杯蓋である。天井部には扁平なツマミがみられる。117は土師器杯Aである。118は口縁部が外傾する土師器皿Aである。内面、外面ともケズリがみられる。これらは、斎宮Ⅰ-2～3段階のものと考えられる。119は鍔付円筒形土器である。斎宮Ⅰ-1段階に比定できよう。120は須恵器杯蓋。口縁端部

のカエリは低く内折する。121は須恵器杯蓋。天井部には高いツマミがみられ、口縁端部のカエリは直立する。内面には「×」の線刻がみられる。122～124は底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がり、口縁端部が少し外反する須恵器杯Gである。125は須恵器平瓶である。これらは7世紀後半から末にかけてのものと考えられる。126は須恵器甕である。これらは6世紀末のものと考えられる。在地産のものか。127は玉縁で底部付近から口縁にかけて丸みを帯びつつ外傾する白磁碗である。大宰府陶磁器分類のⅣ類<sup>9)</sup>に相当しよう。

## 5 まとめと検討

ここでは、主な遺構及び遺物について述べ、まとめとしたい。

### (1) 遺構・遺物の検出状況

弥生時代から中世の遺構を確認することができた。弥生時代のものとしては、竪穴住居4棟・方形周溝墓1基などを、奈良時代のものとしては、掘立柱建物5棟・竪穴住居9棟・土坑11基・道路遺構などを、平安時代のものとしては、掘立柱建物1棟などを、中世のものとしては掘立柱建物6棟などを確認することができた。遺物については、縄文土器、弥生土器をはじめ、奈良時代から中世までの土師器類、須恵器類、緑釉陶器、土馬や金属製品などの出土を確認した。

### (2) 道路遺構 S F 8945 の検討

今回の調査区の東端で、S D 8879・8929を確認することができた。

S D 8879は、今回の調査区より約150m北東で第2次調査(古里A遺跡・1971年度調査)で検出された溝と調査区の約30m南で行われた第30次調査(1980年度調査)で検出されたS D 1622とつながるものと考えられる。また、S D 8929は、今回の調査区の約30m南で行われた第30次調査において検出されたS D 1635と今回の調査区から約80m南で行われた第132次調査(2001年度調査)で検出されたS D 8346とつながるものと考えられる。なお、この2条の溝は平行でもある。これらのことから、この2条の溝は道路側溝と考えられる。この側溝の間が道路遺構ということになろう。第30次

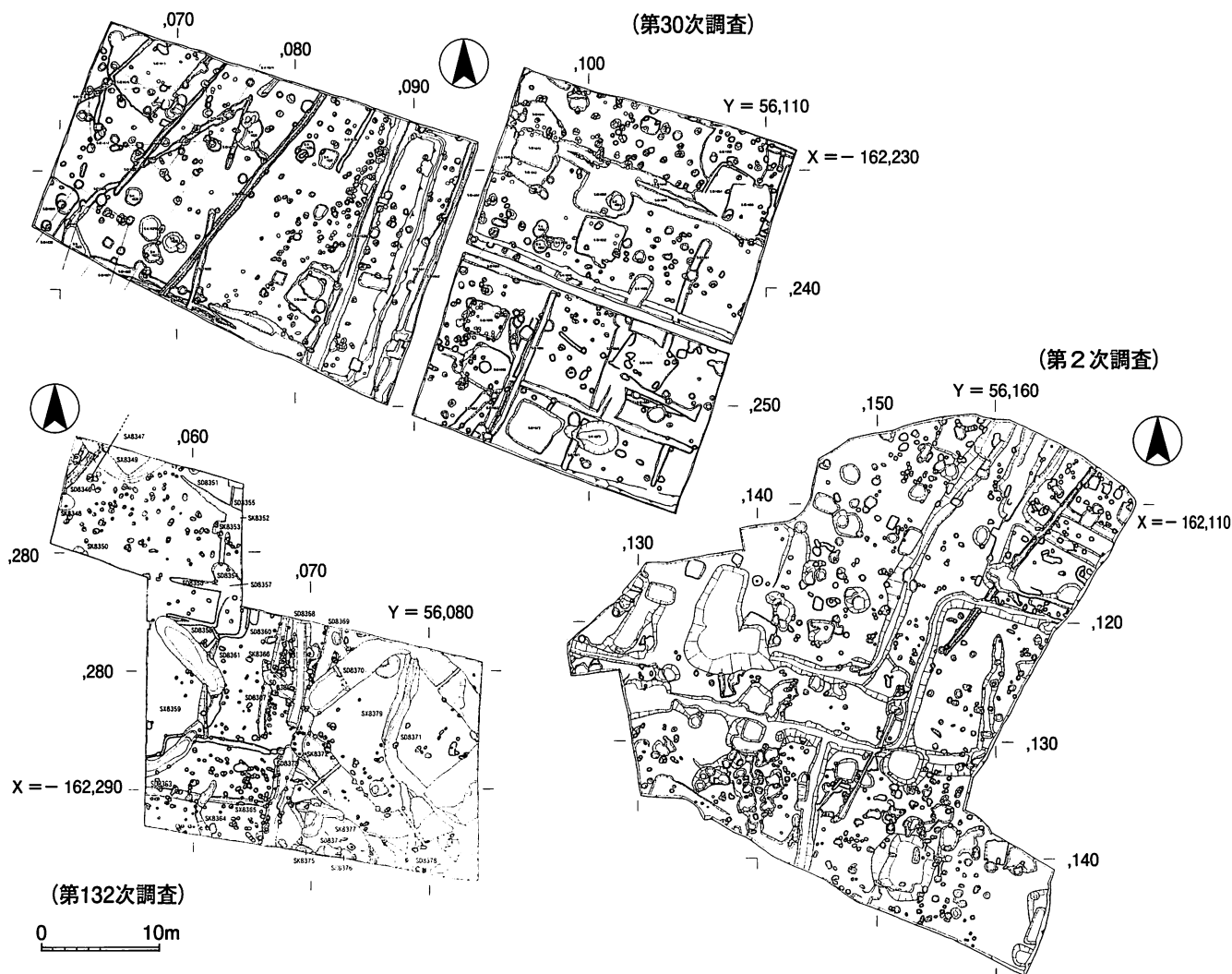


調査では溝中心で8.2 m、第141次調査では溝中心で8.1 mであった。古代官道である通称奈良古道の幅員は9 mであるので、規模的には若干小さくなる。

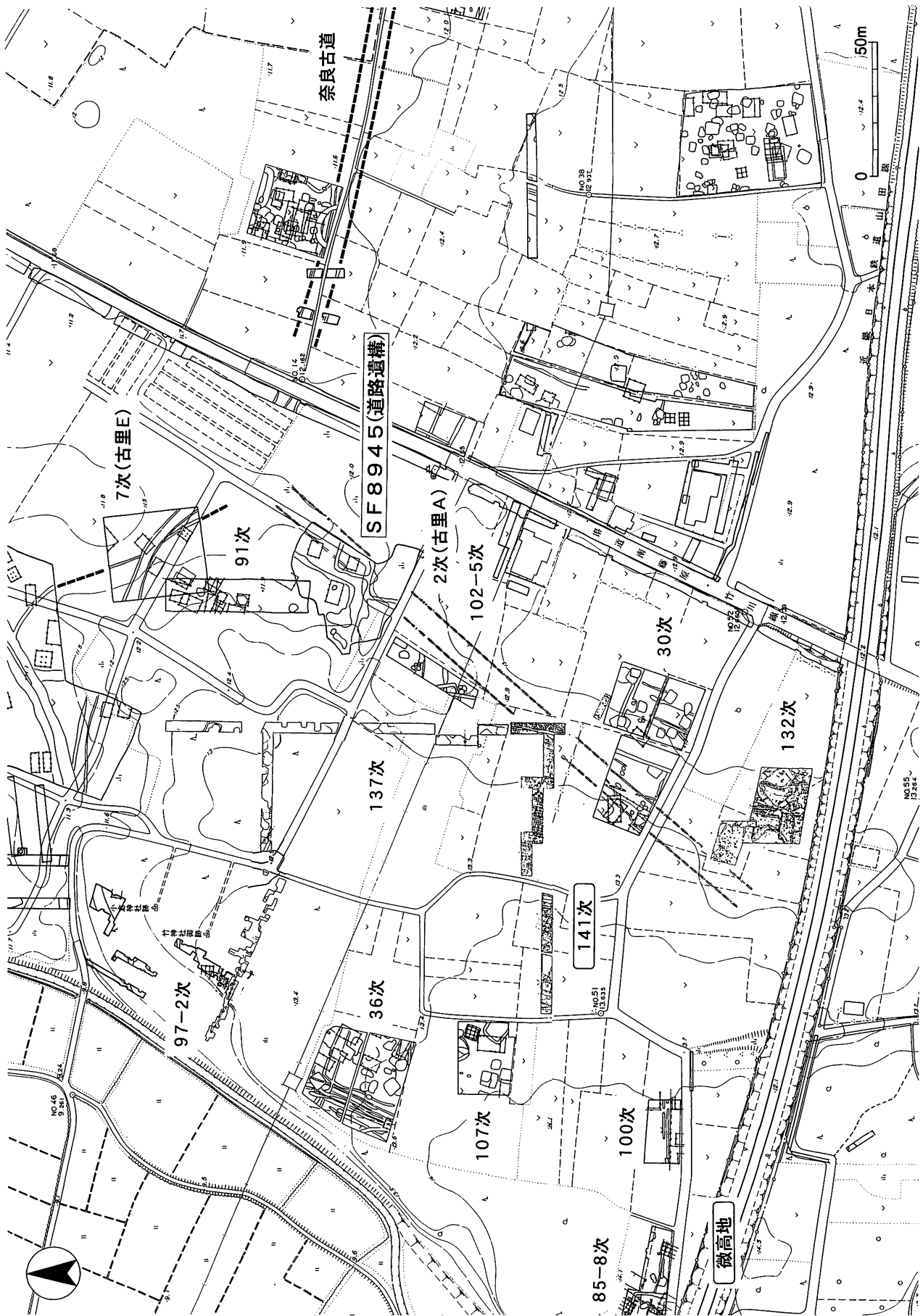
この2条の溝は一部分で遺構の深い浅いはあるものの、これまでの調査成果から約200 mは平行に直線的に伸びていることが想定できる。この想定南の延長線上には、近鉄の線路の南側で行われた第70-6次調査区がある。調査区内ではこのような溝は検出されておらず、その部分までは到達しないことがいえよう。また、想定北の延長線上には古代官道である通称奈良古道と交差する部分がある。古代官道の北側で行われた第76-15次調査区でも溝は検出されていないため、その部分までは到達しないことがいえよう。古代官道との交差点は調査が行われていないので、現時点では断定できないが、SF 8945と古代官道が合流する可能性も考えられる。

道路側溝から出土した遺物の所属時期については、SD 8346は奈良時代前期、SD 1622・1635は奈良時代、という調査成果を得ている。SD 8929からは遺物の出土は確認できなかったが、SD 8879からは斎宮I-2~3段階に属すると考えられる土師器小片の出土を確認できた。これらのことから、この道路側溝は奈良時代に属するものと考えられ、これまでの調査成果から斎宮I-3段階までは側溝が機能していた可能性がある。

道路側溝と想定しているものの方向はN 40° Eで、これは斎宮跡が立地する台地の縁辺の方向あるいは若干低くなる谷地形に沿ったものと考えられる。また、この方向にほぼ合致する掘立柱建物群も存在している。これらは字でいうところの古里・中垣内に集中していることが、これまでの調査の成果から判明している。また、道路の西側が微高地であ



第Ⅲ-21 図 道路側溝検出状況 (1 : 600)



第三 - 22 図 道路跡想定図 (1 : 2,000)

No	出土遺構	器種	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録No	
1	H9a25 SH8885	弥生土器壺	底径	7.0 ~ 7.5	外：ナデ→ミガキ→ナデ、内：ハケメ10本/cm	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	底完存	外面にスス付着	023-04
2	H9a25 SH8917	弥生土器壺	口径器高	17.5 46.3	口：一部キザミ、外：撥描文・ハケメ・ミガキ、内：ナデ	密	並	橙 7.5YR6/6、にぶい橙 7.5YR6/4、にぶい橙 7.5YR5/3	口4/12 底完存		032-01
3	G9a25 SK8927	弥生土器壺	口径	18.1	口：ヨコナデ、外：クシ描4段16本/2.4cm→ナデ、内：ミガキ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6/4	口4/12		031-01
4	H9a23 SH8888	土師器杯G	口径器高	11.5 3.2	口：ナデ、外：ナデ・オサエ、内：ナデ・オサエ	やや密	良	外：灰白2.5Y8/2、内：にぶい黄橙 10YR7/3	口3/12		020-04
5	H9a24 g23 g24 SH8888	土師器皿B	口径	21.9	口：ヨコナデ、外：ナデ→ケズリ→ナデ、内：ナデ	密	良	外：にぶい橙 7.5YR7/4、内：にぶい橙 7.5YR6/4	口2/12	内面にスス付着	022-03
6	H9a23 SH8888	土師器壺A	口径	15.25	口：ヨコナデ、外：ヨコナデ→ハケメ7本/cm、内：ハケ後ケズリ	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/3	口2/12		023-03
7	H9a23 SH8888	須恵器杯蓋	口径	14.4	口：ロクロナデ、外：ロクロケズリ、内：ロクロナデ	密	良	灰7.5Y6/1	3/12		026-02
8	H9a23 SH8891	土師器杯G	口径器高	10.0 2.95	口：ヨコナデ、外：ナデ、内：ナデ	やや密	良	橙 5YR7/6	口1/12		007-03
9	H9a23 SH8891	土師器皿B	口径器高	15.9 4.3	口：ミガキ？、外：ミガキ？・ハケ残る→貼付ナデ→ナデ？、内：ミガキ？	やや密	良	橙 5YR6/6	口1/12 台5/12		008-05
10	H9a23 SH8891	土師器壺A	口径	15.8	口：ヨコナデ、外：ハケメ10本/cm後ケズリ、内：工具ナデ？	やや密	良	橙 7.5YR7/6	口3/12	内面に炭化物付着	007-02
11	H9a23 SH8891	土師器皿	底径	16.0	外：ケズリ後ハケメ6~7本/cm→ナデ、内：ケズリ	密	良	にぶい橙 10YR7/4	底4/12		007-01
12	H9a23 SH8891	須恵器杯蓋	口径	18.4	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付ナデ、内：ロクロナデ	密	良	外：灰白7.5Y7/1、内：灰黄 2.5Y6/2	口1/12		002-04
13	H9a23 SH8891	須恵器杯G	口径器高	10.9 4.0	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ヘラおこし、内：ロクロナデ	密	良	灰白N7/0	口1/12以下		006-02
14	H9a23 SH8891	須恵器壺	胴径	16.0	外：ロクロナデ→ロクロケズリ→ロクロナデ、内：ロクロナデ	密	良	灰N5/0・灰白N7/0	胴部のみ		006-03
15	H9a23 SH8892	須恵器杯A	口径	15.1	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ロクロケズリ、内：ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	口9/12		015-04
16	H9a25 SH8903	土師器杯G	口径	12.0	口：ヨコナデ、外：ナデ・オサエ、内：ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口3/12		020-02
17	H9a25 SH8903	土師器壺C	口径	20.0	口：ヨコナデ、外：ハケメ9本/cm、内：ハケメ8本/cm	やや密	良	橙 7.5YR7/6	口4/12		017-01
18	H9a25 SH8903	土師器鍋A	口径	29.1	口：ヨコナデ、外：ハケ後ナデ・ハケメ7本/cm・5本/cm、内：ハケメ7本/cm・5本/cm	やや密	良	外：浅黄橙 10YR8/3、内：にぶい黄橙 10YR6/3	口2/12	口縁にスス付着	022-01
19	H9a25 SH8903	須恵器杯	口径器高	10.4 2.8	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ヘラ切り後ナデ、内：ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y8/1	口1/12		016-07
20	H9a25 SH8903	土玉	最大長 最大幅	2.8 3.2	ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4・橙 7.5YR7/6	ほぼ完形	重さ：25.29g	021-05
21	H9a25 SH8903	土製土埴	最大長 最大幅	6.6 1.7	ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	ほぼ完形	重さ：16.43g	021-04
22	H9a25 SH8925	土師器皿A	口径	14.6	口：ヨコナデ、外：ナデ→ケズリ、内：ミガキ	やや密	良	外：明赤褐 5YR5/6、内：橙 5YR5/6	口1/12		020-01
23	H9a25 SH8925	土師器杯G	口径器高	11.0 4.0	口：ヨコナデ、外：ナデ・オサエ、内：ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	口2/12		020-03
24	H9a25 SH8925	土師器壺A	口径	12.4	口：ヨコナデ、外：ハケメ、内：ナデ→ケズリ？	やや密	良	外：にぶい橙 7.5YR7/4、内：にぶい橙 7.5YR7/4・にぶい黄橙 10YR7/4	口4/12		021-03
25	H9a25 SH8925	須恵器杯蓋	口径	10.1	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→カキメ→ロクロナデ、内：ロクロナデ	やや密	良	灰5Y6/1	口3/12		022-02
26	H9a25 SH8925	須恵器平瓶	胴径	16.3	外：ロクロナデ→ロクロケズリ→ロクロナデ、内：ロクロナデ	やや密	良	灰白N7/0・灰N6/0	胴部のみ		006-01
27	H9a25 SH8928	土師器皿			外：ナデ？、内：ナデ	やや密	良	明赤褐 5YR5/6	小片	線刻	008-07
28	H9 SH8928	土師器皿	口径	16.0	口：ヨコナデ、外：ハケメ5本/cm・摩減強い、内：ナデ・オサエ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	口3/12		021-02
29	G9a25 SH8920	土師器杯G	口径器高	12.6 ~ 13.4 3.8	口：ヨコナデ、外：ナデ・オサエ、内：ナデ	やや密	良	外：灰黄褐 10YR5/2、内：灰黄褐 10YR5/2・にぶい黄橙 10YR6/3	口2/12		020-05
30	G9a25 SH8920	土師器壺A	口径	14.2	口：ヨコナデ、外：ハケメ10本/cm、内：ハケメ7本/cm	やや密	良	外：橙 7.5YR7/6 ~ にぶい橙 7.5YR6/4、内：にぶい橙 7.5YR7/4	口3/12		021-01
31	H9a25 SK8909	土師器杯G	口径器高	12.0 4.3	口：ヨコナデ？、外：ナデ・オサエ、内：ナデ・オサエ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口5/12		026-01
32	H9a25 SK8909	土師器壺A	口径	16.0	口：ヨコナデ、外：ハケメ7本/cm、内：ハケメ11本→/cm	やや密	良	外：にぶい橙 5YR7/4、内：にぶい橙 7.5YR7/4	口3/12	摩耗している	025-02
33	H9a25 SK8909	土師器高杯	台径	10.6	外：工具ナデ→ヨコナデ→ナデ	密	良	橙 5YR7/6	台1/12以下		023-02
34	H9a25 SD8922	高杯	底径	10.5	外：オサエ→ヨコナデ→ナデ、内：暗文	やや密	良	橙 5YR6/6・にぶい黄橙 10YR7/4	底2/12		009-02
35	H9a25 SD8922	須恵器杯蓋	口径	10.7	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付ナデ、内：ロクロナデ	密	良	灰5Y5/1	口3/12		009-04
36	H9a25 SD8902	土師器杯C	口径器高	18.0 5.1	口：ヨコナデ、外：ナデ→工具によるケズリ、内：ナデ→ミガキ、暗文	良	良	外：灰褐 5YR5/6、内：明赤褐 5YR5/6	口5/12	内面にスス付着	025-01
37	H9a25 SD8902	土師器壺C	口径	20.4	口：ヨコナデ、外：ヨコナデ・刺突→ハケ5本/cm、内：ハケ5本/cm	やや密	良	浅黄橙 10YR8/3・にぶい黄橙 10YR5/3・灰黄褐 10YR4/2	口3/12		012-02
38	H9a25 SD8902	土師器壺A	口径	22.6	口：ヨコナデ・オサエ、外：ハケメ7本/cm、内：工具ナデ	やや密	良	浅黄橙 10YR8/3・にぶい黄橙 10YR7/3	口4/12		015-02
39	H9a25 SD8902	高杯	底径	7.5	外：面取りナデ・ハケメ7本/cm→ヨコナデ、内：？	やや密	良	浅黄橙 10YR8/3	底完存？		009-03
40	H9a25 SD8902	須恵器杯G	口径器高	10.7 2.7	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ・底部未調整、内：ロクロナデ	密	良	灰白7.5Y7/1	口5/12		026-05
41	H9a25 SD8902	須恵器高杯	口径	12.5	口：ロクロナデ、外：ロクロケズリ→ロクロケズリ後ナデ、内：ロクロナデ	やや密	良	灰白5Y7/1	口3/12	口縁歪み大きい	026-03
42	H9a25 SD8907	土師器杯G	口径	11.9	摩減の為調整不明	やや密	良	にぶい黄橙 10YR	口3/12		017-04
43	H9a25 SK8911	土師器壺	口径	24.0	口：ヨコナデ、外：ナデ？、内：ケズリ→ナデ	やや良	良	外：灰黄褐 10YR4/2、内：淡黄 2.5Y8/3	口3/12		025-03
44	H9a25 SD8872	土師器皿	口径器高	9.4 1.75	口：ヨコナデ、外：オサエ・ナデ、内：ヨコナデ・ナデ	やや密	良	浅黄橙 10YR8/3	口2/3		014-02
45	H9a24 SB8938	土師器皿	口径器高	14.7 2.7	口：ヨコナデ、外：オサエ・ナデ、内：ナデ	やや密	良	橙 7.5YR7/6	口4/12	pit19	017-02
46	H9a24 SK8882	土師器皿	口径器高	7.8 0.95	口：ナデ・オサエ、外：ナデ・オサエ、内：ナデ・オサエ	密	良	橙 7.5YR7/6	口6/12		027-04
47	H9a24 SK8882	土師器皿	口径器高	7.5 0.8	口：ナデ・オサエ、外：ナデ・オサエ、内：ナデ・オサエ	密	良	外：にぶい黄橙 10YR7/4、内：橙 5YR7/6	完形		001-03
48	H9a24 SK8882	陶器椀	口径	16.0	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ、内：ロクロナデ	密	良	外：灰白5Y7/1、内：灰黄 2.5Y7/2	口2/12	山茶椀	027-03
49	H9a24 SK8882	陶器椀	口径器高	36.2 11.9	口：ロクロナデ、外：叩打→叩打→貼付ナデ→ズリ後糸切、内：ロクロナデ	密	良	外：灰白5Y7/1、内：浅黄 2.5Y7/3	口2/12 高台1/12	内面に自然釉	001-01
50	H9a24 SK8882	常形産壺	口径	20.0	口：自然釉・銷軸・自然釉→合成、内：銷軸・自然釉	密	良	外：にぶい赤褐 5YR5/4、内：橙 5YR6/6	口2/12強		001-02
51	H9a22 SD8567	土師器皿	口径器高	12.7 2.5	口：ヨコナデ、外：ナデ・オサエ、内：ナデ	やや密	良	浅黄橙 10YR8/3	口10/12		030-02
52	H9a23 SD8567	土師器皿			外：ナデ・オサエ、ヘラ記号、内：ナデ	やや密	良	橙 2.5Y6/8	小片		008-06
53	H9a22 SD8567	緑釉陶器	底径	6.8	外：施釉（緑釉）・ロクロ使用、内：施釉（緑釉）・ロクロ使用	密	良	釉：ねこやなぎ825、素地：浅黄橙 10YR8/3	底3/12		011-03

第三-4表 第141次調査区出土遺物観察表(1)

No	出土遺構	器種	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録No
54	H9y23 SD8567	土師器 甕	口径 196	外:ヨコナデ→ハケメ3~4本/cm→ケズリ、内:ヨコ ナデ→工具ナデ→ケズリ	やや密	良	浅黄橙 7.5YR8/4・浅黄橙 10YR8/3		外面スス、内面炭化物付着	030-01
55	H9y25 SD8873	土師器 皿	口径 130	口:ヨコナデ?後オサエ?外:ヨコナデ?後オサエ? →ナデ、内:ヨコナデ?後オサエ?→ナデ	やや密	良	灰白 10YR8/2・浅黄橙 10YR8/3	口3/12		012-05
56	H9y25 SD8873	黒色土器 甕	底径 80	外:貼付高台→ナデ、内:ミガキ?	密	良	浅黄橙 10YR8/3・暗灰 N3/	5/12強		012-03
57	H9y25 SD8874	土師器 皿	口径器高 7.4 1.0	口:ナデ・オサエ、外:オサエ、内:ナデ	密	良	橙 7.5YR7/6	口完存		012-04
58	H9y25 SD8874	土師器 罎	口径 21.3	口:ヨコナデ、スス付着、外:ハケメ5~6本/cm →ケズリ、内:ナデ→工具ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3・7/4	口1/12	南伊勢系	015-01
59	H9y25 SD8874	陶器碗	底径 7.2	外:ロクロナデ→貼付高台→糸切り痕、内:ロクロ ナデ	やや粗	良	灰白 2.5Y7/1・灰黄褐 10YR5/2	3/12強		014-01
60	H9y25 SD8875	土師器 罎	口径 33.9	口:ヨコナデ、外:ハケメ5~6本/cm→ケズリ、内: ナデ→ケズリ	やや密	良	外:にぶい黄橙 10YR7/3 内:にぶい橙 7.5YR7/4	口1/12	南伊勢系、外面にスス付着	024-01
61	H9y23 SD8887	須恵器 皿B	口径器高 25.0 5.0	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→貼付高台→ロク ロケズリ、内:ロクロナデ・同心円?	密	良	灰白 2.5Y7/1	口1/12		010-05
62	H9y23 SD8887	土師器 皿	口径 12.6	口:ヨコナデ、外:オサエ、内:オサエ・ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3・にぶい橙 7.5YR6/4	口4/12		017-03
63	H9y23 SD8887	土師器 皿	口径器高 13.0 2.6	口:ヨコナデ、外:オサエ・ナデ、内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口完存		015-06
64	H9y23 SD8887	土師器 皿	口径器高 14.3 2.4	口:ヨコナデ、外:オサエ、内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口6/12		015-05
65	H9y23 SD8887	土師器 皿	口径器高 14.3 2.6	口:ナデ、外:オサエ、内:ナデ	やや密	良	浅黄橙 10YR8/3	口3/12	油煙痕	008-04
66	H9y23 SD8887	土師器 皿	口径器高 7.9 1.2	口:オサエ・ナデ、垂みあり、外:オサエ・ナデ、内: オサエ・ナデ	やや密	良	灰白 10YR8/2	口10/12		008-03
67	H9y23 SD8887	土師器 罎	口径 37.4	外:オサエ・ナデ→ハケメ7本/cm、内:工具ナデ	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4・にぶい黄橙 10YR7/4	口3/12	南伊勢系	011-01
68	H9y23 SD8887	陶器碗	口径器高 14.9 4.8	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→貼付ナデ→糸切 り痕、内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 2.5Y7/1	口9/12	台完存、底部モミガラ痕	008-02
69	H9y23 SD8887	陶器碗	口径器高 15.0 4.6	口:ロクロナデ・自然釉、外:ロクロナデ→貼付ナデ →糸切り痕→モミガラ痕、内:ロクロナデ・自然釉	やや密	良	灰白 2.5Y7/1	口10/12	台完存	008-01
70	H9y23 SD8887	陶器碗	口径器高 14.4 5.3	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→貼付高台・モミ ガラ痕→ロクロケズリ、内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 N7/0	口完存	台は完存	031-02
71	H9d25 SZ8919	縄文土器		口:ナデ、沈線あり	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁小片		011-05
72	H9d25 SZ8919	磨製石斧	長幅 17.8 7.3	刃部に磨りが残る。全体的に敲打される。		良		2/3程度	重さ:1130g ハイアロクラスタイト	033-01
73	H9d25 SZ8919	須恵器 高杯	口径器高 12.4 11.0	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→ ロクロナデ、内:ロクロナデ	粗	良	灰白 N7/0・灰白 N8/0	口5/12 底6/12弱	外内面に焼きぶくれあり	013-03
74	H9d25 SZ8919	土師器 杯G	口径器高 11.25 3.85	口:ヨコナデ、外:ナデ?、内:ナデ	やや密	良	浅黄橙 10YR8/4	口4/12		024-03
75	H9d25 SZ8919	土師器 杯A	口径器高 11.25 2.8	口:ヨコナデ、外:オサエ→ナデ、内:ナデ	密	良	外:橙 7.5YR6/6、内:橙 5YR7/8	口3/12		027-02
76	H9y25 SZ8919	土師器 杯A	口径 17.0	口:工具ナデ?・ミガキあり?、外:ミガキあり? →ケズリ?、内:工具ナデ?	密	良	橙 5YR6/8	口2/12		014-03
77	H9d25 SZ8919	土師器 高杯	口径 19.5	口:調整不明瞭、外:オサエ・ナデ、内:調整不明瞭	やや密	良	橙 5YR7/6・7/8	口6/12		011-02
78	H9d25 SZ8919	土師器 高杯		外:ハケメ?→ツナギの痕跡→面取りナデ→ツナギ メ→ヨコナデ→ナデ、内:ケズリ	密	良	外:浅黄橙 10YR8/4、内:浅黄橙 7.5YR8/4	裾部1/12		027-06
79	H9d25 SZ8919	罎付内筒形 土器	口径(筒内) 19.4	口:ヨコナデ、外:ヨコナデ、貼付ナデ→ハケメ8 本/cm・6本/0.8cm、内:ケズリ	密	良	外:にぶい黄橙 10YR7/4、内:浅黄橙 10YR8/4	口完存		027-01
80	H9y25 SZ8919	土師器 甕A	口径 15.0	口:ヨコナデ、外:ハケ後ナデ→ハケメ→ヘラケズリ、 内:ハケメ→ヘラケズリ	やや密	良	橙 2.5YR6/6・浅黄橙 10YR8/4	口2/12	内面炭化物付着	023-01
81	H9y25 SZ8919	土師器 甕C	口径 21.0	口:ヨコナデ、外:ヨコナデ→ハケメ、内:ナデ・ ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口4/12		012-01
82	H9d25 SZ8919	土師器 甕C	口径 19.8	口:ヨコナデ・ハケ、外:ハケメ5~8本/cm、内: ナデ→ハケメ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口4/12		018-01
83	H9d25 SZ8919	土師器 罎B	口径 39.0	口:ヨコナデ、外:ハケメ、内:ハケ後ケズリ	密	良	外:にぶい橙 7.5YR7/4、内:浅黄 2.5Y7/4	口4/12	内外面摩耗、把手貼付	028-01
84	H9 SZ8919	須恵器 杯蓋	口径 33.0	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ、内: ロクロナデ	密	良	灰 5Y6/1	口1/12		018-03
85	H9y25 SZ8919	須恵器 杯蓋	口径器高 10.5 2.8	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→ 貼付ナデ、内:ロクロナデ	密	良	灰白	口3/12		018-05
86	H9y25 SZ8919	須恵器 杯蓋	口径器高 14.6 3.8	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→ 貼付ナデ、内:ロクロナデ	粗	良	灰 N6/0・灰 N5/0	口7/12弱		013-02
87	G9y25 SZ8919	須恵器 杯A	口径器高 12.9 4.0	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ヘラ切り後ナデ、 内:ロクロナデ	密	良	黄灰 2.5Y6/1・5/1、暗灰 N3/0	口2/12		016-08
88	H9y25 SZ8919	須恵器 杯G	口径器高 9.7 4.0	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ヘラ切り後ナデ、 内:ロクロナデ→一方ナデ	密	良	灰 7.5Y5/1	口9/12		018-02
89	H9d25 SZ8919	須恵器 杯G	口径器高 10.0 2.9	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ、内:ロクロナデ →一方ナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1	口1/12		018-04
90	H9d25 SZ8919	須恵器 杯G	口径器高 11.0 4.25	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ケズリ後ナデ、内: ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口4/12		027-05
91	H9y25 SZ8919	須恵器 長頸壺	口径 頸部径 9.1 5.3	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ・凹線2条、内: ロクロナデ→ナデ	密	良	灰 N6/0・5/0	口5/12 頸完存		016-01
92	H9y25 SZ8919	土師器 皿	口径器高 12.3 2.6	口:ヨコナデ、外:オサエ・ナデ、内:ヨコナデ→ ナデ	やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/4・橙 7.5YR7/6	口11/12		013-01
93	G9y25 SZ8919	釘	長幅 16.6 1.0			良		完形	厚さ:0.4cm	029-05
94	H9y25 Pi2	平瓦		外:布目・コビキ痕→ケズリ、内:縄目・コビキ痕	密	良	にぶい黄橙 10YR6/4・7/4・橙 7.5YR7/6	1/2程度	G9y25 包含屑遺物と接合	019-01
95	H9y24 Pi14	土師器 皿A	口径器高 15.2 1.8	口:ヨコナデ、外:ナデ・オサエ、内:ナデ	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口11/12		024-02
96	H9y25 Pi5	陶器碗	高台径 7.3	外:叺付→貼付後ヨコナデ→糸切り痕、内:ロク ロナデ、自然釉	やや密	良	灰白 2.5Y7/1	高台6/12	底部外面黒青「×」、垂みあり。 底部モミガラ痕	029-02
97	H9y25 Pi3	鉄鏝	刃長 最大幅 4.9 1.5			良		1/2程度		029-07
98	H9y25 包	敲石	幅 12.9 3.5	敲打痕		良		ほぼ完形	790g	029-04
99	H9y25 包	土師器 杯G	口径器高 11.6 3.7	口:ヨコナデ、外:ナデ・オサエ、内:ナデ	やや密	良	外:にぶい橙 7.5YR7/4、内:橙 7.5YR7/6	口5/12		004-02
100	H9y25 上包	土師器 杯A	口径 17.2	口:ヨコナデ、外:ミガキ→ケズリ後ミガキ、内: ミガキ、暗文	やや密	良	橙 2.5YR6/6・6/8	口2/12		009-01
101	H9y23 上包	土師器 杯	口径器高 11.2 3.7	口:ヨコナデ、外:ナデ・オサエ、内:ナデ	密	良	淡黄 2.5Y8/3	4/12	内外面摩耗	002-01
102	H9y25 上包	土師器 甕A	口径器高 11.5 10.9	口:ヨコナデ、外:ハケメ→ケズリ→ナデ、内:ナデ・ オサエ	やや密	良	外:黒褐 10YR3/2・浅黄橙 10YR8/3、内: にぶい黄橙 10YR5/3・浅黄橙 10YR8/3	口5/12	口縁炭化物、外面スス付着	005-01
103	H9y23 上包	不明土製品			密	良	浅黄橙 10YR8/3・暗灰 N3/0		土馬の胴部か	010-02
104	H9d25 上包	須恵器 杯蓋	口径器高 10.2 3.7	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→ 貼付ナデ、内:ロクロナデ	密	良	灰 N6/0	口完存		016-02
105	H9y25 上包	須恵器 杯蓋	口径 14.6	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→ ツマミ貼付ナデ、内:ロクロナデ→ナデ	密	良	外:灰 N5/0・暗灰 N3/0、内:灰 N5/0	4/12		002-06
106	H9d25 上包	須恵器 杯蓋	口径器高 16.5 2.2	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→ 貼付後ナデ、内:ロクロナデ→乱ナデ	密	良	灰 7.5Y5/1	口3/12		016-04

第Ⅲ-5表 第141次調査区出土遺物観察表(2)

ることや第100次調査検出の柵の存在を考え合わせると、初期斎宮の位置を考える上で貴重な成果を得ることができた。(小濱 学)

<註>

- (1) 駒田利治・泉雄二・倉田直純「斎宮跡の土器」(『斎宮跡発掘調査報告』I 斎宮歴史博物館、2001年)を参照した。
- (2) (1)の文献及び『平城宮発掘調査報告』XIV (奈良国文化財研究所、1993年)や『古代の土器1 都城の土器集成』(古代の土器研究会、1992年)を参照した。
- (3) 上村安生「伊勢・伊賀地域」(『弥生土器の様式と編年 東海編』木耳社、2002年)
- (4) 木曾川学研究所 渡邊博人氏のご教示による。
- (5) 藤澤良祐「山茶碗と中世集落『尾呂』」(瀬戸市教育委員会、1990年)、「山茶碗研究の現状と課題」(『研究紀要』第3号

- 三重県埋蔵文化財センター、1994年)を参照した。
- (6) 伊藤裕偉「VI 調査のまとめと検討」(『岩出地区内遺跡群発掘調査報告』、三重県埋蔵文化財センター、1996年)を参照した。
- (7) 伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海をみる」(『鍋と甕-そのデザイン-』東海考古学フォーラム、1996年)を参照した。
- (8) 三重県埋蔵文化財センター 伊藤裕偉氏のご教示をえた。
- (9) 『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』(太宰府市教育委員会、2000年)を参照した。

No.	出土遺構	器種	法量 (cm)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色 調	残存度	備考	登録No.
			口径	器高							
107	H9n23 上包	須恵器 皿	口径 156 器高 29		口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ、内:ロクロナデ	密	良	外:灰5Y6/1、内:にぶい黄25Y6/3	4/12		002-03
108	H9d25 上包	須恵器 杯	口径 104 器高 29		口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ヘラ切りナデ、内:ロクロナデ→ナデ	密	良	灰N5/0	口1/12		016-03
109	H9b25 上包	須恵器 杯	口径 120 器高 47		口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ、内:ロクロナデ	やや密	良	外:灰N5/0・N4/0、内:灰N5/0	口3/12		004-01
110	H9c23 上包	須恵器 杯B	口径 98 器高 9.8		外:ロクロナデ→ロクロケズリ→高台貼付ナデ→ロクロケズリ、内:ロクロナデ	密	良	外:褐灰10YR5/1、内:灰黄褐10YR5/2	底部8/12		002-02
111	H9c25 上包	須恵器 短頸壺	口径 59 器高 65		口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ヘラケズリ後ナデ、内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白5Y7/1・灰白5Y6/1	口完存		013-04
112	H9 上包	円面硯	胴部径 15.4		外:ロクロナデ?、内:ロクロナデ?	やや粗	良	灰N6/0・灰N5/0	1/2		014-04
113	H9d25 上包	須恵器 壺			ナデ	密	良	青灰5B6/1	脚部のみ		011-04
114	H9f23 上包	土師器 碗	口径 165 器高 4.8		口:ロクロナデ、スス付着、外:ロクロナデ、スス付着→糸切り痕、内:ロクロナデ	やや粗	良	灰黄褐10YR5/2	口1/12	ロクロ製成形	017-05
115	H9n23 上包	青磁 碗	口径 159		口:ロクロナデ後施釉、外:ロクロナデ後施釉、内:ロクロナデ後施釉	密	良	灰白2.5Y7/1・抹茶838 釉	口2/12	龍泉窯産	010-03
116	H9c25 下包	土師器 杯蓋	口径 166 器高 3.4		口:調整不明瞭、外:調整不明瞭→貼付ナデ、内:調整不明瞭	やや密	良	明赤褐2.5YR5/8・橙5YR6/8	口2/12		015-03
117	H9d25 下包	土師器 杯A	口径 152 器高 3.6		口:ヨコナデ、外:ヨコナデ→ナデ、内:ヨコナデ→ナデ	密	良	外:橙2.5YR6/8、内:明赤褐2.5YR5/8	4/12	外内面摩耗	003-02
118	H9c25 下包	土師器 皿A	口径 230		口:ヨコナデ、外:オサエ・ナデ・工具痕?、内:ケズリ	密	良	橙5YR6/6	口2/12		002-05
119	H9c25 下包	銅付円筒形 土器	口径 188		口:ヨコナデ、外:ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ→ハケメ少残、内:ハケメ4本/cm	密	良	外:にぶい黄橙10YR7/4、内:橙5YR7/6	口2/12強	外内面摩耗	003-03
120	H9b25 下包	須恵器 杯蓋	口径 105		口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付ナデ、内:ロクロナデ	密	良	外:灰N6/0、内:灰N4/0	口5/12		009-05
121	H9c25 下包	須恵器 杯蓋	口径 167 器高 3.3		口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付ナデ、内:ロクロナデ、ヘラ記号	やや密	良	灰白N7/0	口4/12 7分完存		010-01
122	H9h25 下包	須恵器 杯G	口径 96 器高 3.2		口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ヘラ切後ナデ、内:ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	口4/12		016-05
123	H9h25 下包	須恵器 杯G	口径 94 器高 2.95		口:ロクロナデ、自然釉、外:ロクロナデ→ヘラ切り後ナデ、自然釉、内:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	口5/12		016-06
124	H9c25 下包	須恵器 杯G	口径 98 器高 3.0		口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ヘラ切り後ケズリ・ナデ、内:ロクロナデ	密	良	灰7.5Y6/1	口6/12		003-01
125	H9c25 下包	須恵器 平瓶	体部径 138		外:ロクロナデ→貼付浮文→カキメ→ロクロケズリ、内:ロクロナデ	やや密	良	外:灰7.5Y6/1・灰N5/、内:灰7.5Y6/1・灰N5/			005-02
126	H9c25 下包	須恵器 壺	頸部径 30		外:ロクロナデ・沈線→ロクロケズリ、内:ロクロナデ	やや密	良	外:灰N5/0～4/0、内:暗灰黄2.5Y5/2	ほぼ完形	穿孔を抜く時の土が内部に残存。一方のみ穿孔。	004-04
127	H9d24 下包	白磁 碗	口径 144		口:ロクロナデ後施釉、外:ロクロナデ後施釉・ケズリ痕、内:ロクロナデ後施釉	密	良	灰白N8/0・灰白7.5Y7/1 釉	口1/12		010-04

第Ⅲ-6表 第141次調査区出土遺物観察表 (3)

調査次数	大地区	グリッド	遺構・層名	緑釉破片数	備 考
141	H 9 y 2 2	A 19	S D 8567	1	
141	H 9		排土中	1	

第Ⅲ-7表 第141次調査区緑釉陶器出土地点・破片数一覧



調査区東端部分全景（北から）



調査区東側部分全景（西から）





調査区西側部分全景 (北東から)



調査区発掘体験塾部分全景 (東から)

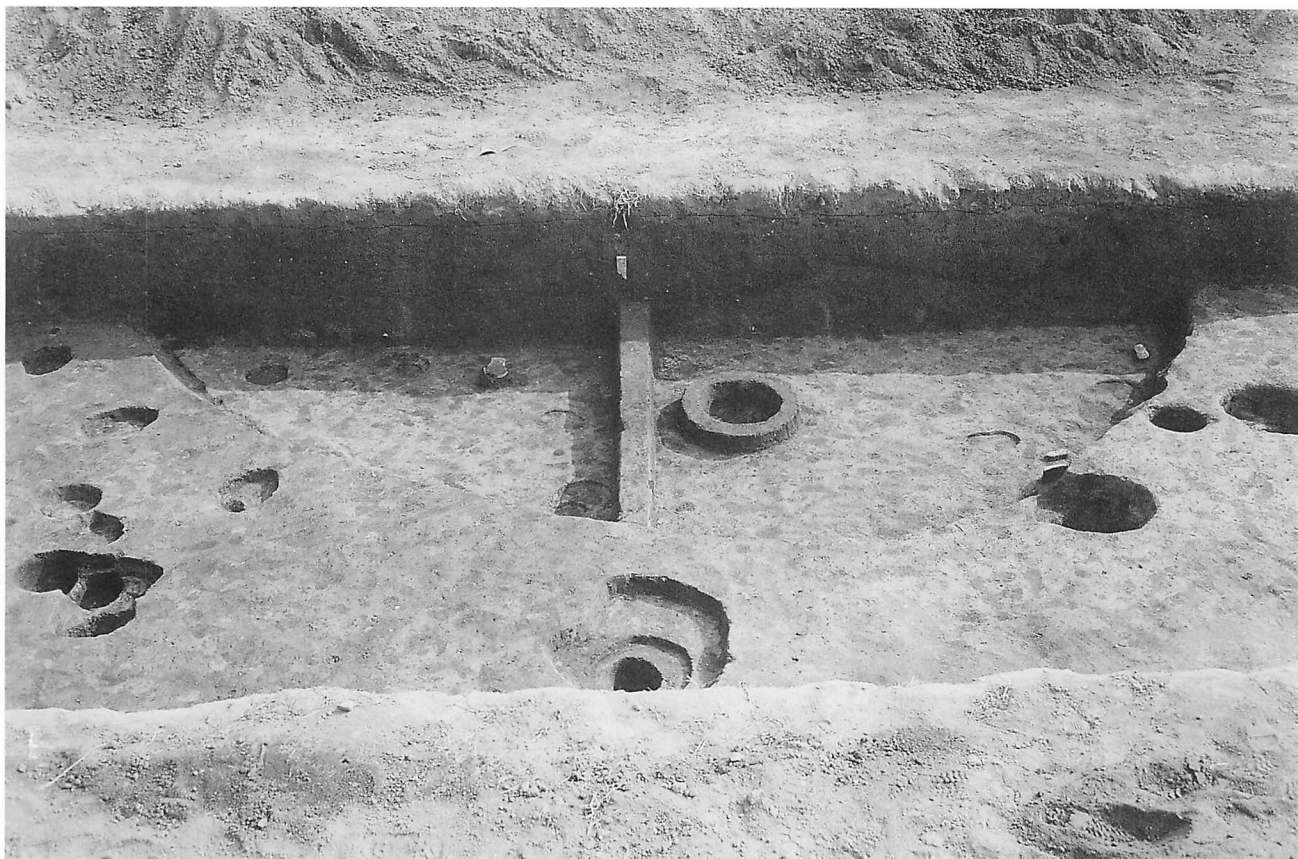


S H 8903・8917 (南西から)



S H 8917 出土状況 (南東から)

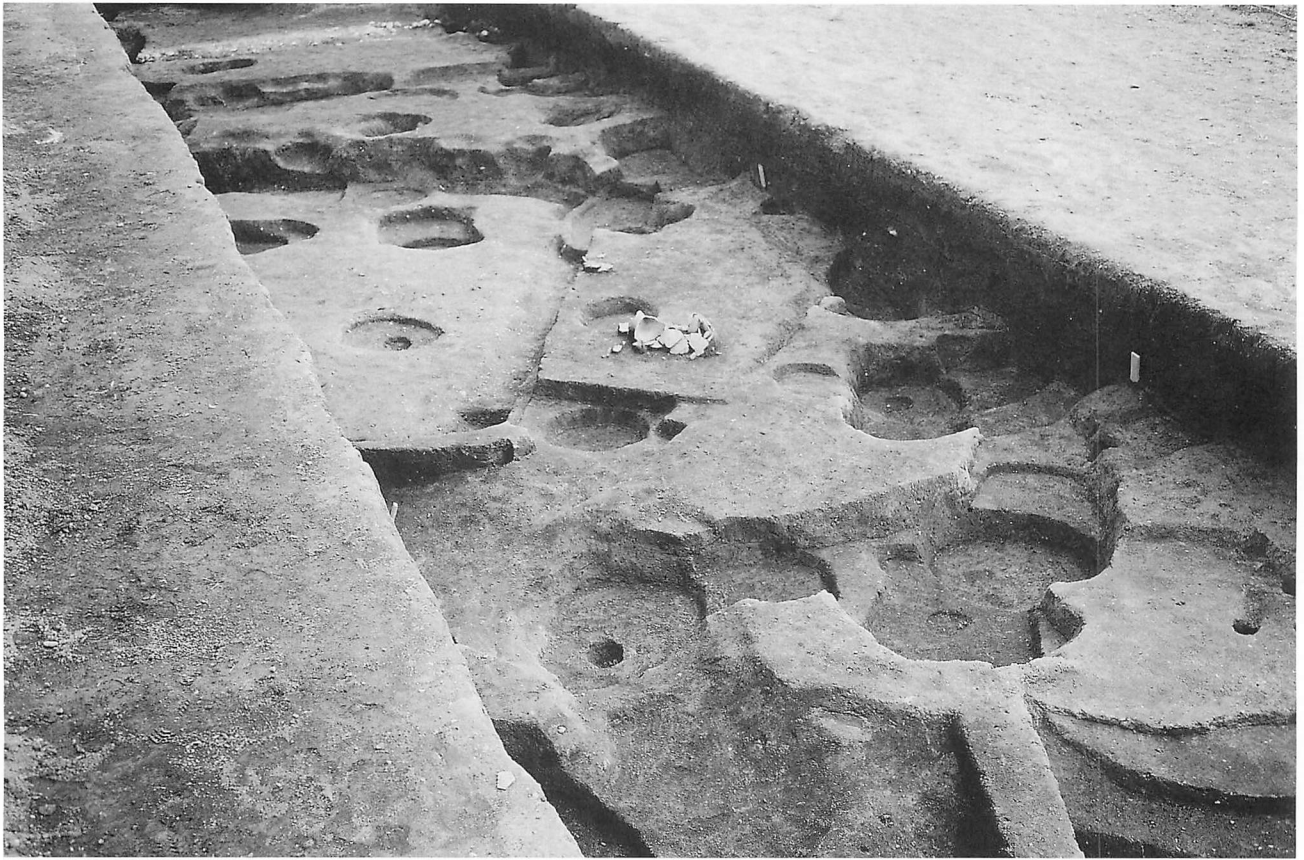




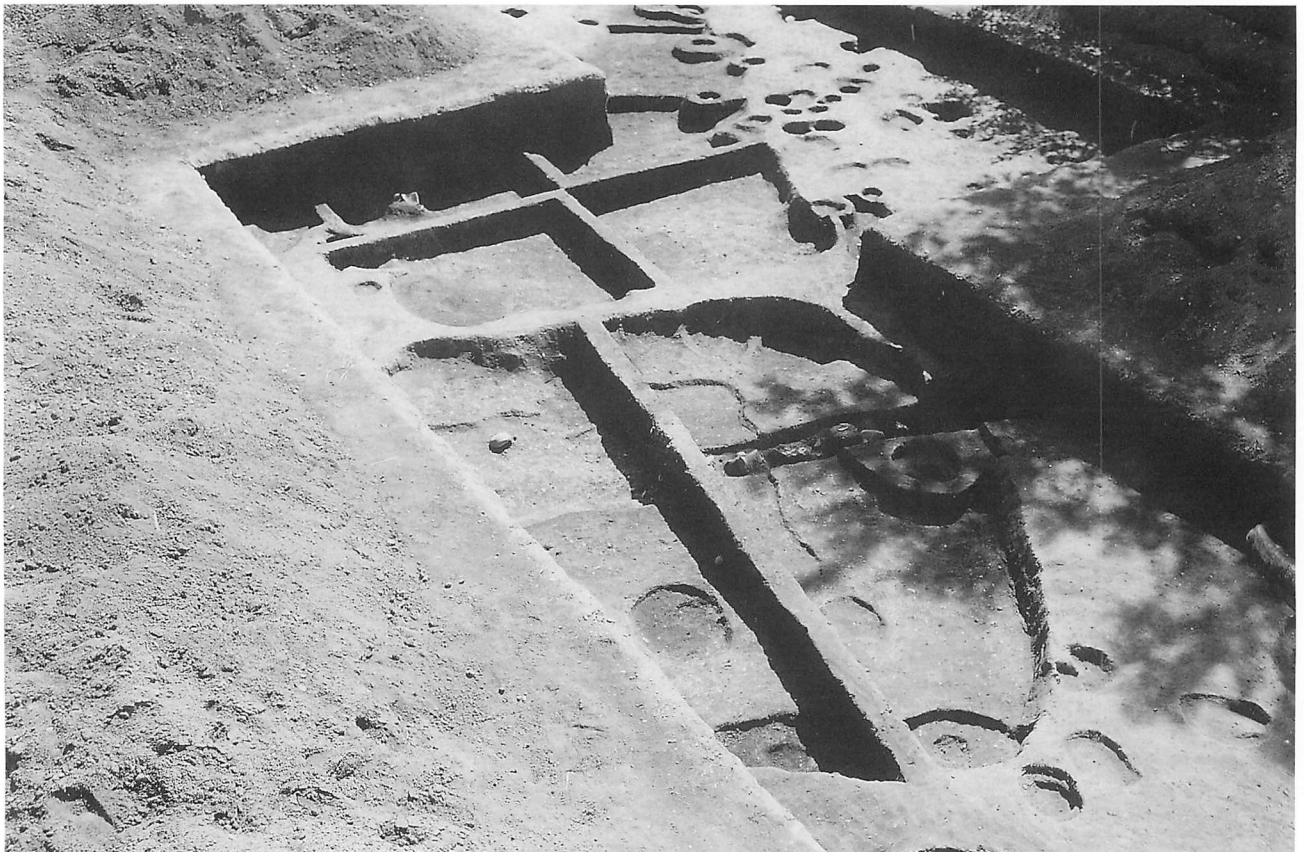
S H 8885 (北から)



S X 8880、S K 8883 (南東から)



S B 8935・8936 (北西から)

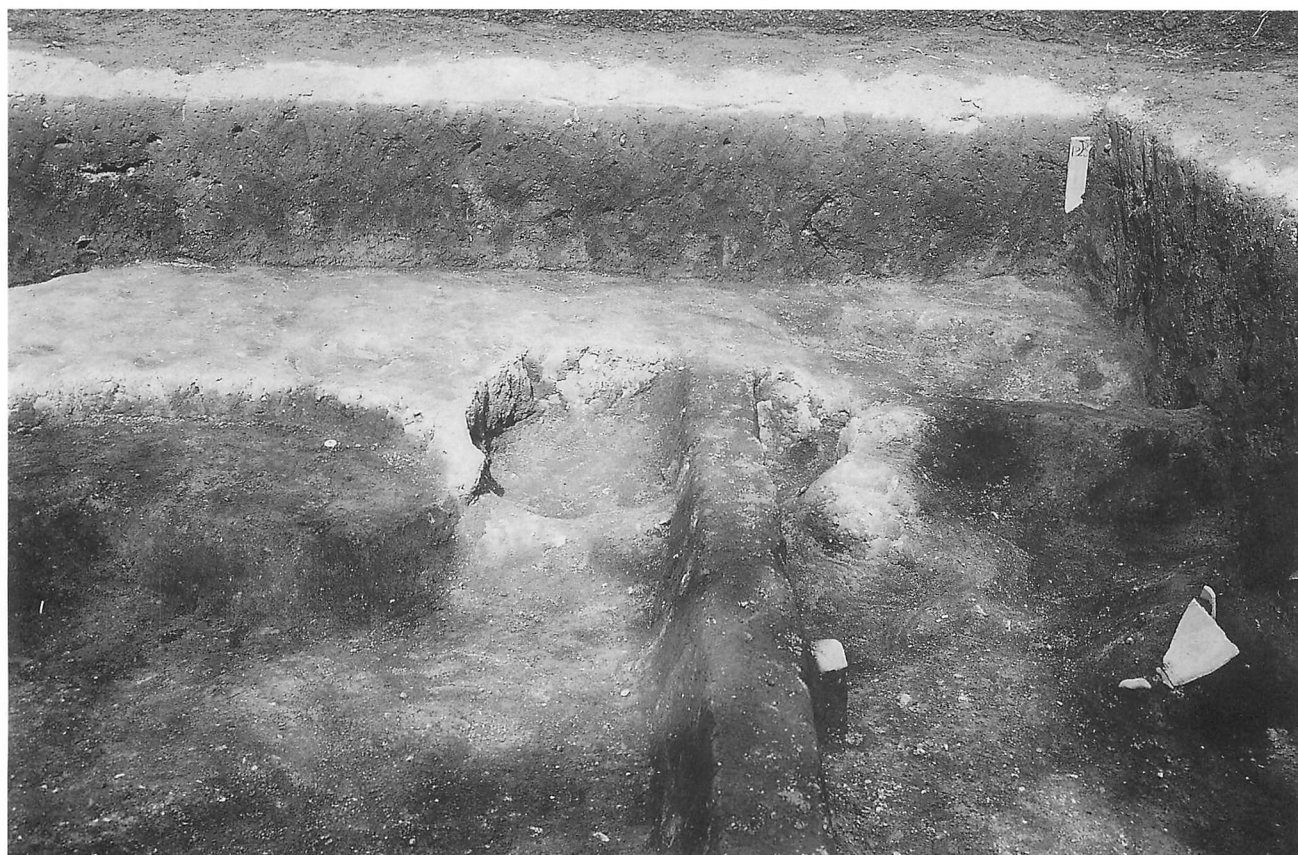


S H 8888・8891 (北西から)

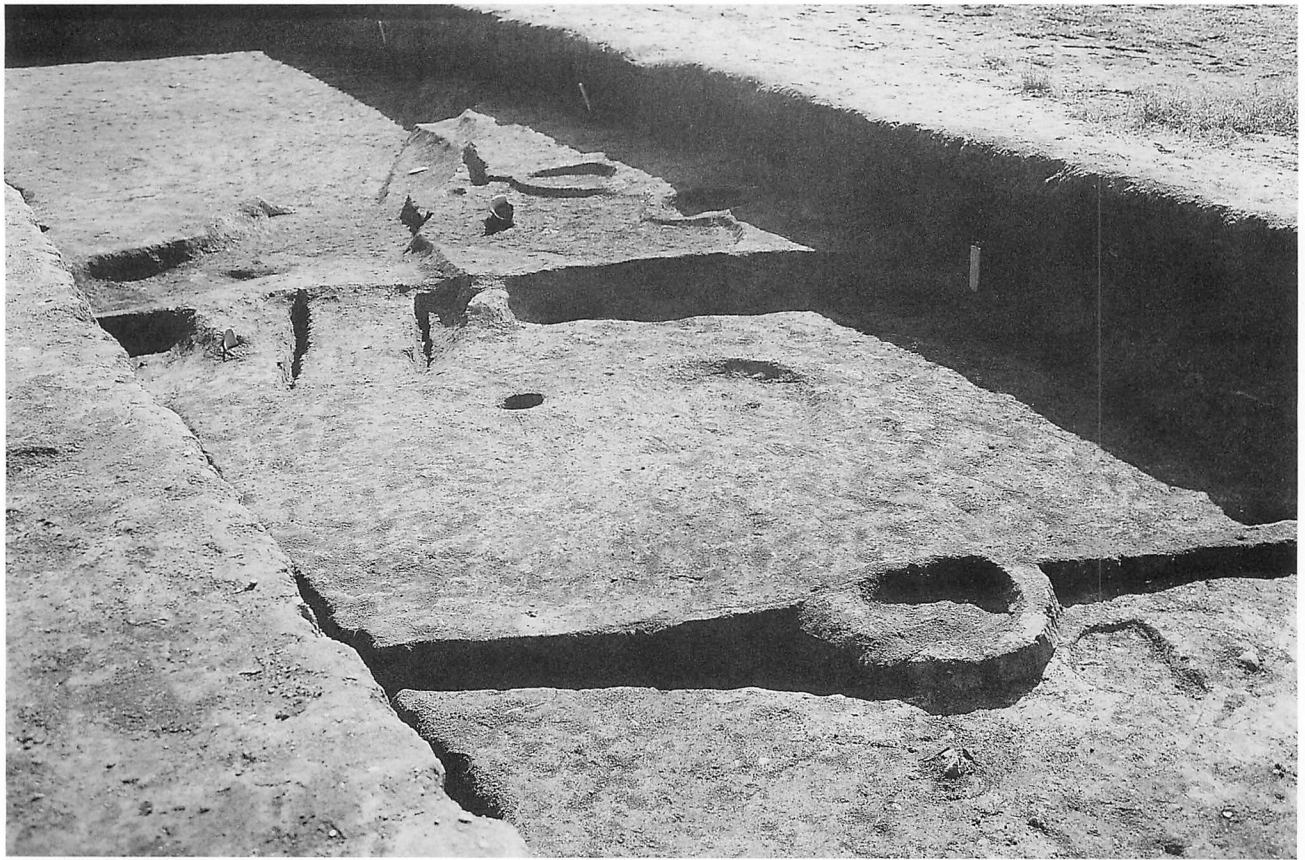




S H 8888 (南西から)



S H 8888 竈跡 (南から)



SH 8925 (北西から)



SH 8925 竈跡 (西から)





S H 8893 竈跡 (北から)



S F 8945 (南西から)



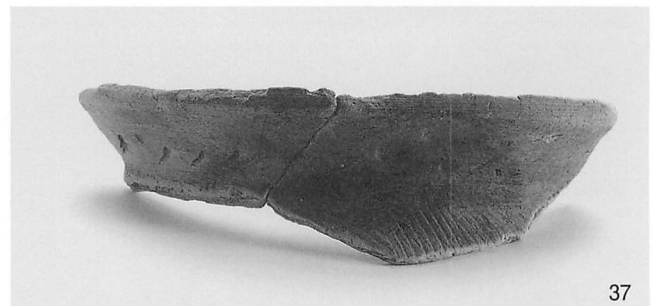
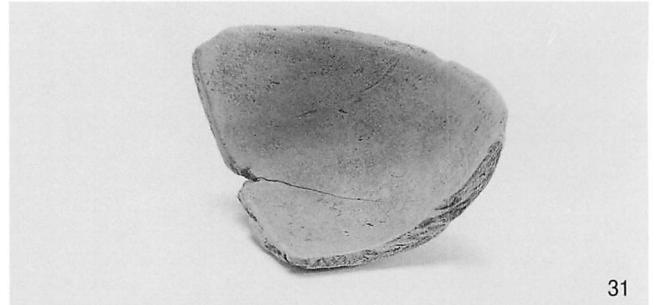
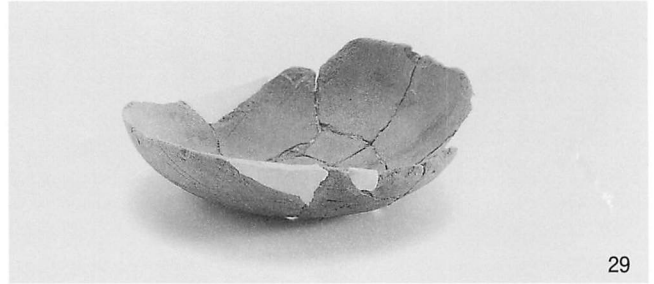
S Z 8919 出土状況 (北西から)

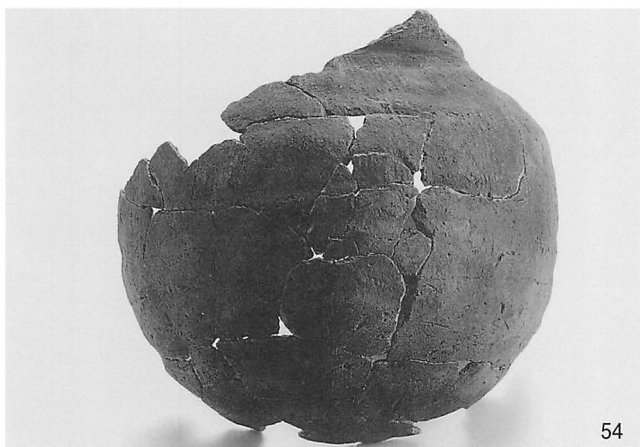
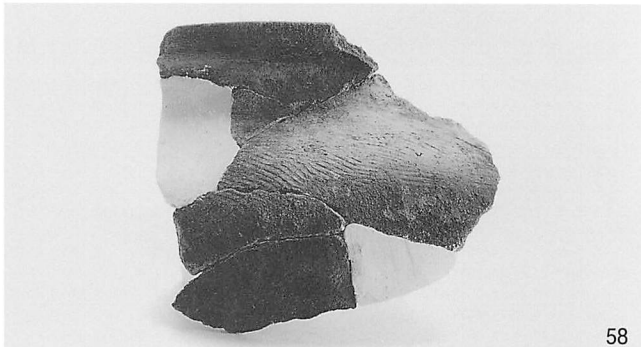


S Z 8919 掘削状況 (北西から)

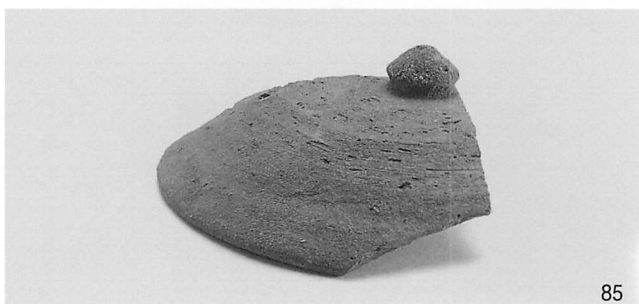
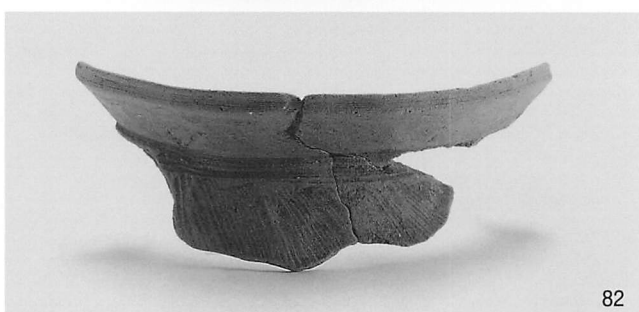


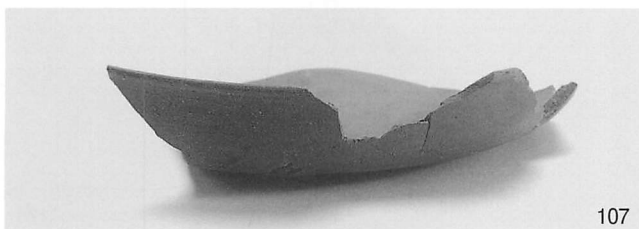
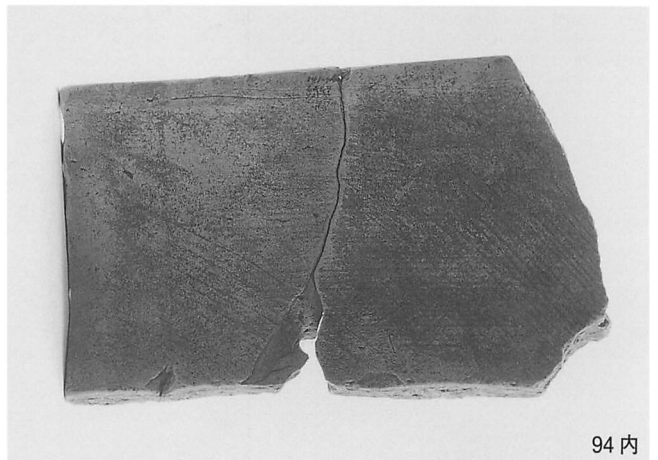
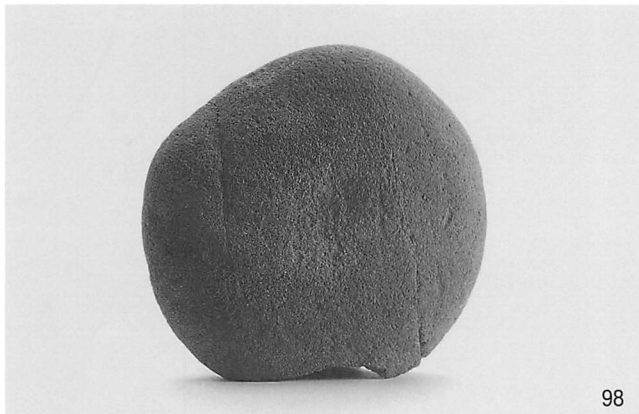
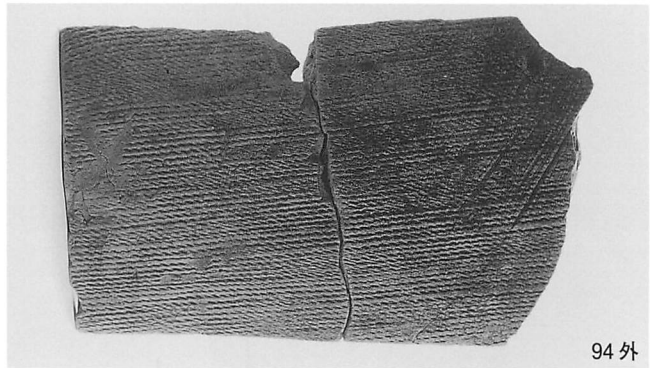
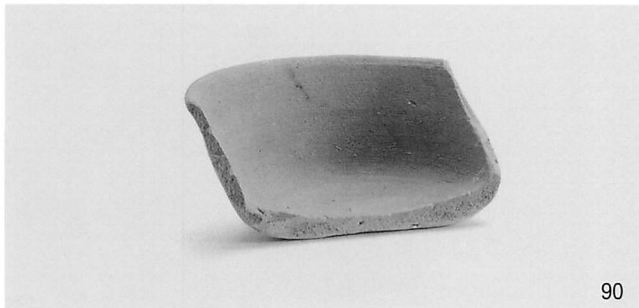
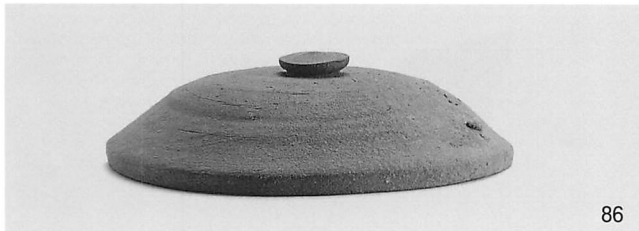


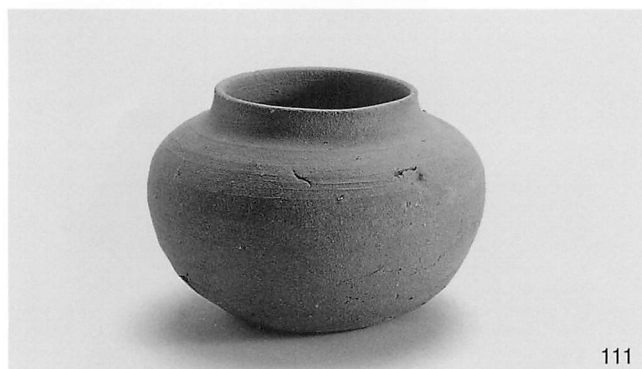
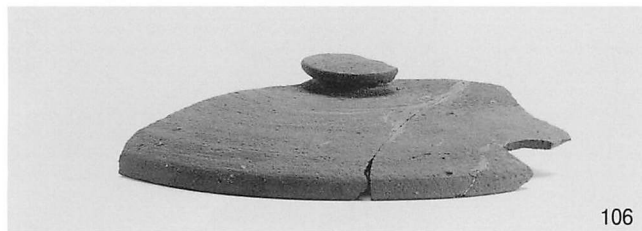












# 報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきさいくうあと へいせいじゅうごねんどはっくつちょうさがいほう							
書名	史跡斎宮跡 平成 15 年度発掘調査概報							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	竹内英昭・小濱学・才木薫							
編集機関	斎宮歴史博物館							
所在地	〒 515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503 TEL0596-52-7027							
発行年月日	西暦 2005 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° , ' , ''	東経 ° , ' , ''	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さいくうあと 斎宮跡	たきぐんめいわちやう 多気郡明和町 さいくうたけかわ 斎宮・竹川	24442	210	34° 31' 55" ～ 34° 32' 30"	136° 36' 16" ～ 136° 37' 37"	20030401 ～ 20040331	535 ㎡ (第 140 次) 505 ㎡ (第 141 次)	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
斎宮跡第 140 次	官 衙	奈良 平安		掘立柱建物 土坑		土師器 緑釉陶器 製塩土器	須恵器 灰釉陶器 鉄釘 鉄鎌	寮庫と類似する 遺構配置
斎宮跡第 141 次	官衙・集落	弥生 奈良 平安 鎌倉 室町以降		方形周溝墓 竪穴住居 掘立柱建物 土坑 道路跡		弥生土器 土師器 緑釉陶器 陶器 (山茶碗・山皿)	磨製石斧 須恵器 灰釉陶器	ハイアロクラス タイト製の磨製 石斧が出土
要 約	<p>第 140 次は、史跡斎宮跡の東部の方格地割内の主神司推定区画の調査で、平安時代前期を中心とした建物群の変遷が確認された。土坑から平安時代前期の土器が一括出土した。</p> <p>第 141 次は、史跡を横断する奈良時代古道から分岐すると思われる北東～南西方向に延びる奈良時代の道路跡が確認された。</p>							

---

史跡 齋宮跡

平成15年度

発掘調査概報

2005年3月

編集・発行 齋宮歴史博物館

印刷 文化印刷有限会社

---



